

【53-1】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>松本 直樹</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>特に臨床薬理学(Clinical Pharmacology)をテーマに、最新の医学研究を行う事を目標とする。</p> <p>薬理学は薬物治療学の基礎であり、臨床薬理学は合理的薬物治療を行うための応用科学分野である。さらに最近では創薬医学という医薬品開発のための学問分野がこれらの中に組み込まれてきた。本来、病気とは生体の生理的・生化学的機能が何らかの原因によって障害された状態である。薬物はその障害された生体機能を回復するために投与される。しかし、薬物は本来、生体にとって異物であるため投与法を誤ると有害作用が現れてしまう。</p> <p>そこで、本コースではすべての疾患分野で使用される可能性のある薬物について、薬物の生体機能への作用(薬効)、その作用機序(薬理作用)、生体の薬物処理機能(薬物動態学)さらに薬効の有害作用、相互作用等について、実験動物からヒト(臨床研究)に至るまでの研究、分子生物学的研究手法からヒトを対象とした臨床試験等々を教育する。また特に臨床研究を実施する上で必須である倫理的配慮について医療倫理学を教育する。</p> <p>これらの研究・教育により学位(医学)取得に足る学識と研究技法を身につけ、薬物治療に関する医学研究と臨床各科における合理的薬物治療を実施できるようにする。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の薬物動態学的解析研究(動物、ヒトを対象として)</li> <li>2. 薬物の非臨床(動物)段階での安全性の検討</li> <li>3. 薬物の吸収・代謝・排泄に係わる酵素・トランスポーターによる薬物動態への影響</li> <li>4. ヒトの薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子多型と薬物の有効性・安全性の検討</li> <li>5. 創薬に係わる社会的要因(倫理的・情報伝達等)の検討</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	臨床薬理学特論		必修/選択 必修
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線 3531
単位数	3単位(前期 1.5 後期 1.5)	履修年次	1年
テーマと目的	臨床薬理学の基礎を学ぶ		
講義計画	臨床薬理学の基本事項を学び、臨床試験を科学的と倫理的適正に実施する知識・方法を学ぶ		
達成目標	1) 臨床試験の科学的、倫理的实施方法を説明できる 2) 薬物動態学の基礎を説明出来る 3) 科学的薬効評価について説明できる 4) 特殊患者・特殊疾患での基本的薬物治療を説明できる		
教科書・参考書	臨床薬理学 (医学書院) 臨床試験ベーシックナビ (医学書院) ローレンス臨床薬理学 (西村書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間		
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1-3	臨床試験の科学的側面(総論1)	1-3	科学的薬効評価の基礎(1)
4-6	同 (総論2)	4-6	同 (2)
7-9	臨床試験の倫理的側面(総論1)	7-9	臨床試験のデザイン
10-12	同 (総論2)	10-12	ランダム割付の意義と実際
13-15	薬物動態学の基礎(総論1)	13-15	プラセボ使用の意義と実際
16-18	同 (総論2)	16-18	盲検化試験の意義と実際
19-21	同 (総論3)	19-21	特殊患者での臨床試験
22-24	薬物相互作用の基礎と実際	22-24	特殊疾患での臨床試験

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	臨床薬理学特論実習		必修/選択 必修
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線 3531
単位数	4単位(前期3 後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	臨床薬理学の基礎を実践する		
講義計画	臨床研究を科学的と倫理的適正に実施する知識・方法を学ぶ。		
達成目標	1) 臨床試験の科学的、倫理的実施方法を説明できる 2) 薬物動態学の基礎を説明出来る 3) 科学的薬効評価について説明できる 4) 特殊患者・特殊執権での基本的薬物治療を説明できる		
教科書・参考書	臨床薬理学 (医学書院) 臨床試験ベーシックナビ (医学書院) ローレンス臨床薬理学 (西村書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間		
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1-6	臨床研究の科学性・倫理性総論(1・2)	1-2	実験器具の操作
7-12	アドレナリン作動薬・遮断薬の薬理(1・2)	3-4	実験試薬の調整
13-18	コリン作動薬・遮断薬の薬理(1・2)	5-6	実験標本の作製
19-24	神経節作動薬の薬理(1・2)	7-8	消化器系薬物実習の基本
25-30	麻酔薬のPK/PD(1・2)	9-10	消化管に対するコリン作動薬
31-36	薬物代謝酵素阻害薬の薬理(1・2)	11-12	消化管に対するコリン遮断薬
37-42	薬物代謝酵素誘導薬の薬理(1・2)	13-14	実験結果の解析
43-48	総合討論(準備)と発表	15-16	総合討論(準備)と発表

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	薬物治療学		必修/選択	必修
担当教員	飯利太朗	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	3単位(前期1.5 後期1.5)	履修年次	2年	
テーマと目的	薬物治療に必要な薬理学の基礎を学ぶ。			
講義計画	薬理学総論及び各疾患における代表的な薬物の作用機序を学ぶ			
達成目標	1.薬物の総論が説明できる。 2.中枢、末梢神経、循環器系、消化器系、抗炎症薬等について代表的薬物の作用機序を説明できる。			
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (第12版、広川書店)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1-3	薬物の作用機序の基礎(1)		1-3	消化器系薬物の作用機序(1)
4-6	薬物の作用機序の基礎(2)		4-6	消化器系薬物の作用機序(2)
7-9	薬物の作用機序の基礎(3)		7-9	循環器系薬物の作用機序(1)
10-12	自律神経系薬物の作用機序(1)		10-12	循環器系薬物の作用機序(2)
13-15	自律神経系薬物の作用機序(2)		13-15	化学療法薬の作用機序
16-18	神経伝達物質受容体と薬物応用		16-18	免疫系薬物の作用機序
19-21	中枢神経系薬物の作用機序(1)		19-21	代謝系薬物の作用機序(1)
22-23	中枢神経系薬物の作用機序(2)		22-23	代謝系薬物の作用機序(2)
24	前期総合討論と発表		24	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	薬物治療学実習		必修/選択	必修
担当教員	武半優子	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	4単位(前期3 後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	薬物治療に必要な薬理学の基礎を学び、実践する。			
講義計画	薬理学総論及び各疾患における代表的な薬物の作用機序を学び、実践する。			
達成目標	1.薬物の総論を説明し、実践する。 2.中枢、末梢神経、循環器系、消化器系、抗炎症薬等について代表的薬物の作用機序を説明し、実践する。			
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (第12版、広川書店)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容
1-6	循環器系薬物実習の基本(1)		1-6	カフェインの臨床薬理
7-12	循環器系薬物実習の基本(2)		7-12	運動負荷による薬効評価
13-18	実験機器の操作		13-18	腎機能における薬効評価
19-24	実験試薬の調整		19-24	総合討論と発表
25-30	実験標本の作成			
31-36	心臓に対するアドレナリン作動薬			
37-42	心臓に対するアドレナリン遮断薬			
43-47	心臓に対するコリン作動薬			
48	総合討論と発表			

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	遺伝薬理学		必修/選択	必修	
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線3531		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	遺伝的背景を念頭においた薬物治療を理解する。				
講義計画	薬物動態における遺伝的背景。 薬物治療の効果における遺伝的背景				
達成目標	遺伝的背景を考慮した薬物動態を予測できる。 遺伝的背景を考慮した薬物治療効果を予測できる。				
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型 (澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	遺伝薬理学の歴史(1)		1	薬物反応の個人差(1)	
2	遺伝薬理学の歴史(2)		2	薬物反応の個人差(2)	
3	薬物代謝酵素の個人差(1)		3	薬物反応の人種差(1)	
4	薬物代謝酵素の個人差(2)		4	薬物反応の人種差(2)	
5	薬物代謝酵素の個人差(3)		5	テーラーメイド医療の基本(1)	
6	薬物代謝酵素の人種差(1)		6	テーラーメイド医療の基本(2)	
7	薬物代謝酵素の人種差(2)		7	テーラーメイド医療の基本(3)	
8	薬物代謝酵素の人種差(3)		8	テーラーメイド医療の臨床応用(1)	
9	トランスポーターの個人差(1)		9	テーラーメイド医療の臨床応用(2)	
10	トランスポーターの個人差(2)		10	テーラーメイド医療の臨床応用(3)	
11	トランスポーターの個人差(3)		11	テーラーメイド医療の臨床応用(4)	
12	トランスポーターの人種差(1)		12	テーラーメイド医療の展開(1)	
13	トランスポーターの人種差(2)		13	テーラーメイド医療の展開(2)	
14	トランスポーターの人種差(3)		14	テーラーメイド医療の展開(3)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	医療倫理学		必修/選択	必修
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	医療倫理を身につける。			
講義計画	医療倫理の歴史 医療における倫理			
達成目標	臨床研究における倫理的配慮を理解する。 医療における倫理的配慮を理解する。			
教科書・参考書	臨床薬理学 (日本臨床薬理学会編、第3版、医学書院 2011)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	倫理学基礎(1)		1	インフォームドコンセント(1)
2	倫理学基礎(2)		2	インフォームドコンセント(2)
3	生命・医療倫理学基礎(1)		3	インフォームドコンセント(3)
4	生命・医療倫理学基礎(2)		4	遺伝学・クローニングと倫理(1)
5	生命・医療倫理学基礎(3)		5	遺伝学・クローニングと倫理(2)
6	医療倫理の原則と重要概念(1)		6	生殖医療(1)
7	医療倫理の原則と重要概念(2)		7	生殖医療(2)
8	医療倫理の原則と重要概念(3)		8	医療資源の配分(1)
9	法の基礎(1)		9	医療資源の配分(2)
10	法の基礎(2)		10	医学研究と国民の負担(1)
11	守秘義務		11	終末期医療における倫理と法
12	守秘義務と個人情報保護		12	脳死と臓器移植
13	医療従事者・患者関係		13	臨床症例の倫理的検討法
14	ケアの倫理		14	リスクマネジメント
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	薬物動態学		必修/選択	必修
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	3単位(後期3)	履修年次	1年	
テーマと目的	薬物動態学の基本的考え方を学ぶ			
講義計画	薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)についての基本的事項を学ぶ			
達成目標	1) 吸収(初回通過効果)に係わる要因を説明できる 2) 薬物の血中蛋白結合等の意義を説明できる 3) 薬物代謝酵素、トランスポーターについて概説できる 4) 薬物の腎排泄機能説明できる 5) 薬物血中濃度モニタリングの理論、実践について理解する 6) 薬物相互作用による有害事象について事例を挙げて説明できる			
教科書・参考書	臨床薬理学 (医学書院)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義内容での発表、レポートにより総合的に評価する			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1			1-3	薬物動態学とは
2			4-6	臨床的に重要な薬物動態の知識(1)
3			7-9	同 (2)
4			10-12	薬物の吸収(1)
5			13-15	同 (2)
6			16-18	薬物の生体内分布(1)
7			19-21	同 (2)
8			22-24	薬物の代謝(1)
9			25-27	同 (2)
10			28-30	薬物の排泄(1)
11			31-32	同 (2)
12			33-36	薬物血中濃度モニタリング(1)
13			37-39	同 (2)
14			40-42	薬物相互作用(1)
15			43-45	同 (2)

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	循環薬理学		必修/選択	選択	
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	循環器疾患とその治療における薬物治療学を身につける				
講義計画	循環器疾患の薬物治療の影響				
達成目標	循環器疾患の薬物治療を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理学 (第12版、広川書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義内容での発表、レポートにより総合的に評価する				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	循環器疾患の基本(1)		1		
2	循環器疾患の基本(2)		2		
3	不整脈		3		
4	不整脈治療		4		
5	狭心症		5		
6	狭心症治療		6		
7	心不全		7		
8	心不全治療		8		
9	高血圧症		9		
10	高血圧症		10		
11	高血圧症治療		11		
12	高血圧症治療		12		
13	動脈硬化		13		
14	動脈硬化性疾患治療		14		
15	総合討論と発表		15		

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	創薬医学		必修/選択	選択
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	医薬品の開発に係わる事項を学ぶ			
講義計画	新しい医薬品の開発に係わる法規・規制と治験の適正な実施について学ぶ			
達成目標	1) 医薬品開発の世界的な状況等を説明できる 2) GCP、ヘルシンキ宣言等の法規、規定について理解する 3) 治験実施のために必要な試験計画書、同意説明文、その他の書類等を学ぶ 4) 被験者保護に関する補償、個人情報保護等を説明できる			
教科書・参考書	臨床薬理学 (医学書院)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義内容での発表、レポートにより総合的に評価する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容
1-2	医薬品開発の我が国の状況		1	
3-4	医薬品開発の世界の状況		2	
5-6	医薬品開発の規程(GCP等)		3	
7-8	臨床試験の倫理的規範 (ヘルシンキ宣言、倫理委員会等)		4	
9-10	臨床試験実施計画書の意義		5	
11-12	臨床試験実施計画書の作り方(1)		6	
13-14	同	(2)	7	
15-16	症例報告書の意義		8	
17-18	症例報告書の作り方		9	
19-20	同意説明文の意義		10	
21-22	同意説明文の作り方(1)		11	
23-24	同	(2)	12	
25-26	臨床試験の有害事象について		13	
27-28	臨床試験の補償について		14	
29-30	臨床試験と個人情報保護について		15	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	分子薬理学		必修/選択	選択
担当教員	武半優子	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	医学研究の基礎となる分子薬理学の概念を身につける。			
講義計画	細胞分子薬理学 個体分子薬理学			
達成目標	細胞における分子薬理学的概念を理解し、説明できる。 個体における分子薬理学的概念を理解し、説明できる。			
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (第12版、広川書店) 分子生物学イラストレイテッド (田村隆明、山本雅編、第3版、羊土社、2009)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間			
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	分子薬理学の基礎(1)		1	
2	分子薬理学の基礎(2)		2	
3	転写		3	
4	転写調節因子		4	
5	翻訳		5	
6	翻訳後修飾		6	
7	シグナル伝達系		7	
8	アポトーシス		8	
9	ゲノミクス解析(1)		9	
10	ゲノミクス解析(2)		10	
11	プロテオーム解析(1)		11	
12	プロテオーム解析(2)		12	
13	メタボロミクス解析(1)		13	
14	メタボロミクス解析(2)		14	
15	総合討論と発表		15	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	毒性学		必修/選択	選択	
担当教員	渡辺実	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	毒性学の原理と応用を身につける。				
講義計画	毒性学の原理 毒性学の研究応用				
達成目標	毒性学の原理を理解する。 毒性学の研究応用を理解する。				
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (第12版、広川書店) トキシコロジー (朝倉書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	毒性学序説	
2			2	毒性物質の体内動態(1)	
3			3	毒性物質の体内動態(2)	
4			4	毒性物質の毒性発現(1)	
5			5	毒性物質の毒性発現(2)	
6			6	毒性物質の毒性発現(3)	
7			7	一般毒性・特殊毒性	
8			8	遺伝毒性・生殖発生毒性	
9			9	発癌性	
10			10	器官毒性(1)	
11			11	器官毒性(2)	
12			12	環境毒性	
13			13	医薬品の副作用・有害事象(1)	
14			14	医薬品の副作用・有害事象(2)	
15			15	生体影響評価	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	実験動物学		必修/選択	選択	
担当教員	武半優子	担当教員連絡先	内線 3531		
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	実験動物の研究利用とその原理と応用を身につける。				
講義計画	実験動物学の原理 実験動物の研究応用				
達成目標	実験動物学の原理を理解する。 実験動物の研究応用を理解する。				
教科書・参考書	現代実験動物学(朝倉書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	実験動物学序説	
2			2	実験動物と動物実験	
3			3	動物実験と倫理	
4			4	動物実験と関連法規	
5			5	実験動物の飼育管理	
6			6	実験動物の遺伝管理	
7			7	実験動物の環境・衛生管理	
8			8	実験動物の繁殖	
9			9	実験動物の疾病	
10			10	実験動物の特性	
11			11	比較実験動物学	
12			12	疾患モデル動物	
13			13	遺伝子組換え動物	
14			14	動物実験技術	
15			15	実験動物施設	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	医学統計学		必修/選択 選択
担当教員	上野隆彦	担当教員連絡先	内線 3531
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	医学研究の科学的統計評価法を身につける		
講義計画	医学研究統計学		
達成目標	基礎的研究で得られた結果を科学的に評価できる。 臨床的研究で得られた結果を科学的に評価できる。		
教科書・参考書	医学的研究のデザイン(木原雅子、木原正博(訳)、第2版、メディカルサイエンスインターナショナル、2004)		
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間		
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1		1	医学統計学の基本
2		2	基本統計量
3		3	正規母集団
4		4	独立した2群の差の検定
5		5	関連のある2群の差の検定
6		6	独立した多群の差の検定
7		7	2要因で分類される多群の差の検定(1)
8		8	2要因で分類される多群の差の検定(2)
9		9	多重比較
10		10	相関関係
11		11	回帰分析
12		12	2X2分割表の検定
13		13	mXn分割表の検定
14		14	生存分析
15		15	総合討論と発表

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	バイオインフォマティクス学		必修/選択 選択
担当教員	井上永介	担当教員連絡先	内線 3531
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	医学研究の立案、実施、結果の解析に必要な情報取得法を身につける。		
講義計画	各種データベースアクセス。 データベースを利用した研究結果の解析法		
達成目標	各種データベースアクセス法を理解する。 データベースを利用した研究結果の解析法を理解する		
教科書・参考書	ゲノム医科学と基礎からのバイオインフォマティクス (高木利久編、実験医学、増刊、2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間		
成績評価法	出席と講義での発表とレポートによる総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1		1	バイオインフォマティクス学の基本(1)
2		2	バイオインフォマティクス学の基本(2)
3		3	医学に役立つデータベース(1)
4		4	医学に役立つデータベース(2)
5		5	医学に役立つデータベース(3)
6		6	医学に役立つデータベース(4)
7		7	インフォマティクス技術とツール(1)
8		8	インフォマティクス技術とツール(2)
9		9	実験支援用インフォマティクス(1)
10		10	実験支援用インフォマティクス(2)
11		11	インフォマティクスによるゲノム医学(1)
12		12	インフォマティクスによるゲノム医学(2)
13		13	インフォマティクスと創薬(1)
14		14	インフォマティクスと創薬(2)
15		15	総合討論と発表

講義担当者承認 ㊟

【53-2】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>松田隆秀</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>プライマリケアは包括性(全人的)、継続性、地域性に特色付けられた医療であるが、それには的確に聴取された病歴、身体所見、検査所見の解釈と吟味された根拠に基づいた臨床推論を進める能力が必要となる。本コースの目的は臨床研究能力、論文発表能力を兼ね備えた優れたプライマリケア医、一般内科医を育成することである。本専攻分野の各科目に共通する目的は、臨床の場より得られた多くの情報を臨床統計学の手法を用いて解析し、プライマリケア領域における臨床診断学、治療学、疾病予防に役立つ根拠を現場に還元することである。また、臨床研究を始めるにあたっては、医の倫理・生命倫理はもちろん、研究デザイン、医療統計学を学ぶことが必要である。臨床研究としての対象は、総合診療内科が診療に関わる種々の徴候と疾患群であるが、感染症や動脈硬化性疾患など横断的に捉えた臨床研究も重要であり意義がある。感染症領域を例にあげると、各種感染症起因菌の疫学調査、迅速診断法、抗生剤の適正使用、新しい抗生剤の臨床的評価、院内感染制御について習得し、各研究課題にて臨床より得られたデータの解析を行なう。また、選択講義には漢方医療学、高齢者医療学、地域医療学があり、いずれのコースも臨床に即した課題と達成目標が立てられている。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症迅速診断キットの有用性に関する研究</li> <li>2 不明熱の診断に関する臨床研究</li> <li>3 リンパ節腫脹に対する診断に関する臨床研究</li> <li>4 肺炎の起因菌と抗生剤適正使用に関する研究</li> <li>5 大腸憩室炎の臨床像と画像診断に関する研究</li> <li>6 末梢血管障害に対する漢方療法の有用性に関する研究</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	プライマリケア症候論 実習 I		必修/選択	必修
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	プライマリケアにおいて頻度の高い症候とその捉え方を習得する。			
講義計画	種々の症候について、その出現機序、病態について詳述する。			
達成目標	症候を正しく捉え、病態を考察することができる。			
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間			
成績評価法	課題に関する発表と質疑			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)
1	発熱 ①		1	体重減少 ①
2	発熱 ②		2	体重減少 ②
3	発熱 ③		3	腰痛 ①
4	発熱 ④		4	腰痛 ②
5	腹痛 ①		5	全身倦怠感 ①
6	腹痛 ②		6	全身倦怠感 ②
7	腹痛 ③		7	食欲不振 ①
8	頭痛 ①		8	食欲不振 ②
9	頭痛 ②		9	呼吸困難 ①
10	頭痛 ③		10	呼吸困難 ②
11	めまい①		11	呼吸困難 ③
12	めまい②		12	咳・痰 ①
13	胸痛①		13	咳・痰 ②
14	胸痛②		14	歩行障害 ①
15	胸痛③		15	歩行障害 ②

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	プライマリケア症候論 実習 II		必修/選択	必修
担当教員	中川禎介 鳥飼圭人	担当教員連絡先	内線 3640	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	プライマリケアにおいて頻度の高い症候とその捉え方を習得する。			
講義計画	種々の症候について、その出現機序、病態について詳述する。			
達成目標	症候を正しく捉え、病態を考察することができる。			
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間			
成績評価法	課題に関する発表と質疑			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	便通異常 ①		1	急性腹症 ①
2	便通異常 ②		2	急性腹症 ②
3	四肢のしびれ ①		3	意識障害 ①
4	四肢のしびれ ②		4	意識障害 ②
5	不眠 ①		5	歩行障害 ①
6	不眠 ②		6	歩行障害 ②
7	関節痛 ①		7	不定愁訴 ①
8	関節痛 ②		8	不定愁訴 ②
9	動悸 ①		9	体重増加 ①
10	動悸 ②		10	不明熱 ①
11	排尿障害 ①		11	不明熱 ②
12	排尿障害 ②		12	不明熱 ③
13	リンパ節腫脹 ①		13	口内炎・舌炎
14	リンパ節腫脹 ②		14	皮疹 ①
15	リンパ節腫脹 ③		15	皮疹 ②

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	プライマリケア病態論 I		必修/選択	必修	
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639、3640		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な病態診断学を学ぶ				
講義計画	プライマリケアに必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。				
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断が行える。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	意識障害 ①		1	ショック ③	
2	意識障害 ②		2	電解質異常 ①	
3	意識障害 ③		3	電解質異常 ②	
4	不整脈 ①		4	電解質異常 ③	
5	不整脈 ②		5	胸痛 ①	
6	心不全 ①		6	胸痛 ②	
7	心不全 ②		7	胸痛 ③	
8	不明熱 ①		8	腹痛 ①	
9	不明熱 ②		9	腹痛 ②	
10	不明熱 ③		10	腹痛 ③	
11	頭痛 ①		11	動脈硬化 ①	
12	頭痛 ②		12	動脈硬化 ②	
13	頭痛 ③		13	動脈硬化 ③	
14	ショック ①		14	四肢のしびれ ①	
15	ショック ②		15	四肢のしびれ ②	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	プライマリケア病態論 II		必修/選択 必修
担当教員	中川禎介 鳥飼圭人	担当教員連絡先	内線 3640
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	プライマリケアに必要な病態診断学を学ぶ		
講義計画	プライマリケアに必要な種々の症候や検査結果の意義を理解し、病態診断に至る過程について詳述する。		
達成目標	臨床統計学も含め鑑別診断を行ないながら病態診断が行える。		
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)		
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間		
成績評価法	課題に関する発表と質疑		
講 義 内 容			
	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	関節痛 ①	1	四肢のしびれ ①
2	関節痛 ②	2	四肢のしびれ ②
3	皮疹 ①	3	排尿障害 ①
4	皮疹 ②	4	排尿障害 ②
5	間歇性跛行 ①	5	間歇性跛行 ①
6	間歇性跛行 ②	6	間歇性跛行 ②
7	めまい ①	7	血尿 ①
8	めまい ②	8	血尿 ②
9	めまい ③	9	肥満 ①
10	咳 ①	10	肥満 ②
11	咳 ②	11	肝障害 ①
12	呼吸困難 ①	12	肝障害 ②
13	呼吸困難 ②	13	腎機能障害 ①
14	動悸	14	腎機能障害 ②
15	体重減少	15	電解質異常

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	プライマリケア診断学 I (基礎編)		必修/選択	必修	
担当教員	松田隆秀、伊野美幸	担当教員連絡先	内線 3639、4850		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な医療面接、身体所見、一般検査の意義を習得する。				
講義計画	医療面接、基本的な身体所見、一般検査について詳述する。				
達成目標	医療面接で得られた情報に加え、正確な身体所見がとれ、必要な一般検査を選択し、その検査結果を正しく評価できる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	医療面接 ①		1	身体所見 ②	
2	医療面接 ②		2	身体所見 ③	
3	医療面接 ③		3	身体所見 ④	
4	病歴のとりかた ①		4	身体所見 ⑤	
5	病歴のとりかた ②		5	一般検査 ①	
6	病歴のとりかた ③		6	一般検査 ②	
7	バイタルサイン ①		7	一般検査 ③	
8	バイタルサイン ②		8	一般検査 ④	
9	バイタルサイン ③		9	一般検査 ⑤	
10	全身状態 ①		10	心電図 ①	
11	全身状態 ②		11	心電図 ②	
12	全身状態 ③		12	症候よりみた鑑別診断 ①	
13	精神状態 ①		13	症候よりみた鑑別診断 ②	
14	精神状態 ②		14	症候よりみた鑑別診断 ③	
15	身体所見 ①		15	症候よりみた鑑別診断 ④	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	プライマリケア診断学 II (応用編)		必修/選択	必修	
担当教員	中川禎介、人見敏明	担当教員連絡先	内線 3640		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な医療面接、身体所見、一般検査の意義を習得する。				
講義計画	医療面接、基本的な身体所見、一般検査について詳述する。				
達成目標	医療面接で得られた情報に加え、正確な身体所見がとれ、必要な一般検査を選択し、その検査結果を正しく評価できる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	検査情報の有用性		1	診断のガイドライン 肺結核②	
2	感度と特異度①		2	診断のガイドライン 喘息①	
3	感度と特異度②		3	診断のガイドライン 喘息②	
4	診断の根拠①		4	診断のガイドライン COPD①	
5	診断の根拠②		5	診断のガイドライン 虚血性心筋症	
6	Med Line		6	診断のガイドライン ①、②	
7	臨床視診①		7	診断のガイドライン 高血圧	
8	臨床視診②		8	診断のガイドライン 胃潰瘍	
9	臨床視診③		9	診断のガイドライン 慢性腸炎	
10	臨床疫学①		10	診断のガイドライン 糖尿病①	
11	臨床疫学②		11	診断のガイドライン 糖尿病②	
12	臨床疫学③		12	診断のガイドライン 動脈硬化	
13	診断のガイドライン 肺炎①		13	診断のガイドライン 甲状腺疾患	
14	診断のガイドライン 肺炎②		14	診断のガイドライン 膠原病	
15	診断のガイドライン 肺結核①		15	診断のガイドライン 泌尿器系疾患	

講義担当者承認 Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	プライマリケア画像診断学・基礎編 胸部画像診断学の基礎		必修/選択	必修
担当教員	中島康雄、松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3439、3640	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	画像の成り立ちや人体発生・生理を理解することで、画像の理解度を深める。			
講義計画	1回1時間で、一つのテーマを理解し、出席者全員で実際の症例を検討する。			
達成目標	各々の分野の画像を一通り理解し、画像判断ができるようにする。			
教科書・参考書	毎回プリントを配布する。			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間			
成績評価法	実際の読影の際に各個人の理解度を評価する。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	空気と軟部組織と石灰化と金属	1	肺間質性病変の見え方 1	
2	胸部単純でのものの厚さと見え方	2	肺間質性病変の見え方 2	
3	縦隔の構造と見え方	3	肺間質性病変の見え方 3	
4	散乱線ともの見え方	4	肺間質性病変の見え方 4	
5	胸部単純と散乱線効果	5	縦隔病変の見え方 1	
6	横隔膜の構造と見え方	6	縦隔病変の見え方 2	
7	吸気の種類とtenting(下肺間膜)	7	縦隔病変の見え方 3	
8	年齢と吸気の種類と横隔膜の形	8	心大血管病変の見え方 1	
9	シルエットサインと病変部位	9	心大血管病変の見え方 1	
10	無気肺とその見え方	10	吸気の種類と心陰影の見え方	
11	無気肺とその見え方	11	体位による心陰影・縦隔影の変化	
12	肺実質病変の見え方 1	12	胸水の見え方	
13	肺実質病変の見え方 2	13	胸水の量と見え方	
14	肺実質病変の見え方 3	14	気胸の見え方	
15	肺実質病変の見え方 4	15	仰臥位と立位の違い	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	プライマリケア画像診断学・応用編		必修/選択 必修
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3640
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年
テーマと目的	胸部単純および CT 画像の実例を通して理解度を深める。(応用編)		
講義計画	1 回1時間で、一つのテーマを理解し、出席者全員で実際の症例を検討する。		
達成目標	各々の分野の画像を一通り理解し、画像判断ができるようにする。		
教科書・参考書	毎回プリントを配布する。		
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間		
成績評価法	実際の読影の際に各個人の理解度を評価する。		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席ⓐ)	後期(回)	内 容 (出席ⓐ)
1	空気と軟部組織と石灰化と金属	1	スリガラス影の分布とその意義
2	胸部単純でのものの厚さと見え方	2	浸潤影と気管支壁肥厚
3	縦隔の構造と見え方	3	Acinar shadow と結核
4	散乱線ともの見え方	4	娘気管支とマイコプラズマ肺炎
5	胸部単純と散乱線効果	5	Kerley lines と癌性リンパ管症
6	横隔膜の構造と見え方	6	石灰化を伴った肺腫瘍
7	吸気の種類と tenting(下肺間膜)	7	気腫性変化と蜂巣肺
8	年齢と吸気の種類と横隔膜の形	8	空洞病変とその特徴
9	シルエットサインと病変部位	9	胸部単純と心臓の拍動
10	無気肺と見え方	10	吸気の種類と心陰影の見え方
11	無気肺と胸水	11	体位による心陰影・縦隔影の変化
12	肺の構造と機能	12	Vascular pedicle とその意義
13	経気道性病変の CT 画像	13	胸水の量と見え方
14	間質病変と CT 画像・その1	14	肺うっ血と胸部単純所見・その1
15	間質病変と CT 画像・その2	15	肺うっ血と胸部単純所見・その2

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	プライマリケア臨床推論学		必修/選択	必修
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	プライマリケアに必要な臨床推論とEBM			
講義計画	臨床推論の概要、臨床疫学について学習し、後期では、実際の症例を呈示しながら解説を行う。			
達成目標	臨床の場より得られる情報に基づき、臨床疫学、医学文献を駆使し、EBMを実践できる。			
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間			
成績評価法	課題に関する発表と質疑			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	臨床推論学総論 ①		1	危険因子 ①
2	臨床推論学総論 ②		2	危険因子 ②
3	臨床推論学総論 ③		3	危険因子 ③
4	EBM ①		4	発生率と有病率
5	EBM ②		5	臨床推論の実際 ①
6	臨床疫学 ①		6	臨床推論の実際 ②
7	臨床疫学 ②		7	臨床推論の実際 ③
8	検査の精度 ①		8	臨床推論の実際 ④
9	検査の精度 ②		9	臨床推論の実際 ⑤
10	検査の精度 ③		10	臨床推論の実際 ⑥
11	検査の精度 ④		11	臨床推論の実際 ⑦
12	マスキリーニング		12	臨床推論の実際 ⑧
13	医学文献の吟味と利用 ①		13	臨床推論の実際 ⑨
14	医学文献の吟味と利用 ②		14	臨床推論の実際 ⑩
15	医学文献の吟味と利用 ③		15	臨床推論の実際 ⑪

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	プライマリケア治療学		必修/選択	必修
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639	
単位数	1 単位(前期・後期)、(第 2 第 4 週)	履修年次	1 年	
テーマと目的	日常診療で遭遇する頻度の多い症候と病態の理解で深める			
講義計画	プライマリケア医にとって重要で、頻度の多い症候と病態について詳述する。			
達成目標	日常診療において頻度の多い症候・病態を理解し、適切な診断・治療方針が立案でき、実践できること。			
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)			
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間			
成績評価法	出席と講義時の質疑応答、受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	適切な抗生剤使用		1	尿路結石
2	肺炎		2	心不全
3	肺結核		3	ウイルス性疾患
4	電解質異常		4	脳血管障害
5	大腸憩室炎		5	ショック
6	腎盂腎炎		6	低酸素血症
7	高血圧		7	アルコール性肝障害
8	不整脈		8	血球減少症
9	高血糖		9	DIC
10	低血糖		10	感染性心内膜炎
11	深部静脈血栓症		11	貧血
12	肺梗塞		12	甲状腺疾患
13	心虚血性疾患		13	髄膜炎
14	副鼻腔炎		14	オンコロジカル・エマージェンシー
15	けいれん発作		15	急性副腎不全

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	プライマリケア感染症学 実習 救命講座と共用		必修/選択	必修	
担当教員	松田隆秀、平 泰彦	担当教員連絡先	内線 3640、3930		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な感染症学の基礎を修得する。				
講義計画	原因微生物を想定し、抗菌薬の選択ができるよう感染症の体系を詳述する。				
達成目標	感染症学の基礎を理解し、適正な抗菌薬治療を実践することができる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義時の質疑応答、受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	原因微生物の想定		1	肺膿瘍 膿胸	
2	グラム染色による原因微生物想定		2	尿路感染症	
3	抗菌薬の選択		3	泌尿器関連感染症	
4	抗菌薬の投与量・投与経路		4	感染性心内膜炎	
5	PK/PD パラメーターについて		5	カテーテル関連感染症	
6	効果判定に用いるべきパラメーターについて		6	急性下痢症	
7	抗菌薬について		7	腹腔内感染症	
8	抗真菌薬について		8	皮膚・軟部組織感染症 ①	
9	抗ウイルス薬について		9	皮膚・軟部組織感染症 ②	
10	抗寄生虫薬について		10	髄膜炎 化膿性関節炎	
11	髄膜炎		11	耳・副鼻腔感染症	
12	脳膿瘍		12	性感染症	
13	脳炎		13	黄色ブドウ球菌感染症	
14	上気道感染症		14	連鎖球菌感染症	
15	下気道感染症		15	抗酸菌感染症	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	漢方医療学		必修/選択 選択
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3640
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	近年西洋医学との融合を念頭においた全人的視野で捉えた治療方針で選択できる能力を養う。		
講義計画	現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するために、漢方医学の考え方、基礎、理論及び診療法について基本的知識と技能を習得する。		
達成目標	近年西洋医学との融合を念頭においた全人的視野で捉えた治療方針で選択できる能力を養う。		
教科書・参考書	学生のための漢方医学テキスト(南江堂)、入門漢方医学(南江堂) 絵でみる和漢診療学(医学書院)、漢方医学 大塚敬節著(創元社)		
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。 1時間		
成績評価法	出席状況、試験によって評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	漢方医学概論-西洋医学と東洋医学	1	漢方治療学概論
2	漢方医学の歴史-日本漢方と中医学	2	主な方剤群【1】 ①桂枝湯類
3	漢方医学の基本的構造、方剤の性格	3	②柴胡剤と瀉心湯類
4	証とは何か	4	③麻黄剤
5	基礎理論-八綱の概念	5	④附子剤
6	基礎理論-六病位の概念	6	⑤地黄剤
7	基礎理論-六病位の診断と記録	7	⑥人参湯類と参耆剤
8	気血水の概念	8	⑦石膏剤
9	気の異常	9	主な方剤群【2】 ①気剤
10	血の異常、水の異常	10	主な方剤群【2】 ②駆瘀血剤
11	五臓の概念と異常	11	主な方剤群【2】 ③利尿剤
12	漢方の診療法-四診とは	12	漢方薬の副作用
13	漢方の診療法-望診、聞診、問診	13	服薬指導
14	漢方の診療法-切診	14	生薬概論 薬剤作用
15	漢方の診療法-切診	15	漢方薬の剤形

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	プライマリケア高齢者医療学		必修/選択 選択		
担当教員	中川禎介	担当教員連絡先	内線 3639		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	プライマリケアに必要な高齢者医学、老年学を学ぶ(総論)				
講義計画	高齢者のプライマリケアに必要な老年学および高齢者の医学に必要な基礎的知識を講義する。				
達成目標	高齢者に対して、より適切な全人的医療を実践できる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	老年学と老年医学 ①		1	高齢者薬物療法 ②	
2	老年学と老年医学 ②		2	予防医学 ①	
3	老化の機序 ①		3	予防医学 ②	
4	老化の機序 ②		4	高齢者の生活機能障害の評価 ①	
5	老年病の臨床 ①		5	高齢者の生活機能障害の評価 ②	
6	老年病の臨床 ②		6	高齢者介護と医療 ①	
7	高齢者に特有な症候 ①		7	高齢者介護と医療 ②	
8	高齢者に特有な症候 ②		8	高齢者介護とリハビリテーション ①	
9	高齢者の救急疾患と対策 ①		9	高齢者介護とリハビリテーション ②	
10	高齢者の救急疾患と対策 ②		10	高齢者の終末期医療と医療倫理 ①	
11	高齢者の検査値の変化と意義 ①		11	高齢者の終末期医療と医療倫理 ②	
12	高齢者の検査値の変化と意義 ②		12	高齢者と精神医療 ①	
13	高齢者の栄養 ①		13	高齢者と精神医療 ②	
14	高齢者の栄養 ②		14	医療経済 EBM ①	
15	高齢者薬物療法 ①		15	医療経済 EBM ②	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	プライマリケア地域医療学		必修/選択	選択	
担当教員	松田隆秀	担当教員連絡先	内線 3639		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	地域医療の実際				
講義計画	地域医療に必用な基礎的事項と実践について詳述する。				
達成目標	地域医療の実践に向けて、地域におけるそれぞれの医療機関の役割、種々の役割を理解し、実践できる。				
教科書・参考書	「総合診療」中山書店、「家庭医・プライマリケア医入門」プリメド社、 「根拠に基づく医療 Evidence-Based MEDICINE」オーシーシー(株)				
準備学習(予習・復習・時間)	Primary Care Medicine (Aller H.Goroll)を用いて、各講義に合わせて予習すること。1時間				
成績評価法	課題に関する発表と質疑				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	地域医療学とは ①		1	地域の医療機関 ①	
2	地域医療学とは ②		2	地域の医療機関 ②	
3	地域医療学とは ③		3	地域の医療機関 ③	
4	地域で捉えた予防医学 ①		4	在宅医療 ①	
5	地域で捉えた予防医学 ②		5	在宅医療 ②	
6	健康福祉局の役割 ①		6	在宅医療 ③	
7	健康福祉局の役割 ②		7	在宅医療 ④	
8	健康福祉局の役割 ③		8	在宅ターミナルケア ①	
9	地域クリニカルパス ①		9	在宅ターミナルケア ②	
10	地域クリニカルパス ②		10	在宅ターミナルケア ③	
11	種々の職業との連携 ①		11	僻地医療 ①	
12	種々の職業との連携 ②		12	僻地医療 ②	
13	病診連携 ①		13	地域医療における医療制度 ①	
14	病診連携 ②		14	地域医療における医療制度 ②	
15	病病連携 ①		15	地域医療における医療制度 ③	

講義担当者承認 ⑩

【 53-3 】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>峯下 昌道</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>当科では呼吸器疾患全般を対象として、研究・教育を行なう。中でも呼吸器インターベンションの研究に力を入れており、悪性気道狭窄に対する治療として、硬性気管支鏡と軟性気管支鏡を組み合わせ用い、腫瘍の焼灼、バルーン拡張、気道ステントの留置などを行っており、適応や効果判定に関する臨床研究は今年度も継続していく。気道狭窄の治療前後におけるチョークポイントの移動に関する気道内圧の測定や局所肺の呼気中CO<sub>2</sub>、O<sub>2</sub>を用いた病態解析に関する研究も継続して行う。難治性気胸に関しては胸腔造影による診断と EWS 挿入および胸膜癒着による治療を行っており症例を集積している。さらにCOPDや気管支喘息の内視鏡的治療を昨年度より本格的に開始しており、この手技に関する臨床研究を推進する。肺癌の診断、治療に関しては豊富な臨床例に基づいて、画像診断、気管支鏡検査(ナビゲーションや超拡大内視鏡も含む)、化学療法などの研究、教育を行い、臨床治験にも積極的に参加する。気管支鏡検査の際に気管支腔内超音波検査を併用し、超音波データやエラストグラムの診断における有用性に関する研究を行っている。気管支腔内超音波検査法は肺癌のみならず、気管支結核や再発性多発軟骨炎などの病態把握のための研究にも活用している。これまで Vibration response imaging を用いた呼吸音に関する研究を行ってきたが、今後は得られた知見を参考に携帯型呼吸音解析装置の開発研究を進めていく。気管支喘息、および呼吸器感染症については豊富な臨床例に基づいて、その病態、診断法、治療法を教育する。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器インターベンション</li> <li>2. 気道内圧, および呼気中CO<sub>2</sub>, O<sub>2</sub>を用いた呼吸生理学的検討</li> <li>3. 難治性気胸の治療</li> <li>4. COPDの内視鏡的治療</li> <li>5. 気管支喘息の内視鏡的治療</li> <li>6. 肺癌の診断と治療</li> <li>7. 気管支腔内超音波検査法</li> <li>8. 呼吸生理と呼吸音解析</li> <li>9. Ion-mobility spectrometry (IMS)を用いた各種呼吸器疾患の診断</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>事前に参考資料を読み、内容を確認すること。</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器病態学		必修/選択 必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病態を理解する		
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患を症例を通して病態を理解し、管理方法を検討する		
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な呼吸器疾患の病態に基づいた管理を計画できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		

講義内容

前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	閉塞性換気障害の病態	1	
2	拘束性換気障害の病態	2	
3	急性呼吸不全の病態1	3	
4	急性呼吸不全の病態2	4	
5	ARDSの病態1	5	
6	ARDSの病態2	6	
7	慢性呼吸不全の病態1	7	
8	慢性呼吸不全の病態2	8	
9	過換気症候群の病態	9	
10	肺泡低換気の病態	10	
11	肺循環障害の病態1	11	
12	肺循環障害の病態2	12	
13	無気肺の病態	13	
14	中枢気道狭窄の病態1	14	
15	中枢気道狭窄の病態2	15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器内視鏡学 I		必修/選択 必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 81545
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	1年
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する		
講義計画	症例に基づいて、気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する		
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表、受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1	気管支鏡の歴史		1
2	気管支鏡の適応と禁忌1		2
3	気管支鏡の適応と禁忌2		3
4	軟性気管支鏡の機器と準備1		4
5	周辺機器1		5
6	局所麻酔1		6
7	気管支鏡の挿入と観察1		7
8	気管支の解剖1		8
9	気管支鏡所見—正常編1		9
10	気管支鏡所見—異常編1		10
11	気管支鏡所見—異常編2		11
12	気管支鏡所見—異常編3		12
13	胸腔鏡の歴史1		13
14	flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と禁忌1		14
15	flexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備1		15

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80484
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する		
講義計画	症例に基づいて気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する		
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1			1 経気管支的肺生検1
2			2 経気管支的肺生検2
3			3 経気管支的肺生検3
4			4 EBUS—中枢気道への応用1
5			5 EBUS—中枢気道への応用2
6			6 EBUS—中枢気道への応用3
7			7 EBUS—中枢気道への応用4
8			8 EBUS—末梢病変への応用1
9			9 EBUS—末梢病変への応用2
10			10 EBUS—末梢病変への応用3
11			11 EBUS—末梢病変への応用4
12			12 flexi-rigid type 胸腔鏡の手技1
13			13 胸腔鏡所見1
14			14 胸腔鏡所見2
15			15 胸腔鏡の合併症と対処法1

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器画像診断学 I		必修/選択 必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する		
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線, 胸部CTの読影法を解説する		
達成目標	基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線, 胸部CTを読影できる画像所見に基づいて, 鑑別診断を列挙できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	胸部単純エックス線—正常編	1	
2	胸部単純エックス線—浸潤影	2	
3	胸部単純エックス線—結節影	3	
4	胸部単純エックス線—びまん性陰影	4	
5	胸部単純エックス線—無気肺	5	
6	胸部単純エックス線—応用編1	6	
7	胸部単純エックス線—応用編2	7	
8	胸部CT—正常編	8	
9	胸部CT—GGO	9	
10	胸部CT—consolidation	10	
11	胸部CT—結節影	11	
12	胸部CT—びまん性陰影	12	
13	胸部CT—無気肺	13	
14	胸部CT—応用編1	14	
15	胸部CT—応用編2	15	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器画像診断学Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する		
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線, 胸部CTの読影法を解説する		
達成目標	基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線, 胸部CTを読影できる画像所見に基づいて, 鑑別診断を列挙できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1			1 肺炎の画像診断1
2			2 肺炎の画像診断2
3			3 COPDの画像診断
4			4 胸膜炎, 膿胸の画像診断
5			5 間質性肺炎の画像診断1
6			6 間質性肺炎の画像診断2
7			7 サルコイドーシスの画像診断
8			8 肺胞蛋白症の画像診断
9			9 肺水腫の画像診断
10			10 肺癌の画像診断1
11			11 肺癌の画像診断2
12			12 縦隔リンパ節の読影
13			13 胸膜中皮腫の画像診断
14			14 PET
15			15 胸部MRI

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器病理と臨床各論 I		必修/選択 必修
担当教員	駒瀬 裕子	担当教員連絡先	内線 78124
単位数	2単位(前期 2)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する		
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して、その病理と臨床像を検討する		
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	気管支喘息の病理1	1	
2	気管支喘息の臨床1	2	
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床1	3	
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床 1	4	
5	特発性間質性肺炎の病理1	5	
6	特発性間質性肺炎の臨床1	6	
7	好酸球性肺炎の病理1	7	
8	好酸球性肺炎の臨床1	8	
9	過敏性肺臓炎の病理1	9	
10	過敏性肺臓炎の臨床1	10	
11	膠原病肺の病理1	11	
12	膠原病肺の臨床1	12	
13	サルコイドーシスの病理1	13	
14	サルコイドーシスの臨床1	14	
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床1	15	

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463
単位数	2単位(後期2)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する		
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して、その病理と臨床像を検討する		
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1			1 肺腺癌の病理1
2			2 肺腺癌の臨床1
3			3 肺扁平上皮癌の病理1
4			4 肺扁平上皮癌の臨床1
5			5 小細胞肺癌の病理1
6			6 小細胞肺癌の臨床1
7			7 大細胞肺癌の病理1
8			8 大細胞肺癌の臨床1
9			9 細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床1
10			10 非小細胞肺癌の化学療法1
11			11 小細胞肺癌の化学療法1
12			12 転移性肺癌の病理1
13			13 転移性肺癌の臨床1
14			14 悪性胸膜中皮腫の病理1
15			15 悪性胸膜中皮腫の臨床1

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器内視鏡実習 I		必修/選択 必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年
テーマと目的	気管支鏡の実技を習得する		
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。		
達成目標	気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 経気管支肺生検ができる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	気管支鏡の挿入および観察手技1	1	
2	気管支鏡の挿入および観察手技2	2	
3	気管支命名法1	3	
4	気管支命名法2	4	
5	気管支鏡所見1	5	
6	気管支鏡所見2	6	
7	気管支鏡所見3	7	
8	気管支鏡所見4	8	
9	経気管支肺生検1	9	
10	経気管支肺生検2	10	
11	経気管支肺生検3	11	
12	ナビゲーション1	12	
13	ナビゲーション2	13	
14	EBUS-GS法1	14	
15	EBUS-GS法2	15	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器内視鏡実習Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	気管支鏡と flexi-rigid type 胸腔鏡の実技を習得する			
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。 flexi-rigid type 胸腔鏡の手技を実施する。			
達成目標	気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 経気管支肺生検ができる。 flexi-rigid type 胸腔鏡を用いて観察と生検ができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間			
成績評価法	出席と実習態度, および手技の習熟度, 問題点の理解度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	気管支鏡所見5
2			2	気管支鏡所見6
3			3	気管支鏡所見7
4			4	EBUS-TBNA1
5			5	EBUS-TBNA2
6			6	EBUS-TBNA3
7			7	蛍光気管支鏡1
8			8	蛍光気管支鏡2
9			9	NBI1
10			10	NBI2
11			11	flexi-rigid type 胸腔胸の手技1
12			12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技2
13			13	胸腔鏡所見1
14			14	胸腔鏡所見2
15			15	胸腔鏡所見3

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅲ		必修/選択	必修	
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536		
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて、気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	気管支鏡の歴史2		1		
2	気管支鏡の適応と禁忌3		2		
3	気管支鏡の適応と禁忌4		3		
4	軟性気管支鏡の機器と準備2		4		
5	周辺機器2		5		
6	局所麻酔2		6		
7	気管支鏡の挿入と観察2		7		
8	気管支の解剖2		8		
9	気管支鏡所見一正常編2		9		
10	気管支鏡所見一異常編4		10		
11	気管支鏡所見一異常編5		11		
12	気管支鏡所見一異常編6		12		
13	胸腔鏡の歴史2		13		
14	flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と禁忌2		14		
15	flexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備2		15		

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器内視鏡学IV		必修/選択 必修
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536
単位数	1単位(後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する		
講義計画	症例に基づいて, 気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する		
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表, 受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1			1 経気管支的肺生検—ナビゲーション1
2			2 経気管支的肺生検—ナビゲーション2
3			3 経気管支的肺生検—ナビゲーション3
4			4 EBUS—TBNA1
5			5 EBUS—TBNA2
6			6 EBUS—TBNA3
7			7 蛍光気管支鏡1
8			8 蛍光気管支鏡2
9			9 NBI1
10			10 NBI2
11			11 気管支鏡の合併症と対処法2
12			12 flexi-rigid type 胸腔鏡の手技2
13			13 胸腔鏡所見3
14			14 胸腔鏡所見4
15			15 胸腔鏡の合併症と対処法2

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅲ		必修/選択	必修	
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	2単位(前期2)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して、その病理と臨床像を検討する				
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	気管支喘息の病理2		1		
2	気管支喘息の臨床2		2		
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床2		3		
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床2		4		
5	特発性間質性肺炎の病理2		5		
6	特発性間質性肺炎の臨床2		6		
7	好酸球性肺炎の病理2		7		
8	好酸球性肺炎の臨床2		8		
9	過敏性肺臓炎の病理2		9		
10	過敏性肺臓炎の臨床2		10		
11	膠原病肺の病理2		11		
12	膠原病肺の臨床2		12		
13	サルコイドーシスの病理2		13		
14	サルコイドーシスの臨床2		14		
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床2		15		

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅳ		必修/選択 必修
担当教員	古屋 直樹	担当教員連絡先	内線 80988
単位数	2単位(後期2)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する		
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して、その病理と臨床像を検討する		
達成目標	基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1			1 肺腺癌の病理2
2			2 肺腺癌の臨床2
3			3 肺扁平上皮癌の病理2
4			4 肺扁平上皮癌の臨床2
5			5 小細胞肺癌の病理2
6			6 小細胞肺癌の臨床2
7			7 大細胞肺癌の病理2
8			8 大細胞肺癌の臨床2
9			9 細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床2
10			10 非小細胞肺癌の化学療法2
11			11 小細胞肺癌の化学療法2
12			12 転移性肺癌の病理2
13			13 転移性肺癌の臨床2
14			14 悪性胸膜中皮腫の病理2
15			15 悪性胸膜中皮腫の臨床

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器疾患特論 I		必修/選択	必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する			
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する			
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2. 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し、対応方法を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	気管支拡張症		1	
2	嚢胞性肺疾患		2	
3	慢性閉塞性肺疾患1		3	
4	慢性閉塞性肺疾患2		4	
5	過換気症候群		5	
6	気管支喘息1		6	
7	気管支喘息2		7	
8	PIE症候群		8	
9	アレルギー性気管支肺アスペルギルス		9	
10	過敏性肺臓炎		10	
11	肺ヒストサイトーシスX		11	
12	膠原病に伴う肺疾患		12	
13	サルコイドーシス		13	
14	特発性間質性肺炎1		14	
15	特発性間質性肺炎2		15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	呼吸器疾患特論Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	西根 広樹	担当教員連絡先	内線 80484	
単位数	1単位(後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する			
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する			
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2. 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し、対応方法を説明できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	薬剤性間質性肺炎
2			2	無気肺
3			3	ARDS
4			4	肺胞蛋白症
5			5	肺胞微石症
6			6	原発性肺癌—主要症候
7			7	原発性肺癌—診断
8			8	原発性肺癌—治療
9			9	転移性肺腫瘍
10			10	肺血栓, 塞栓症
11			11	自然気胸
12			12	胸膜炎, 膿胸
13			13	胸膜腫瘍
14			14	縦隔炎
15			15	縦隔腫瘍

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器インターベンション実習 I		必修/選択 必修
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80536
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する		
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する		
達成目標	呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し、対処できる適切な手技選択し、実施できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と実習態度、および手技の習熟度、問題点の理解度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	呼吸器インターベンション適応と禁忌1	1	
2	呼吸器インターベンション適応と禁忌2	2	
3	硬性気管支鏡1	3	
4	硬性気管支鏡2	4	
5	気道狭窄の診断1	5	
6	気道狭窄の診断2	6	
7	気道ステントの種類と適応1	7	
8	気道ステントの種類と適応2	8	
9	気道ステント挿入の実際1	9	
10	気道ステント挿入の実際2	10	
11	気道異物1	11	
12	気道異物2	12	
13	APC焼灼1	13	
14	APC焼灼2	14	
15	バルーン拡張	15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	呼吸器インターベンション実習Ⅱ		必修/選択 必修		
担当教員	峯下 昌道	担当教員連絡先	内線 80463		
単位数	1単位(後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する				
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する				
達成目標	呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し、対処できる適切な手技選択し、実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間				
成績評価法	出席と実習態度、および手技の習熟度、問題点の理解度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	Nd-YAGレーザー	
2			2	クライオセラピー	
3			3	気道内圧測定1	
4			4	気道内圧測定2	
5			5	気道狭窄とチョークポイント1	
6			6	気道狭窄とチョークポイント2	
7			7	良性気道狭窄とインターベンション	
8			8	悪性気道狭窄とインターベンション	
9			9	食道気管瘻の治療法1	
10			10	食道気管瘻の治療法2	
11			11	呼吸器インターベンションの合併症1	
12			12	呼吸器インターベンションの合併症2	
13			13	COPDの内視鏡的治療1	
14			14	COPDの内視鏡的治療2	
15			15	気管支喘息の内視鏡的治療	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器腫瘍学		必修/選択 選択
担当教員	半田 寛	担当教員連絡先	内線 80484
単位数	2単位(前期1, 後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	呼吸器の腫瘍性疾患の臨床を理解する		
講義計画	原発性肺癌, 転移性肺癌, 悪性胸膜中皮腫の診断と治療を解説する		
達成目標	原発性肺癌, 転移性肺癌, 悪性胸膜中皮腫の診断と治療について説明できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	非小細胞肺癌の診断1	1	転移性肺癌の診断1
2	非小細胞肺癌の診断2	2	転移性肺癌の診断2
3	非小細胞肺癌の診断3	3	転移性肺癌の診断3
4	非小細胞肺癌の治療1	4	転移性肺癌の治療1
5	非小細胞肺癌の治療2	5	転移性肺癌の治療2
6	非小細胞肺癌の治療3	6	転移性肺癌の治療3
7	非小細胞肺癌の治療4	7	転移性肺癌の治療4
8	小細胞肺癌の診断1	8	悪性胸膜中皮腫の診断1
9	小細胞肺癌の診断2	9	悪性胸膜中皮腫の診断2
10	小細胞肺癌の診断3	10	悪性胸膜中皮腫の診断3
11	小細胞肺癌の治療1	11	悪性胸膜中皮腫の治療1
12	小細胞肺癌の治療2	12	悪性胸膜中皮腫の治療2
13	小細胞肺癌の治療3	13	悪性胸膜中皮腫の治療3
14	小細胞肺癌の治療4	14	悪性胸膜中皮腫の治療4
15	化学療法の有害事象と対処法1	15	化学療法の有害事象と対処法2

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸器感染症学		必修/選択 選択
担当教員	井上健男	担当教員連絡先	内線 81307
単位数	2単位(前期1, 後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	呼吸器領域における感染症を理解する		
講義計画	呼吸器領域における感染症を解説する		
達成目標	呼吸器領域における感染症の診断, 治療, 感染拡大予防対策について説明できる		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	細菌感染症の診断1	1	肺結核の治療1
2	細菌感染症の診断2	2	肺結核の治療2
3	細菌感染症の診断3	3	肺結核の治療3
4	細菌感染症の治療1	4	マイコプラズマ感染症の診断1
5	細菌感染症の治療2	5	マイコプラズマ感染症の診断2
6	細菌感染症の治療3	6	マイコプラズマ感染症の治療1
7	ウイルス感染症の診断1	7	マイコプラズマ感染症の治療2
8	ウイルス感染症の診断2	8	クラミジア, リケッチア感染症の診断1
9	ウイルス感染症の診断3	9	クラミジア, リケッチア感染症の診断2
10	ウイルス感染症の治療1	10	クラミジア, リケッチア感染症の治療1
11	ウイルス感染症の治療2	11	クラミジア, リケッチア感染症の治療2
12	ウイルス感染症の治療3	12	非定型肺炎の診断1
13	肺結核の診断1	13	非定型肺炎の診断2
14	肺結核の診断2	14	非定型肺炎の治療1
15	肺結核の診断3	15	非定型肺炎の治療2

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(20)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	呼吸音解析		必修/選択 選択
担当教員	峯下昌道	担当教員連絡先	内線 80463
単位数	1単位(前期1)	履修年次	2年
テーマと目的	呼吸音解析に関する理解を深める		
講義計画	呼吸音解析とその臨床応用について解説する		
達成目標	Vibration Response Imagingを用いた呼吸音解析の原理, 臨床応用を理解し, 呼吸音解析の呼吸生理的評価について述べるができる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1	呼吸音解析について		1
2	Vibration Response Imaging (VRI)の原理		2
3	VRI測定の実際		3
4	健常人のVRI所見1		4
5	健常人のVRI所見2		5
6	気道インターベンションとVRI1		6
7	気道インターベンションとVRI2		7
8	気道インターベンションとVRI3		8
9	COPDのVRI所見1		9
10	COPDのVRI所見2		10
11	COPD治療とVRI所見		11
12	気管支喘息のVRI所見		12
13	呼吸音解析と呼吸生理1		13
14	呼吸音解析と呼吸生理2		14
15	携帯型呼吸音解析装置の開発		15

講義担当者承認

◎

【53-4】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>伊 東 文 生</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>研究マインドを持った臨床消化器内科医の育成がゴールである。 疾患をベースに病態理解を深めることからスタートし、この点については消化器疾患、肝臓疾患、胆膵疾患に共通した教育を行う。 また、同時に近年その進歩が急である、分子消化器病分野での理解を深め、最新の分子標的治療への対応できる内容とする。 各疾患ごとの講義、カンファレンスを中心に、研究内容を理解するための抄読会、研究のカンファレンスへ出席していただき、消化器疾患病態との関連を学ぶ。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消化器・肝臓病総論</li> <li>2. 肝臓病態学</li> <li>3. 消化管病態学</li> <li>4. 消化器・肝臓病分子病態学</li> <li>5. 消化器内視鏡学実習</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>予め、下記の教科書の関連領域を読んでおくこと。 Molecular Biology of The Cell (Garland Science) Bockus Gastroenterology (Saunders)</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論 I		必修/選択	必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席⑩)	後期(回)	内容 (出席⑩)	
1	1. 消化管疾患の検査の進め方 ①	1	〃 ②	
2	〃 ②	2	〃 ③	
3	〃 ③	3	〃 ④	
4	〃 ④	4	5. 消化管の症候 ①	
5	〃 ⑤	5	〃 ②	
6	2. 消化管運動 ①	6	〃 ③	
7	〃 ②	7	〃 ④	
8	〃 ③	8	6. 肝機能検査の解釈 ①	
9	〃 ④	9	〃 ②	
10	3. 消化・吸収 ①	10	〃 ③	
11	〃 ②	11	〃 ④	
12	〃 ③	12	〃 ⑤	
13	〃 ④	13	〃 ⑥	
14	〃 ⑤	14	〃 ⑦	
15	4. 消化管ホルモン ①	15	〃 ⑧	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	中原一有	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。			
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	7. 肝・胆の画像診断 ①	1	" ④	
2	" ②	2	" ⑤	
3	" ③	3	10. 各種病態 a. 黄疸①	
4	" ④	4	" ②	
5	" ⑤	5	" ③	
6	" ⑥	6	b. 肝不全・肝性昏睡 ①	
7	" ⑦	7	" ②	
8	8. 膵機能検査の解釈 ①	8	" ③	
9	" ②	9	c. 門脈圧亢進症 ①	
10	" ③	10	" ②	
11	" ④	11	" ③	
12	" ⑤	12	d. 肝・腎症候群 ①	
13	9. 膵の画像診断 ①	13	" ②	
14	" ②	14	e. 肝炎ウイルス ①	
15	" ③	15	" ②	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学 I		必修/選択	必修
担当教員	松本伸行	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	
1	細胞周期(I)	1	細胞周期(IV)	
2	〃(II)	2	〃(V)	
3	〃(III)	3	〃(VI)	
4	細胞内シグナル伝達(I)	4	細胞内シグナル伝達(III)	
5	〃(II)	5	〃(IV)	
6	細胞骨格(I)	6	細胞骨格(III)	
7	〃(II)	7	〃(IV)	
8	発癌遺伝子(I)	8	発癌遺伝子(IV)	
9	〃(II)	9	〃(V)	
10	〃(III)	10	〃(VI)	
11	癌抑制遺伝子(I)	11	癌抑制遺伝子(IV)	
12	〃(II)	12	〃(V)	
13	〃(III)	13	〃(VI)	
14	発癌メカニズム(I)	14	発癌メカニズム(III)	
15	〃(II)	15	〃(IV)	

講義担当者承認 Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	消化管病態学 I		必修/選択 必修
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。		
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。		
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席④)	後期(回)	内容 (出席④)
1	1. 食道疾患症例①	1	〃④
2	〃②	2	〃⑤
3	〃③	3	〃⑥
4	〃④	4	4. 大腸疾患症例①
5	〃⑤	5	〃②
6	〃⑥	6	〃③
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①	7	〃④
8	〃②	8	〃⑤
9	〃③	9	〃⑥
10	〃④	10	5. 消化管その他症例①
11	〃⑤	11	〃②
12	〃⑥	12	〃③
13	3. 小腸疾患症例①	13	〃④
14	〃②	14	〃⑤
15	〃③	15	〃⑥

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	肝臓病態学 I		必修/選択 必修
担当教員	奥瀬千晃	担当教員連絡先	内線 3380
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。		
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。		
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席⑩)	後期(回)	内容 (出席⑩)
1	1. ウイルス性肝炎症例①	1	4. 胆道系症例①
2	〃②	2	〃②
3	〃③	3	〃③
4	〃④	4	〃④
5	〃⑤	5	〃⑤
6	2. 肝細胞がん症例①	6	5. 膵疾患症例①
7	〃②	7	〃②
8	〃③	8	〃③
9	〃④	9	〃④
10	〃⑤	10	〃⑤
11	3. 代謝性肝炎症例①	11	6. 肝・胆・膵その他症例①
12	〃②	12	〃②
13	〃③	13	〃③
14	〃④	14	〃④
15	〃⑤	15	〃⑤

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	消化器内視鏡学実習 I		必修/選択 必修
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380
単位数	3 単位(前期 1.5・後期 1.5)	履修年次	1 年
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。		
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。		
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間		
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)
1	内視鏡モデル実習	1	内視鏡モデル実習
2	〃	2	〃
3	〃	3	〃
4	〃	4	〃
5	〃	5	〃
6	〃	6	〃
7	内視鏡画像特論(Ⅰ)	7	〃
8	〃(Ⅱ)	8	〃
9	〃(Ⅲ)	9	〃
10	内視鏡モデル実習	10	〃
11	〃	11	〃
12	〃	12	〃
13	〃	13	〃
14	〃	14	〃
15	〃	15	〃

講義担当者承認 ㊦

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅲ		必修/選択 必修
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。		
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。		
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席④)	後期(回)	内容 (出席④)
1	1. GERDとNERD ①	1	5. クロウン病の治療 ①
2	〃 ②	2	〃 ②
3	〃 ③	3	〃 ③
4	〃 ④	4	〃 ④
5	2. FD ①	5	6. 胃がん治療(非外科的) ①
6	〃 ②	6	〃 ②
7	〃 ③	7	〃 ③
8	〃 ④	8	〃 ④
9	3. <i>H.pylori</i> 感染症 ①	9	7. 大腸がんの治療 ①
10	〃 ②	10	〃 ②
11	〃 ③	11	〃 ③
12	〃 ④	12	〃 ④
13	4. 潰瘍性大腸炎の治療 ①	13	8. 抄読会①
14	〃 ②	14	〃 ②
15	〃 ③	15	〃 ③

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅳ		必修/選択 選択
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。		
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。		
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席④)	後期(回)	内容 (出席④)
1	1. 大腸がんの遺伝子診断①	1	〃②
2	〃②	2	9. 消化器がん化学療法 up date①
3	2. 分子腫瘍学①	3	〃②
4	〃②	4	10.ウイルス肝炎の進歩①病態・診断
5	3. 転移の分子機構①	5	〃②
6	〃②	6	11.ウイルス肝炎診療の進歩②治療
7	4. 膵がんの分子機構①	7	〃②
8	〃②	8	12.ウイルス性肝炎の肝外病変①
9	5. 慢性膵炎の up to date①	9	〃②
10	〃②	10	13.肝がんの分子機構①
11	6. 慢性膵炎の線維化機構①	11	〃②
12	〃②	12	14.肝再生機構①
13	7. 食道がん治療のストラテジー①	13	〃②
14	〃②	14	15.肝線維化機構①
15	8. 分子標的治療の実際①	15	〃②

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学Ⅱ		必修/選択 選択
担当教員	松本伸行	担当教員連絡先	内線 3380
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年(2年でも可)
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。		
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。		
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席⑩)	後期(回)	内容 (出席⑩)
1	分子標的治療(I)	1	分子標的治療(VI)
2	〃 (II)	2	〃 (VII)
3	〃 (III)	3	〃 (VIII)
4	〃 (IV)	4	〃 (IX)
5	〃 (V)	5	〃 (X)
6	モノクローナル抗体(I)	6	モノクローナル抗体(III)
7	〃 (II)	7	〃 (IV)
8	抗体治療基礎(I)	8	抗体治療基礎(IV)
9	〃 (II)	9	〃 (V)
10	〃 (III)	10	〃 (VI)
11	抗体治療応用(I)	11	抗体治療応用(IV)
12	〃 (II)	12	〃 (V)
13	〃 (III)	13	〃 (VI)
14	膀胱癌化学療法(I)	14	膀胱癌化学療法(III)
15	〃 (II)	15	〃 (IV)

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	消化管病態学Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。		
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。		
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席 <sup>㊟</sup> )	後期(回)	内容 (出席 <sup>㊟</sup> )
1	1. 食道疾患症例①	1	〃④
2	〃②	2	〃⑤
3	〃③	3	〃⑥
4	〃④	4	4. 大腸疾患症例①
5	〃⑤	5	〃②
6	〃⑥	6	〃③
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①	7	〃④
8	〃②	8	〃⑤
9	〃③	9	〃⑥
10	〃④	10	5. 消化管その他症例①
11	〃⑤	11	〃②
12	〃⑥	12	〃③
13	3. 小腸疾患症例①	13	〃④
14	〃②	14	〃⑤
15	〃③	15	〃⑥

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	肝臓病態学Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	鈴木通博	担当教員連絡先	内線 3380
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。		
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。		
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	1. ウイルス性肝炎症例①	1	4. 胆道系症例①
2	〃②	2	〃②
3	〃③	3	〃③
4	〃④	4	〃④
5	〃⑤	5	〃⑤
6	2. 肝細胞がん症例①	6	5. 膵疾患症例①
7	〃②	7	〃②
8	〃③	8	〃③
9	〃④	9	〃④
10	〃⑤	10	〃⑤
11	3. 代謝性肝炎症例①	11	6. 肝・胆・膵その他症例①
12	〃②	12	〃②
13	〃③	13	〃③
14	〃④	14	〃④
15	〃⑤	15	〃⑤

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	内視鏡原理(Ⅰ)	1	内視鏡原理(Ⅲ)	
2	〃 (Ⅱ)	2	〃 (Ⅳ)	
3	前処置(Ⅰ)	3	前処置(Ⅲ)	
4	〃 (Ⅱ)	4	〃 (Ⅳ)	
5	上部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)	5	上部消化管内視鏡挿入(Ⅳ)	
6	〃 (Ⅱ)	6	〃 (Ⅴ)	
7	〃 (Ⅲ)	7	〃 (Ⅵ)	
8	下部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)	8	下部消化管内視鏡挿入(Ⅳ)	
9	〃 (Ⅱ)	9	〃 (Ⅴ)	
10	〃 (Ⅲ)	10	〃 (Ⅵ)	
11	内視鏡画像特論(Ⅰ)	11	内視鏡画像特論(Ⅳ)	
12	〃 (Ⅱ)	12	〃 (Ⅴ)	
13	〃 (Ⅲ)	13	〃 (Ⅵ)	
14	抄読会	14	抄読会	
15	〃	15	〃	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅴ		必修/選択	必修
担当教員	高橋秀明	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内容 (出席Ⓜ)	
1	1. B型肝炎の新しい治療 ①	1	6. 自己免疫性肝炎 ①	
2	〃 ②	2	〃 ②	
3	〃 ③	3	〃 ③	
4	2. C型肝炎の抗ウイルス療法 ①	4	7. 胆石治療①	
5	〃 ②	5	〃 ②	
6	〃 ③	6	〃 ③	
7	3. 肝移植 ①	7	8. 自己免疫性膵炎①	
8	〃 ②	8	〃 ②	
9	〃 ③	9	〃 ③	
10	4. 劇症肝炎の治療 ①	10	9. 急性膵炎	
11	〃 ②	11	〃 ②	
12	〃 ③	12	〃 ③	
13	5. NASH ①	13	10. 慢性膵炎①	
14	〃 ②	14	②	
15	〃 ③	15	③	

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病総論VI		必修/選択	選択
担当教員	奥瀬千晃	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。			
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席㊟)	後期(回)	内容 (出席㊟)	
1	1. 大腸がんの遺伝子診断①	1	〃②	
2	〃②	2	9. 消化器がん化学療法 up date①	
3	2. 分子腫瘍学①	3	〃②	
4	〃②	4	10.ウイルス肝炎の進歩①病態・診断	
5	3. 転移の分子機構①	5	〃②	
6	〃②	6	11.ウイルス肝炎診療の進歩②治療	
7	4. 膵がんの分子機構①	7	〃②	
8	〃②	8	12.ウイルス性肝炎の肝外病変①	
9	5. 慢性膵炎の up to date①	9	〃②	
10	〃②	10	13.肝がんの分子機構①	
11	6. 慢性膵炎の線維化機構①	11	〃②	
12	〃②	12	14.肝再生機構①	
13	7. 食道がん治療のストラテジー①	13	〃②	
14	〃②	14	15.肝線維化機構①	
15	8. 分子標的治療の実際①	15	〃②	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	肝癌の癌遺伝子(I)	1	肝癌の癌遺伝子(IV)	
2	〃 (II)	2	〃 (V)	
3	〃 (III)	3	〃 (VI)	
4	肝癌の癌抑制遺伝子(I)	4	肝癌の癌抑制遺伝子(IV)	
5	〃 (II)	5	〃 (V)	
6	〃 (III)	6	〃 (VI)	
7	発癌危険因子(I)	7	発癌危険因子(IV)	
8	〃 (II)	8	〃 (V)	
9	〃 (III)	9	〃 (VI)	
10	発癌メカニズム(I)	10	発癌メカニズム(IV)	
11	〃 (II)	11	〃 (V)	
12	〃 (III)	12	〃 (VI)	
13	発癌コントロール(I)	13	発癌コントロール(IV)	
14	〃 (II)	14	〃 (V)	
15	〃 (III)	15	〃 (VI)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化管病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	石井俊哉	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年(2年でも可)	
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	1. 食道疾患症例①	1	" ④	
2	" ②	2	" ⑤	
3	" ③	3	" ⑥	
4	" ④	4	4. 大腸疾患症例①	
5	" ⑤	5	" ②	
6	" ⑥	6	" ③	
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①	7	" ④	
8	" ②	8	" ⑤	
9	" ③	9	" ⑥	
10	" ④	10	5. 消化管その他症例①	
11	" ⑤	11	" ②	
12	" ⑥	12	" ③	
13	3. 小腸疾患症例①	13	" ④	
14	" ②	14	" ⑤	
15	" ③	15	" ⑥	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	肝臓病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年(2年でも可)	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	1. ウイルス性肝炎症例①	1	4. 胆道系症例①	
2	”②	2	”②	
3	”③	3	”③	
4	”④	4	”④	
5	”⑤	5	”⑤	
6	2. 肝細胞がん症例①	6	5. 膵疾患症例①	
7	”②	7	”②	
8	”③	8	”③	
9	”④	9	”④	
10	”⑤	10	”⑤	
11	3. 代謝性肝炎症例①	11	6. 肝・胆・膵その他症例①	
12	”②	12	”②	
13	”③	13	”③	
14	”④	14	”④	
15	”⑤	15	”⑤	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	内視鏡症例(I)	1	内視鏡症例(I)	
2	〃 (II)	2	〃 (II)	
3	〃 (III)	3	〃 (III)	
4	〃 (IV)	4	〃 (IV)	
5	〃 (V)	5	〃 (V)	
6	内視鏡特論(上部)	6	内視鏡特論(上部)	
7	〃 (下部)	7	〃 (下部)	
8	〃 (膝)	8	〃 (膝)	
9	内視鏡症例(VI)	9	内視鏡症例(VI)	
10	〃 (VII)	10	〃 (VII)	
11	〃 (VIII)	11	〃 (VIII)	
12	〃 (IX)	12	〃 (IX)	
13	〃 (X)	13	〃 (X)	
14	抄読会	14	抄読会	
15	〃	15	〃	

講義担当者承認 ◎

【53-5】平成 29 年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	古茶 大樹
研究・教育の概略	<p>精神医学は、精神症状(異常精神現象)の診断と治療に力点を置くと同時に、幅広く人間の精神現象(正常精神現象も含む)を扱う学問である。「医学的方法にて心の悩み・ゆがみを如何に解決するか」が治療である。そして治療法には、精神療法と身体療法(薬物療法・電気けいれん療法など)がある。精神は、あらゆる人間の機能の中ですべてを統括する高度な機能である。ゲノム科学の発達により、物質的に生命活動(精神活動を含む)を解明できる期待感があり、臓器(脳科学)中心主義に傾く可能性がある。しかし、現状における解明は未だ困難であるため、心を重視し、ヒト全体を把握する必要性が生じる。</p> <p>ヒトの心を診るとは目の前にいる患者の眼差し、表情、動作、身繕いなど、その一挙手一投足を真剣に見つめ、入念な面接を繰り返しながら、その異変を構成している精神医学的徴候を丹念に解き明かしていくプロセスである。これが精神医学の『臨床』というべきものであり、大変に興味深い。精神医学において、臨床的な客観徴候の大部分は患者そのものから表出されるので、このプロセスなくして精神医学の臨床は成立しない。その際、自らを客観的に中立的に置き、監視し、対応することが重要である。</p> <p>その次に生じてくる興味は、おそらく目の前にある精神現象の異変がなぜ起こってくるのかということに向けられてくるはずである。患者をよく診れば診るほど、「何故」という疑問は深くなっていく。これを解き明かしていくプロセスが『研究』で、疑問が素朴であるほど重要な研究テーマになることが多く、従って患者を目の前にした時、常に「何故」という姿勢が重要になっていく。精神医学的方法論には、理科系の方法として、生物学的精神医学、精神薬理学、分子遺伝学、大脳病理学など、文化系の方法として、精神病理学(記述精神医学)、精神分析学(力動精神医学)、社会精神医学、司法精神医学などがある。</p> <p>本分野では臨床へ還元しうる教育、研究を行う。講義・実習の内容は大学院生の研究成果、修得状況を勘案し柔軟に対応する。</p>
研究項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療介入による統合失調症患者の認知機能および症候学的変化に関する研究</li> <li>2. 抗精神病薬投与下における統合失調症患者の主観的症状評価</li> <li>3. うつ病モデルラットを用いたうつ病の病態形成の探求</li> <li>4. うつ病と神経成長因子および認知機能との関係性の探索</li> <li>5. アルツハイマー型認知症の症状進行に関連する因子の探索</li> <li>6. 精神科分野でのプロテオミクス的手法による解析方法の開発</li> <li>7. レビー小体型認知症の認知機能的特徴の探索</li> </ol>
準備学習(予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前より担当教員と連絡をとり、指導を仰ぐこと</li> <li>2. 事前に参考資料を読むこと</li> <li>3. 事後に要点を確認すること</li> </ol>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神科関連疾患 I		必修/選択	必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な知識を得る。			
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 基本的な精神科疾患について基礎的な知識を説明できる。 2. 臨床への応用をおおまかに計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習)	双極性障害病態の理解から治療戦略まで第2版医学書院 加藤忠史著改訂 老年精神医学講座・総論各論 日本老年精神医学会編を読んでおくこと			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席⑩)	後期(回)	内容 (出席⑩)	
1	大うつ病性障害の診断基準	1	双極性障害の概念	
2	大うつ病性障害の症状 I	2	双極性障害の診断基準	
3	大うつ病性障害の症状 II	3	双極 I 型障害の症状 I	
4	大うつ病性障害の症状 III	4	双極 I 型障害の症状 II	
5	大うつ病性障害の症状 IV	5	双極 I 型障害の症状 III	
6	器質性精神障害、抑うつを伴うもの	6	双極 II 型障害の症状 I	
7	物質関連障害、抑うつを伴うもの	7	双極 II 型障害の症状 II	
8	症状精神病、抑うつを伴うもの	8	双極 II 型障害の症状 III	
9	大うつ病性障害の疫学	9	混合状態の特徴、注意点	
10	老年期うつ病の特徴 I	10	双極性障害の疫学	
11	老年期うつ病の特徴 II	11	器質性精神障害、躁症状を伴うもの	
12	老年期うつ病の特徴 III	12	物質関連障害、躁症状を伴うもの	
13	希死念慮について	13	症状精神病、躁症状を伴うもの	
14	基本的治療法	14	基本的治療法	
15	口頭試問	15	口頭試問	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科関連疾患Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	古茶大樹	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な知識を得る。		
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。		
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な知識を説明できる。 2.臨床への応用をおおまかに計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1	統合失調症の概念		1 失調感情障害の診断基準
2	統合失調症の疫学		2 失調感情障害の症状Ⅰ
3	統合失調症の診断基準		3 失調感情障害の症状Ⅱ
4	統合失調症の病型		4 統合失調症と失調感情障害の鑑別
5	統合失調症の症状Ⅰ		5 基本的治療法
6	統合失調症の症状Ⅱ		6 短期精神病性障害の診断基準
7	統合失調症の症状Ⅲ		7 短期精神病性障害の症状
8	統合失調症の症状Ⅳ		8 基本的治療法、対処法
9	統合失調症の症状Ⅴ		9 二人組精神病の診断基準
10	器質性精神障害、幻覚妄想を伴う		10 妄想性障害の診断基準
11	物質関連障害、幻覚妄想を伴う		11 基本的治療法
12	症状精神病、幻覚妄想を伴う		12 PANSS の基礎知識
13	基本的治療法Ⅰ		13 DIEPSS の基礎知識
14	基本的治療法Ⅱ		14 統合失調症関連疾患の鑑別ポイント
15	口頭試問		15 口頭試問

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科治療学 I		必修/選択 必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(前期2)	履修年次	1年
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。		
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。		
達成目標	1.基本的な精神科疾患の治療について基礎的な知識を説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	1.事前に参考資料を読むこと 2.事後に要点を確認すること		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)
1	精神科治療の歴史	1	感情障害の治療法
2	身体療法について I	2	抗うつ薬 I
3	身体療法について II	3	抗うつ薬 II
4	向精神薬の歴史	4	感情調節薬
5	向精神薬の概要	5	抗不安薬の使用法
6	統合失調症急性期治療、興奮	6	大うつ病性障害の薬物治療 I
7	統合失調症急性期治療、昏迷	7	大うつ病性障害の薬物治療 II
8	基本的な抗精神病薬の使用法	8	双極性障害の薬物治療 I
9	統合失調症治療の効果判定	9	双極性障害の薬物治療 II
10	維持期の治療	10	ECT の歴史
11	慢性期統合失調症の薬物治療	11	現在の ECT
12	アカシジア、薬原性錐体外路症状	12	維持療法
13	急性期ジストニア、遅発性ジスキネジア	13	精神療法
14	口頭試問	14	口頭試問
15	口頭試問	15	口頭試問

講義担当者承認

Ⓞ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科診断学概論 I		必修/選択 必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(前期2)	履修年次	1年
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。		
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。		
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2.系統だった鑑別診断を説明できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	教科書、参考書の該当部分を読んでおくこと		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席㊟)	前期(回)	内 容 (出席㊟)
1	状態像と症候群について	1	統合失調症の診断基準
2	抑うつ状態	2	大うつ病エピソードの診断基準
3	不安症候群	3	躁病エピソードの診断基準
4	精神運動抑制状態	4	パニック発作の診断基準
5	昏迷状態	5	広場恐怖の診断基準
6	不眠症候群	6	社会不安障害の診断基準
7	摂食障害群	7	全般性不安障害の診断基準
8	精神運動興奮状態	8	強迫性障害の診断基準
9	躁状態	9	転換性障害の診断基準
10	脱抑制状態	10	心気症の診断基準
11	幻覚妄想状態	11	解離性健忘、とん走の診断基準
12	せん妄状態	12	境界性人格障害の診断基準
13	健忘症候群	13	自己愛性人格障害の診断基準
14	見当識障害	14	反社会性人格障害の診断基準
15	口頭試問	15	口頭試問

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科治療学Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(後期2)	履修年次	1年
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。		
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。		
達成目標	1.精神科疾患の治療について説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	1.事前に参考資料を読むこと 2.事後に要点を確認すること		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
後期(回)	内 容 (出席 <sup>㊟</sup> )	後期(回)	内 容 (出席 <sup>㊟</sup> )
1	老年期精神障害治療の概要	1	認知症の診断、治療について
2	老年期のストレスⅠ	2	認知症のタイプⅠ
3	老年期のストレスⅡ	3	認知症のタイプⅡ
4	老年期のストレスⅢ	4	認知症のタイプⅢ
5	老年期のストレスⅣ	5	認知症のタイプⅣ
6	老年期の代謝Ⅰ	6	認知症のタイプⅤ
7	老年期の代謝Ⅱ	7	画像診断Ⅰ
8	老年期の代謝Ⅲ	8	画像診断Ⅱ
9	老年期うつ病の特徴	9	画像診断Ⅲ
10	重度うつ病に伴う幻覚妄想	10	認知機能評価Ⅰ
11	心気念慮	11	認知機能評価Ⅱ
12	治療薬の選択	12	認知機能評価Ⅲ
13	処方量	13	治療薬
14	電気けいれん療法	14	これからの治療薬の試み
15	口頭試問	15	口頭試問

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神科診断学概論実習		必修/選択	必修
担当教員	古茶大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1単位(後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	基礎的な精神科疾患についての面接技法の修得。			
講義計画	様々な精神科疾患について基礎的な面接技法を実習、修得し、診断を検討する。			
達成目標	1.実際に患者さんと面接し、基礎的な面接技法を修得する。 2.系統だった面接によって診断に至ることができる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習)	実施後にレポート提出			
成績評価法	出席と講義内での実習内容および患者さんに対する面接態度による総合評価			
講義内容				
後期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	統合失調症患者の面接概要	1	精神運動抑制に関する面接技法	
2	いわゆるラポールについて	2	思考抑制に関する面接技法	
3	幻覚に関する面接技法	3	心気念慮に関する面接技法	
4	妄想に関する面接技法	4	自責感に関する面接技法	
5	自我障害に関する面接技法	5	不眠、食思不振に関する面接技法	
6	睡眠、摂食に関する面接技法	6	家族教育	
7	緊張病、昏迷状態での面接技法	7	例題Ⅰ	
8	例題Ⅰ	8	例題Ⅱ	
9	例題Ⅱ	9	例題Ⅲ	
10	例題Ⅲ	10	人格障害患者の面接概要	
11	感情障害患者の面接概要	11	共感の重要性	
12	基本的態度	12	怒りの転移	
13	抑うつ気分に関する面接技法	13	抑うつ感に関する面接技法	
14	不安に関する面接技法	14	イライラ感に関する面接技法	
15	焦燥感に関する面接技法	15	例題	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科関連疾患Ⅲ		必修/選択 必修
担当教員	古茶大樹	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	精神科関連疾患についての最近の知見を得る。		
講義計画	様々な精神科関連疾患について最近の知見を得、研究への応用を検討する。		
達成目標	1.特定の精神科疾患について最近の知見を説明できる。 2.研究への応用をおおまかに計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	統合失調症治療の最近の動向	1	処方薬と薬剤性認知機能障害
2	いわゆる CATIE study について	2	大量処方Ⅰ
3	baseline study について	3	大量処方Ⅱ
4	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅰ	4	大量処方Ⅲ
5	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅱ	5	抗コリン薬の有効性、副作用Ⅰ
6	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅲ	6	抗コリン薬の有効性、副作用Ⅱ
7	各種抗精神病薬の有効性、副作用Ⅳ	7	統合失調症の認知機能低下
8	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅰ	8	抗精神病薬による神経保護作用
9	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅱ	9	抗精神病薬による認知機能障害
10	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅲ	10	抗コリン薬による認知機能障害
11	各種抗精神病薬の作用機序の差異Ⅳ	11	主観的ウェルビーイング
12	各種抗精神病薬のコスト、効果Ⅰ	12	GLYT1 阻害薬
13	各種抗精神病薬のコスト、効果Ⅱ	13	NK3 受容体拮抗薬
14	perphenazine の意味すること	14	プラセボ対照試験
15	口頭試問	15	口頭試問

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科関連疾患IV		必修/選択 必修
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	精神科関連疾患についての最近の知見を得る。		
講義計画	様々な精神科関連疾患について最近の知見を得、研究への応用を検討する。		
達成目標	1.特定の精神科疾患について最近の知見を説明できる。 2.研究への応用をおおまかに計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	臨床精神薬理ハンドブック 樋口輝彦、小山司、神庭重信編集 医学書院を読んでおくこと		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	感情安定薬について	1	抗精神病薬の副作用について
2	炭酸リチウムⅠ	2	アカシジア
3	炭酸リチウムⅡ	3	錐体外路症状
4	炭酸リチウムⅢ	4	薬剤性パーキンソニズムⅠ
5	バルプロ酸ナトリウムⅠ	5	薬剤性パーキンソニズムⅡ
6	バルプロ酸ナトリウムⅡ	6	急性ジストニア
7	カルバマゼピンⅠ	7	遅発性ジスキネジアⅠ
8	カルバマゼピンⅡ	8	遅発性ジスキネジアⅡ
9	蛋白リン酸化	9	遅発性ジストニアⅠ
10	プロテインキナーゼC	10	遅発性ジストニアⅡ
11	セカンドメッセンジャー	11	悪性症候群Ⅰ
12	遺伝子への関与	12	悪性症候群Ⅱ
13	GAP 43	13	横紋筋融解症
14	神経成長因子、神経保護作用	14	高プロラクチン血症
15	口頭試問	15	口頭試問

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	神経精神科学
講義題目	精神科治療学Ⅲ		必修/選択 必修
担当教員	古茶大樹	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(前期2)	履修年次	2年
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。		
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。		
達成目標	1.精神科疾患の治療について説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席㊟)	前期(回)	内 容 (出席㊟)
1	第2世代抗精神病薬の概要	1	日本の精神科薬物治療の現実
2	第2世代抗精神病薬Ⅰ	2	大量多剤投与の弊害
3	第2世代抗精神病薬Ⅱ	3	大量多剤投与の原因Ⅰ
4	第2世代抗精神病薬Ⅲ	4	大量多剤投与の原因Ⅱ
5	第2世代抗精神病薬Ⅳ	5	大量多剤投与の原因Ⅲ
6	第2世代抗精神病薬Ⅴ	6	処方改善を阻む因子Ⅰ
7	単剤処方	7	処方改善を阻む因子Ⅱ
8	治療効果の評価について	8	処方改善を阻む因子Ⅲ
9	主観的ウェルビーイング	9	単剤処方へのスイッチング
10	神経保護作用	10	スイッチング過程の諸問題Ⅰ
11	脳由来栄養因子	11	スイッチング過程の諸問題Ⅱ
12	スイッチングについてⅠ	12	スイッチング過程の諸問題Ⅲ
13	スイッチングについてⅡ	13	スイッチングの実際Ⅰ
14	スイッチングについてⅢ	14	スイッチングの実際Ⅱ
15	口頭試問	15	口頭試問

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏 名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神科治療学IV		必修/選択 必修		
担当教員	古茶大樹	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位(後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	精神科関連疾患の治療について基礎的な知識を得る。				
講義計画	様々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1.精神科疾患の治療について説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1			1	向精神薬の神経保護作用 I	
2			2	向精神薬の神経保護作用 II	
3			3	向精神薬の神経保護作用 III	
4			4	脳由来栄養因子	
5			5	サイトカイン	
6			6	統合失調症患者の画像検査	
7			7	統合失調症と頭部 MRI 画像 I	
8			8	統合失調症と頭部 MRI 画像 II	
9			9	統合失調症と頭部 MRI 画像 III	
10			10	向精神薬と頭部 PET 画像 I	
11			11	向精神薬と頭部 PET 画像 II	
12			12	向精神薬と頭部 PET 画像 III	
13			13	evidence based medicine I	
14			14	evidence based medicine II	
15			15	口頭試問	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科診断学概論Ⅱ		必修/選択 必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	2単位(前期2)	履修年次	2年
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。		
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。		
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2.系統だった鑑別診断を説明できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	1.事前に参考資料を読むこと 2.事後に要点を確認すること		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席㊟)	前期(回)	内容 (出席㊟)
1	長谷川式簡易知能評価スケール	1	画像診断(MRIとSPECT)Ⅰ
2	STM-COMET	2	画像診断(MRIとSPECT)Ⅱ
3	MMSE	3	画像診断(MRIとSPECT)Ⅲ
4	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅰ	4	画像診断(MRIとSPECT)Ⅳ
5	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅱ	5	レビー小体型認知症の特徴Ⅰ
6	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅲ	6	レビー小体型認知症の特徴Ⅱ
7	アルツハイマー型認知症の認知能低下Ⅳ	7	レビー小体型認知症の特徴Ⅲ
8	mild cognitive impairment	8	前頭側頭型認知症の特徴Ⅰ
9	診断基準のあいまいさ	9	前頭側頭型認知症の特徴Ⅱ
10	ADの周辺症状Ⅰ	10	前頭側頭型認知症の特徴Ⅲ
11	ADの周辺症状Ⅱ	11	血管性認知症の診断基準
12	ADの周辺症状Ⅲ	12	クロイツフェルトーヤコブ病
13	アルツハイマー型認知症とうつ病	13	大脳皮質基底核変性症
14	アルツハイマー型認知症と海馬	14	進行性核上性麻痺
15	口頭試問	15	口頭試問

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	精神科診断学概論Ⅲ		必修/選択 必修
担当教員	古茶 大樹	担当教員連絡先	内線 3202
単位数	1単位(後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得。		
講義計画	様々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。		
達成目標	1.基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2.系統だった鑑別診断を説明できる。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習)	1.事前に参考資料を読むこと 2.事後に要点を確認すること		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回) 内 容 (出席㊟)
1			1 せん妄Ⅰ
2			2 せん妄Ⅱ
3			3 せん妄Ⅲ
4			4 器質性精神障害Ⅰ
5			5 器質性精神障害Ⅱ
6			6 器質性精神障害Ⅲ
7			7 症状精神病Ⅰ
8			8 症状精神病Ⅱ
9			9 症状精神病Ⅲ
10			10 物質関連障害Ⅰ
11			11 物質関連障害Ⅱ
12			12 物質関連障害Ⅲ
13			13 睡眠障害Ⅰ
14			14 睡眠障害Ⅱ
15			15 口頭試問

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	臨床精神医学特論		必修/選択	選択
担当教員	古茶大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位 (通年第3金曜日)	履修年次	1 年	
テーマと目的	精神科臨床上の現在の問題をとりあげ、臨床上に生かす			
講義計画	精神科関連疾患で現在話題になっていること、問題、現象、疾患、治療について特別講師を招聘し、講義いただく。			
達成目標	1.精神科臨床上の最近の問題について説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容
1	SSRI の最近の話題		1	
2	前方型認知症について		2	
3	精神疾患における認知行動療法		3	
4	分子イメージングで探る精神疾患の病態と治療		4	
5	軽度発達障害の病態・診断・治療		5	
6	癌治療における精神医学的な問題とその対応について		6	
7	認知症と生活習慣病		7	
8	口頭試問		8	
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	精神療法特論		必修/選択	選択
担当教員	長田 賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(前期4回・後期4回)	履修年次	1 年	
テーマと目的	力動的精神療法を学習し、臨床面接に応用する			
講義計画	様々な臨床場面における力動的精神療法の実際を学習し、問題点を検討する。 (前期 4 回、後期 4 回:講義日は受講者に随時連絡)			
達成目標	1.力動的精神療法について説明できる 2.精神療法の適応の可否を理解できる			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習)	参考資料を読んでおくこと			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席 <sup>㊟</sup> )	後期(回)	内 容
1	力動的精神療法について		1	操作的診断基準の限界
2	虐待を行ってしまう母親への治療的なアプローチ		2	思春期の個人精神療法
3	力動面接について		3	小児科における心理士の臨床活動
4	子どものアセスメントと治療構造		4	口頭試問
5			5	
6			6	
7			7	
8			8	
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	うつ病治療学			必修/選択	選択
担当教員	長田賢一	担当教員連絡先	内線 3202		
単位数	1 単位(通年第 1 金曜日)	履修年次	2 年		
テーマと目的	薬物療法、精神療法などうつ病の治療全般について				
講義計画	うつ病の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標	1.うつ病治療について理解し説明できる。 2.臨床への応用を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習)	臨床精神薬理ハンドブック 樋口輝彦、小山司、神庭重信編集 医学書院を読んでおくこと				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	うつ病の病態		1		
2	うつ病の生化学的解釈		2		
3	抗うつ薬の作用機序		3		
4	SSRI の臨床的使用方法		4		
5	SNRI の臨床的使用方法		5		
6	三環形抗うつ薬の臨床的使用方法		6		
7	認知行動療法		7		
8	口頭試問		8		
9			9		
10			10		
11			11		
12			12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	不安障害治療学		必修/選択	選択
担当教員	長田賢一	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(通年第 2 金曜日)	履修年次	2 年	
テーマと目的	薬物療法、精神療法など不安障害の治療全般について			
講義計画	不安障害の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 不安障害治療について理解し説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習)	臨床精神薬理ハンドブック 樋口輝彦、小山司、神庭重信編集 医学書院を読んでおくこと			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	不安障害の病態		1	
2	不安障害の生化学的解釈		2	
3	抗不安薬の作用機序		3	
4	抗不安薬の臨床的使用方法-1		4	
5	抗不安薬の臨床的使用方法-2		5	
6	SSRI/SNRI の臨床的使用方法		6	
7	認知行動療法		7	
8	口頭試問		8	
9			9	
10			10	
11			11	
12			12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	統合失調症治療学		必修/選択	選択
担当教員	古茶大樹	担当教員連絡先	内線 3202	
単位数	1 単位(通年第 3 金曜日)	履修年次	2 年	
テーマと目的	薬物療法、精神療法など統合失調症の治療全般について			
講義計画	統合失調症の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。			
達成目標	1. 統合失調症治療について理解し 説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習)	事前に参考資料を読むこと			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	統合失調症の病態	1		
2	統合失調症の生化学的解釈	2		
3	抗精神病薬の作用機序	3		
4	第 2 世代抗精神病薬の臨床的使用方法 1	4		
5	第 2 世代抗精神病薬の臨床的使用方法 2	5		
6	抗精神病薬の臨床的使用方法 1	6		
7	抗精神病薬の臨床的使用方法 2	7		
8	口頭試問	8		
9		9		
10		10		
11		11		
12		12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認 ⑩

【53-6】平成29年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	仁木久照
研究 ・ 教 育 の 概 略	<p>整形外科は運動器の機能障害を主たる対象とし、その病理と治療法を研究し、かつ、これにともなう全身的、精神的影響にまで考慮を払う学問である。</p> <p>運動器は四肢、体幹を含むものであるが、これらに要求される機能は運動と姿勢保持の2つである。</p> <p>解剖学で運動・支持器官といえば、骨・関節・筋・腱などであるが、整形外科では、さらに脊髄・末梢神経、さらに四肢の血管に関する問題も含まれる。</p> <p>治療法で観血的・非観血的、すなわち手術療法と整形外科的保存法に大別される。近年、手術療法には様々な生体内材料が用いられるようになり、これら生体内材料の強度、使用方法の適正化には工学的知識が要求され、学識領域としての医用生体工学が発展しつつあり、この領域の理解も必須である。整形外科的保存療法もかつては整形外科的理学療法が主体を占めていたが、現在ではリハビリテーション医学としての理学療法、作業療法が広く行われるようになっている。したがって全人的医療、包括的医療を実施する上で、整形外科とリハビリテーション医学とは不即不離の関係にある。</p> <p>このように広範囲に及ぶ整形外科全領域にわたる進歩を容易に理解し、吸収する能力を養う素地をつくるのが大学院学生には必要となる。さらに個々の大学院生には臨床、基礎に関連した研究テーマを与えて、この分野を習得することが目標となる</p>
研究 項 目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨粗鬆症性脊椎骨折後に起こる姿勢異常が肩前方挙上に及ぼす影響について</li> <li>2. 仮骨延長における力学的強度向上の探索</li> <li>3. 手関節疾患領域の解剖学的研究</li> <li>4. 肘関節疾患領域の解剖学的研究</li> <li>5. 筋肉生理の基礎的研究</li> <li>6. 転倒予防の臨床的研究</li> <li>7. 後脛骨筋機能不全の臨床研究</li> <li>8. 同種移植の免疫応答の基礎的研究など</li> </ol>
準備学習(予習・復習)	<p>事前に参考資料を読むこと</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科外傷学概論 実習		必修/選択 必修
担当教員	笹 益雄・松下 和彦	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年
テーマと目的	外傷処置の基本的技術、超音波検査、手術手技(関節鏡・マイクロサージャリー技術)を実習する		
講義計画	関節鏡の手技を実際のモデルを使用して行う(整形外科研究室にて) 顕微鏡での神経、血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う 超音波検査を実際の機械を使用して、その手技を習得する		
達成目標	1. 関節鏡・超音波検査の基本的な手技と方法を理解し、説明できる 2. 神経・血管縫合の基本的な手技と方法を理解し、説明できる		
教科書・参考書	1. 整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社) 2. 整形外科超音波診断マニュアル(MB orthopaedics)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回) 内 容 (出席⑩)
1	関節鏡の歴史		1 マイクロサージャリー手技の基本(1)
2	関節鏡の操作の基本		2 マイクロサージャリー手技の基本(2)
3	膝関節鏡(1)の実際		3 マイクロサージャリー手技の基本(3)
4	膝関節鏡(2)の実際		4 神経縫合の実際(1)
5	膝関節鏡(3)の実際		5 神経縫合の実際(2)
6	膝関節鏡(4)の実際		6 神経縫合の実際(3)
7	肩関節鏡(1)の実際		7 血管縫合の実際(1)
8	肩関節鏡(2)の実際		8 血管縫合の実際(2)
9	肩関節鏡(3)の実際		9 血管縫合の実際(3)
10	肘関節鏡(1)の実際		10 血管縫合の実際(4)
11	肘関節鏡(2)の実際		11 超音波検査の基本
12	手関節鏡(1)の実際		12 超音波検査の実際
13	手関節鏡(2)の実際		13 超音波検査の実際
14	前期のまとめ(1)		14 後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)		15 後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科疾患・外傷の手術法・適応概論 (I)		必修/選択 必修
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて、基本的な手術適応、治療法を理解する		
講義計画	手術症例検討会で患者の病状経過、手術法、合併症の計画を立て、検討する。		
達成目標	1. 基本的には外傷、疾患の手術法、合併症について説明できる。 2. 患者の病態に基づいた管理を計画できる。		
教科書・参考書	1. 片山整形外科手術書(南江堂) 2. 整形外科医のための手術解剖学図説		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	整形外科手術症例検討会(1)	1	整形外科手術症例検討会(1)
2	整形外科手術症例検討会(2)	2	整形外科手術症例検討会(2)
3	整形外科手術症例検討会(3)	3	整形外科手術症例検討会(3)
4	整形外科手術症例検討会(4)	4	整形外科手術症例検討会(4)
5	整形外科手術症例検討会(5)	5	整形外科手術症例検討会(5)
6	整形外科手術症例検討会(6)	6	整形外科手術症例検討会(6)
7	整形外科手術症例検討会(7)	7	整形外科手術症例検討会(7)
8	整形外科手術症例検討会(8)	8	整形外科手術症例検討会(8)
9	整形外科手術症例検討会(9)	9	整形外科手術症例検討会(9)
10	整形外科手術症例検討会(10)	10	整形外科手術症例検討会(10)
11	整形外科手術症例検討会(11)	11	整形外科手術症例検討会(11)
12	整形外科手術症例検討会(12)	12	整形外科手術症例検討会(12)
13	整形外科手術症例検討会(13)	13	整形外科手術症例検討会(13)
14	整形外科手術症例検討会(14)	14	整形外科手術症例検討会(14)
15	整形外科手術症例検討会(前期まとめ)	15	整形外科手術症例検討会(後期まとめ)

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科疾患・外傷の手術法・適応概論(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて、整形外科全般の疾患・外傷の手術適応、治療法を理解する				
講義計画	手術症例検討会で患者の病状経過、手術法、合併症の計画を立て、検討する。				
達成目標	1. 基本的な外傷、疾患の手術法、合併症について説明できる。 2. 患者の病態に基づいた管理を計画できる。 3. 保存療法の限界と適応を説明できる。				
教科書・参考書	1. 最新整形外科学体系(中山書店) 2. 整形外科医のための手術解剖学図説 3. 神中整形外科学(南山堂)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席⑩)	後期(回)	内容	(出席⑩)
1	整形外科手術症例検討会(1)		1	整形外科手術症例検討会(1)	
2	整形外科手術症例検討会(2)		2	整形外科手術症例検討会(2)	
3	整形外科手術症例検討会(3)		3	整形外科手術症例検討会(3)	
4	整形外科手術症例検討会(4)		4	整形外科手術症例検討会(4)	
5	整形外科手術症例検討会(5)		5	整形外科手術症例検討会(5)	
6	整形外科手術症例検討会(6)		6	整形外科手術症例検討会(6)	
7	整形外科手術症例検討会(7)		7	整形外科手術症例検討会(7)	
8	整形外科手術症例検討会(8)		8	整形外科手術症例検討会(8)	
9	整形外科手術症例検討会(9)		9	整形外科手術症例検討会(9)	
10	整形外科手術症例検討会(10)		10	整形外科手術症例検討会(10)	
11	整形外科手術症例検討会(11)		11	整形外科手術症例検討会(11)	
12	整形外科手術症例検討会(12)		12	整形外科手術症例検討会(12)	
13	整形外科手術症例検討会(13)		13	整形外科手術症例検討会(13)	
14	整形外科手術症例検討会(14)		14	整形外科手術症例検討会(14)	
15	整形外科手術症例検討会(前期まとめ)		15	整形外科手術症例検討会(後期まとめ)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	整形外科外傷学概論(Ⅰ)		必修/選択	必修
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	代表的な骨折、外傷、関節外傷の基本的診察法と治療の原則を理解する			
講義計画	実際の症例、X線所見から代表的な骨折、外傷、関節外傷の病態を検討する。			
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の外傷の診断と治療の要点を説明できる 2. 開放骨折の初期治療の要点を説明できる			
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間			
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内容	(出席⑩)	後期(回)	内容 (出席⑩)
1	骨折の病理(1)		1	肩反復性脱臼の病態・治療
2	骨折の病理(2)		2	モンテジア骨折の病態・治療
3	開放骨折の初期治療(1)		3	ガレアジイ骨折の病態・治療
4	開放骨折の初期治療(2)		4	股関節脱臼の病態・治療
5	局所救急処置の基本		5	大腿骨頸部骨折の病態・治療(1)
6	鎖骨骨折の病態・治療		6	大腿骨頸部骨折の病態・治療(2)
7	腕神経叢麻痺の病態・治療		7	大腿骨頸部骨折の病態・治療(3)
8	上腕骨骨折の病態・治療		8	大腿骨頸部骨折の病態・治療(4)
9	上腕骨顆上骨折の病態・治療		9	大腿骨頸部骨折の病態・治療(5)
10	上腕骨外顆骨折の病態・治療		10	大腿骨骨折の病態・治療
11	前腕骨骨折の病態・治療		11	小児大腿骨頸部骨折の病態・治療
12	橈骨遠位端骨折の病態・治療(1)		12	膝蓋骨骨折の病態・治療
13	橈骨遠位端骨折の病態・治療(2)		13	大腿骨骨折顆上の病態・治療
14	肩鎖関節脱臼の病態・治療		14	予備日
15	前期のまとめ(総合討論と発表)		15	後期のまとめ(総合討論と発表)

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科外傷学概論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	仁木 久照	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	代表的な骨折、外傷、関節外傷の基本的診察法と治療の原則を理解する		
講義計画	実際の症例、X線所見から代表的な骨折、外傷、関節外傷の病態を検討する。		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の外傷の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 開放骨折の初期治療と機能再建法について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	下腿骨骨折の病態・治療	1	舟状骨骨折の病態・治療
2	足関節骨折の病態・治療	2	手指骨折の病態・治療
3	アキレス腱断裂の病態・治療	3	指屈筋腱断裂の病態・治療(1)
4	距骨骨折の病態・治療	4	指屈筋腱断裂の病態・治療(2)
5	胸郭外傷の病態・治療	5	指屈筋腱断裂の病態・治療(3)
6	頸椎外傷の病態・治療	6	伸筋腱断裂の病態・治療
7	胸椎外傷の病態・治療	7	切断指の病態・治療
8	腰椎外傷の病態・治療	8	末梢神経損傷の病態・治療
9	頸椎捻挫の病態・治療	9	血管損傷の病態・治療
10	骨盤骨折の病態・治療(1)	10	脊髄損傷の病態・治療(1)
11	骨盤骨折の病態・治療(2)	11	脊髄損傷の病態・治療(2)
12	骨盤骨折の病態・治療(3)	12	脊髄損傷の病態・治療(3)
13	骨盤骨折の病態・治療(4)	13	分娩麻痺の病態・治療
14	手の外科外傷の病態	14	予備日
15	前期のまとめ(総合討論と発表)	15	後期のまとめ(総合討論と発表)

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科疾患総論(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	大沼弘幸	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて基本的疾患の病態を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患(感染、代謝、系統、退行性疾患、リウマチ性疾患など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		

講義内容

前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	骨の生理・構造・生化学(1)	1	筋肉の構造
2	骨の生理・構造・生化学(2)	2	筋肉の生理
3	骨の生理・構造・生化学(3)	3	筋肉の生化学
4	骨の生理・構造・生化学(4)	4	神経の構造
5	関節の構造と生化学(1)	5	神経の生理
6	関節の構造と生化学(2)	6	神経の生化学
7	関節の構造と生化学(3)	7	整形外科診断学(1)
8	関節の構造と生化学(4)	8	整形外科診断学(2)
9	骨・関節の病態生理(1)	9	整形外科診断学(3)
10	骨・関節の病態生理(2)	10	整形外科治療学(保存1)
11	骨・関節の病態生理(3)	11	整形外科治療学(保存2)
12	骨・関節の病態生理(4)	12	整形外科治療学(観血1)
13	骨の発育	13	整形外科治療学(観血2)
14	骨の再生	14	整形外科治療学(観血3)
15	前期のまとめ(総合討論と発表)	15	後期のまとめ(総合討論と発表)

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	整形外科疾患総論(Ⅱ)		必修/選択 必修		
担当教員	新井 猛	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて代表的、まれな疾患の病態を理解する				
講義計画	整形外科学の基本的疾患(感染、代謝、系統、退行性疾患、リウマチ性疾患など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	骨・関節の感染症(1)		1	骨系統疾患(1)	
2	骨・関節の感染症(1)		2	骨系統疾患(1)	
3	骨・関節の感染症(1)		3	先天性疾患(1)	
4	骨・関節の感染症(1)		4	先天性疾患(2)	
5	リウマチとその類似疾患(1)		5	先天性疾患(3)	
6	リウマチとその類似疾患(2)		6	骨腫瘍(1)	
7	リウマチとその類似疾患(3)		7	骨腫瘍(2)	
8	代謝疾患		8	骨腫瘍(3)	
9	退行性疾患(1)		9	軟部腫瘍(1)	
10	退行性疾患(2)		10	軟部腫瘍(2)	
11	四肢循環障害(1)		11	麻痺性疾患(1)	
12	四肢循環障害(2)		12	麻痺性疾患(2)	
13	阻血性疾患(1)		13	筋疾患(1)	
14	阻血性疾患(2)		14	筋疾患(2)	
15	前期のまとめ・討議		15	後期のまとめ・討議	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科疾患各論(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	鳥居良昭	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて基本的疾患の詳しい病態と治療法を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患(関節・脊椎・脊髄・スポーツ損傷など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席㊟)	後期(回)	内容 (出席㊟)
1	骨髄炎の病態・治療	1	ペルテス病の病態・治療
2	化膿性関節の病態・治療	2	キーンベック病の病態・治療
3	骨・関節結核の病態・治療	3	他の骨端症の病態・治療
4	関節リウマチの病態・治療	4	レイノー病の病態・治療
5	痛風の病態・治療	5	閉塞性動脈硬化症の病態・治療
6	関節ねずみの病態・治療	6	肘部管症候群の病態・治療
7	血友病性関節症の病態・治療	7	ギオン管症候群の病態・治療
8	シャルコー関節の病態・治療	8	手根管症候群の病態・治療
9	骨肉腫の病態・治療	9	前・後骨間神経症候群の病態・治療
10	骨巨細胞腫の病態・治療	10	足根管症候群の病態・治療
11	ユーイング肉腫の病態・治療	11	骨形成不全の病態・治療
12	転移性骨腫瘍の病態・治療	12	骨軟化症の病態・治療
13	類骨骨腫の病態・治療	13	くる病の病態・治療
14	骨粗鬆症の病態・治療	14	筋性斜頸の病態・治療
15	前期のまとめ・討議	15	後期のまとめ・討議

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科疾患各論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	新井猛	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて代表的、まれな疾患の病態を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患(関節・脊椎・脊髄・スポーツ損傷など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席ⓐ)	後期(回)	内 容 (出席ⓐ)
1	骨粗鬆症の病態・治療(1)	1	大腿骨頭壊死の病態・治療
2	骨粗鬆症の病態・治療(2)	2	変形性膝関節症の病態・治療(1)
3	脳性麻痺の病態・治療	3	変形性膝関節症の病態・治療(2)
4	変形性脊椎症の病態・治療	4	内反足の病態・治療
5	頸髄症の病態・治療	5	扁平足の病態・治療
6	椎間板ヘルニアの病態・治療	6	変形性足関節症の病態・治療
7	腰椎すべり症の病態・治療	7	スポーツ障害の病態・治療
8	側彎症の病態・治療	8	化学療法の実際
9	脊髄腫瘍の病態・治療	9	脊柱管狭窄症の病態・治療(1)
10	肩関節脱臼の病態・治療	10	脊柱管狭窄症の病態・治療(2)
11	肩周炎の病態・治療	11	予備日
12	テニス肘の病態・治療	12	予備日
13	先天性股関節脱臼の病態・治療	13	整形疾患全体の病態・治療
14	変形性股関節症の病態・治療	14	後期のまとめ・討議
15	前期のまとめ・討議	15	後期のまとめ・討議

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	リハビリテーション医学概論(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	新井猛	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	整形外科に関するリハビリテーションの概念・適応を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患・外傷の症例を通じてリハビリテーションの概念と適応を理解し、社会復帰までの管理を検討する		
達成目標	1. 症例におけるリハビリテーションの適応と医師の役割を説明できる 2. 日常生活動作の評価と要介護患者の退院計画が立案できる		
教科書・参考書	1. 現代リハビリテーション医学(千野直一編、金原出版) 2. 義肢装具のチェックポイント第6版(医学書院)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	リハビリテーション医学の定義	1	運動障害の評価(1)
2	リハビリテーション医学の歴史	2	運動障害の評価(2)
3	リハビリテーション医療関連職	3	疼痛の評価
4	機能解剖(上肢)	4	日常生活動作の評価(1)
5	機能解剖(下肢)	5	日常生活動作の評価(2)
6	機能解剖(体幹)	6	治療学(筋力増強訓練)
7	反射	7	治療学(持久力訓練)
8	姿勢	8	治療学(関節可動域訓練)
9	歩行	9	物理療法(1)
10	上肢の動作	10	物理療法(2)
11	筋電図(1)	11	物理療法(3)
12	筋電図(2)	12	バイオフィードバック療法
13	筋電図(3)	13	牽引療法
14	前期総合討論(1)	14	後期総合討論(1)
15	前期総合討論(2)	15	後期総合討論(2)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	リハビリテーション医学概論(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員	大沼弘幸	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	整形外科に関するリハビリテーションの概念・適応を理解する				
講義計画	整形外科学の基本的疾患・外傷の症例を通じてリハビリテーションの概念と適応を理解し、社会復帰までの管理を検討すること、さらに整形外科要介護患者の退院計画を立案する				
達成目標	1. 症例におけるリハビリテーションの適応と医師の役割を説明できる 2. 日常生活動作の評価と要介護患者の退院計画が立案できる 3. 脊髄損傷後のリハビリテーション計画の立案と退院計画を説明できる				
教科書・参考書	1. 現代リハビリテーション医学(千野直一編、金原出版) 2. 義肢装具のチェックポイント第6版(医学書院)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	水治療		1	リハビリテーション器械(1)(車椅子)	
2	電気治療		2	リハビリテーション器械(2)(車椅子)	
3	神経ブロック		3	リハビリテーション各論(脳性麻痺)	
4	歩行訓練		4	リハビリテーション各論(脊髄損傷1)	
5	作業療法(1)		5	リハビリテーション各論(脊髄損傷2)	
6	作業療法(2)		6	リハビリテーション各論(脊髄損傷3)	
7	作業療法(3)		7	リハビリテーション各論(脊髄損傷4)	
8	作業療法(4)		8	切断	
9	義肢・装具療法(1)		9	スポーツ外傷とリハビリテーション	
10	義肢・装具療法(2)		10	在宅リハビリテーション	
11	義肢・装具療法(3)		11	社会保障	
12	義肢・装具療法(4)		12	身体障害診断書の書き方	
13	前期総合討論(1)		13	後期総合討論(1)	
14	前期総合討論(2)		14	後期総合討論(2)	
15	前期総合討論(3)		15	後期総合討論(3)	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅱ)		必修/選択 選択
担当教員	笹 益雄	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の基本的な手技と方法を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	マイクロサージャリー手技の基本(1)	1	マイクロサージャリー手技の基本(4)
2	マイクロサージャリー手技の基本(2)	2	マイクロサージャリー手技の基本(5)
3	マイクロサージャリー手技の基本(3)	3	マイクロサージャリー手技の基本(6)
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅲ)		必修/選択 選択
担当教員	松下和彦	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の基本的な手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	マイクロサージャリー手技の基本(1)	1	マイクロサージャリー手技の基本(4)
2	マイクロサージャリー手技の基本(2)	2	マイクロサージャリー手技の基本(5)
3	マイクロサージャリー手技の基本(3)	3	マイクロサージャリー手技の基本(6)
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅳ)		必修/選択 選択
担当教員	鳥居良昭	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席㊟)	後期(回)	内容 (出席㊟)
1	マイクロサージャリー手技の応用(1)	1	マイクロサージャリー手技の応用(4)
2	マイクロサージャリー手技の応用(2)	2	マイクロサージャリー手技の応用(5)
3	マイクロサージャリー手技の応用(3)	3	マイクロサージャリー手技の応用(6)
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(V)		必修/選択 選択
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)
1	マイクロサージャリー手技の実際(1)	1	マイクロサージャリー手技の実際(4)
2	マイクロサージャリー手技の実際(2)	2	マイクロサージャリー手技の実際(5)
3	マイクロサージャリー手技の実際(3)	3	マイクロサージャリー手技の実際(6)
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(VI)		必修/選択 選択
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席㊟)	後期(回)	内容 (出席㊟)
1	マイクロサージャリー皮弁の実際(1)	1	マイクロサージャリー皮弁の実際(4)
2	マイクロサージャリー皮弁の実際(2)	2	マイクロサージャリー皮弁の実際(5)
3	マイクロサージャリー皮弁の実際(3)	3	マイクロサージャリー皮弁の実際(6)
4	皮弁作成の実際(1)	4	皮弁作成の実際(11)
5	皮弁作成の実際(2)	5	皮弁作成の実際(12)
6	皮弁作成の実際(3)	6	皮弁作成の実際(13)
7	皮弁作成の実際(4)	7	皮弁作成の実際(14)
8	皮弁作成の実際(5)	8	皮弁作成の実際(15)
9	皮弁作成の実際(6)	9	皮弁作成の実際(16)
10	皮弁作成の実際(7)	10	皮弁作成の実際(17)
11	皮弁作成の実際(8)	11	皮弁作成の実際(18)
12	皮弁作成の実際(9)	12	皮弁作成の実際(19)
13	皮弁作成の実際(10)	13	皮弁作成の実際(20)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ㊟

【53-7】平成29年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Medical Research)
研究指導教員	藤谷 博人
研究・教育の概略	<p>スポーツ医学は、発育期から高齢者までを対象に、運動やスポーツ活動によって生じる身体的・心理的変化を明らかにし、運動能力の向上や健康の維持増進を目的とする。</p> <p>大きな柱として、第 1 に、スポーツにおける幼少期から老年期までの男女の身体的・精神的機能の探究。第 2 に、スポーツにおける疾病・外傷・障害の予防と治療。第 3 に、トップアスリートに対する競技能力の向上。第 4 に、女性特有のスポーツ外傷・障害の予防のための探究である。</p> <p>幼少期におけるスポーツの役割は、各器官の生理的機能の向上に加えて、精神的にも協調性や自主性などの社会生活に必要な要素を得るのに必要不可欠である。また、老年期に向かうにつれ、筋萎縮や骨塩量の低下、内分泌ホルモンの低下が認められ、これらの生理的変化に対するスポーツの影響を調べることは、スポーツ医学にとって重要なテーマである。</p> <p>生活習慣病・メタボリックシンドロームの予防においても、運動は大きな役割をしており、各専門分野との協力により運動療法による治療指針を確立し、評価していくことは、重要な課題である。また、スポーツの大きな効果として、心理面への効用があるが、リラクゼーションやストレスの緩和が注目されている。現代におけるストレス社会にとって、この分野の研究も不可欠であり、今後の研究が待たれている課題である。</p> <p>トップアスリートに対する競技力の向上に対する研究は、トップアスリートのためのみならず、一般人に対しても、応用ができる有用な探究である。トップアスリートに必要な効率のよい筋力トレーニングや心肺機能の向上の方法、極限状態の精神的ケア、身体的ケアなどの多くの知見は、トップアスリート以外の一般人に対して役立てることができる。</p>
研究項目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筋損傷、再生に関する研究</li> <li>2. 骨修復、骨再生への新規薬剤の研究、開発</li> <li>3. 装具バイオメカニクス的研究</li> <li>4. 早期リアスレティック・リハビリテーション手技の研究</li> <li>5. 発育期スポーツ選手のスポーツ傷害と心理的変化に関する研究</li> <li>6. スポーツシューズと傷害予防</li> <li>7. スポーツ外傷・傷害の疫学調査と予防法の策定</li> <li>8. 中高年の健康づくりのための運動処方策定</li> <li>9. スポーツによる心肺機能の変化および生命予後に関する研究</li> </ol>
準備学習(予習・復習)	<p>参考書の関係科目頁を読んでくること。</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	スポーツ医学特論		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	運動による生理的変化、およびスポーツ傷害・疾病学に関する基礎的事項を学ぶ。				
講義計画	運動による生理的変化、およびスポーツ傷害・疾病学に関する基礎的事項について概説する。				
達成目標	1. スポーツ医学に必要な身体の構造、機能について理解し、説明できる。 2. スポーツ傷害・疾病等に関する対処法について理解し、説明できる。				
教科書・参考書	1. スポーツ医学研修ハンドブック－基本科目－第二版(日本体育協会監修、文光堂) 2. スポーツ医学【基礎と臨床】(日本体力医学会学術委員会監修、朝倉書店、1998)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	スポーツ医学概論		1	メディカルチェック(2)－整形外科系	
2	神経・筋の運動生理とトレーニング効果(1)		2	運動と内科(1)－生理的・病的変化	
3	神経・筋の運動生理と	〃 (2)	3	運動と内科(2)－突然死、熱中症	
4	呼吸・循環系の運動生理と	〃 (1)	4	運動と外傷(1)－過労性スポーツ障害	
5	呼吸・循環系の運動生理と	〃 (2)	5	運動と外傷(2)－骨・関節の外傷	
6	内分泌・代謝系の運動生理と	〃 (1)	6	運動と外傷(3)－軟部組織の外傷	
7	内分泌・代謝系の運動生理と	〃 (2)	7	運動と外傷(4)－頭部外傷	
8	運動と栄養・食事・飲料		8	運動負荷テスト概論(1)	
9	女性と運動		9	運動負荷テスト概論(2)	
10	運動と年齢(1)－整形外科系		10	運動処方概論(1)	
11	運動と年齢(2)－整形外科系		11	運動処方概論(2)	
12	運動と年齢(3)－内科系		12	運動療法とリハビリテーション(1)内科系	
13	運動と年齢(4)－内科系		13	運動療法とリハビリテーション(2)内科系	
14	心と運動		14	運動療法とリハビリテーション(3)運動器	
15	メディカルチェック(1)－内科系		15	運動療法とリハビリテーション(4)運動器	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	スポーツ医学特論 実習		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	スポーツ外傷・障害および疾病に対する基本的技術を実習する。				
講義計画	スポーツ外傷・障害および疾病に対する対処法に関する基本的技術を理解し、実習する。				
達成目標	1. 基本的なスポーツ外傷・障害や疾病について論理的に説明できる。 2. 基本的なスポーツ外傷・障害や疾病の対処法に関する基本的技術を習得する。				
教科書・参考書	1. スポーツ医学研修ハンドブックー基本科目ー第二版(日本体育協会監修、文光堂) 2. ABC of Sports Medicine(宮永豊ら監修、ナッブ、2001)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	スポーツ外傷・障害および疾病の特性		1	大腿・膝の外傷・障害	
2	運動許可条件(1)ー循環器		2	下腿・足の外傷・障害	
3	運動許可条件(2)ー呼吸器		3	外傷・障害とリハビリテーション	
4	運動許可条件(3)ー代謝系		4	頭部外傷	
5	運動許可条件(4)ー運動器		5	急性関節損傷	
6	運動処方(1)		6	成長期選手の筋・骨格系損傷	
7	運動処方(2)		7	感染症	
8	内科的救急処置		8	有酸素能力に関する呼吸限界	
9	外科的救急処置		9	オーバートレーニング症候群	
10	スポーツ貧血、心臓、月経異常、腹痛		10	突然死	
11	オーバートレーニング症候群、突然死		11	スポーツによる眼外傷	
12	熱中症、高山病、潜水病		12	外傷のリスクファクター	
13	発育期・中高年・女性スポーツ障害		13	顔面外傷	
14	肩・肘の外傷・障害		14	理学療法、スポーツ復帰	
15	体幹の外傷・障害		15	重症外傷の救急処置	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	運動機能障害学特論		必修/選択	必修	
担当教員	油井直子	担当教員連絡先	内線 4553		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	骨・筋・関節の機能解剖、生理機能、外傷・障害学について学ぶ。				
講義計画	骨・筋・関節の機能解剖、生理機能、トレーニングにおける筋・関節の適応とバイオメカニクス、外傷・障害のリスクファクターと予防について解説する。				
達成目標	1. 骨・筋・関節の機能解剖、生理機能について理解し、説明できる。 2. 筋・関節機能、バイオメカニクス、外傷・障害予防等について理解し、説明できる。				
教科書・参考書	1. スポーツ医学研修ハンドブック－基本科目－第二版(日本体育協会監修、文光堂) 2. スポーツ医学【基礎と臨床】(日本体力医学会学術委員会監修、朝倉書店、1998)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓢ)
1	運動と骨格筋・心筋(1)		1	アスレチック・リハビリテーション(2)	
2	運動と骨格筋・心筋(2)		2	競技選手の健康管理(1)	
3	筋収縮とエネルギー代謝(1)		3	競技選手の健康管理(2)	
4	筋収縮とエネルギー代謝(2)		4	海外遠征時の健康管理(1)	
5	スポーツ外傷と障害(1)－脊髄・脊柱		5	海外遠征時の健康管理(2)	
6	スポーツ外傷と障害(2)－上肢(手指)		6	スポーツと薬物(1)	
7	スポーツ外傷と障害(3)－上肢(肘)		7	スポーツと薬物(2)	
8	スポーツ外傷と障害(4)－上肢(肩)		8	競技会医療体制、内科的救急処置(1)	
9	スポーツ外傷と障害(5)－下肢(膝)		9	競技会医療体制、内科的救急処置(2)	
10	スポーツ外傷と障害(6)－下肢(足)		10	現場における救急処置(1)	
11	スポーツ外傷と障害(7)－顔面外傷		11	現場における救急処置(2)	
12	スポーツ外傷と障害(8)－眼部外傷		12	競技と安全対策(1)	
13	スポーツ外傷と障害(9)－耳部外傷		13	競技と安全対策(2)	
14	スポーツ外傷と障害(10)－その他		14	アスレティックテーピング・ブレース(1)	
15	アスレチック・リハビリテーション(1)		15	アスレティックテーピング・ブレース(2)	

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	運動機能障害学特論 実習		必修/選択	必修	
担当教員	油井直子	担当教員連絡先	内線 4553		
単位数	4 単位(前期 2・後期 2)	履修年次	1 年		
テーマと目的	骨・筋・関節の機能、外傷・障害の予防について基本的技術を実習する。				
講義計画	骨・筋・関節の機能障害、トレーニングにおける外傷・障害のリスクファクターと予防についての基本的事項の説明と、予防法、対処法について実習する。				
達成目標	1. 骨・筋・関節の機能障害に対する基本的技術を習得する。 2. 筋・関節機能、バイオメカニクス、外傷・障害予防に対する基本的技術を習得する。				
教科書・参考書	1. スポーツ医学研修ハンドブック－応用科目－第二版(日本体育協会監修、文光堂) 2. The Encyclopaedia of Sports Medicine V－Clinical Practice of Sports Injury Prevention and Care (Ed, PAFH Renström, Blackwell Scientific Publications, 1994)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでもらうこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	頭部外傷		1	足部外傷	
2	頸椎外傷		2	スポーツにおける皮膚科系疾患・外傷	
3	肩関節外傷		3	スポーツ特有の外傷・障害	
4	肘関節外傷		4	疾患と外傷(投球競技)	
5	手指部・手関節外傷		5	疾患と外傷(蹴球競技)	
6	脊髄・脊椎外傷		6	疾患と外傷(氷上・雪上競技)	
7	腓脛部・股関節外傷		7	疾患と外傷(陸上競技)	
8	筋損傷		8	疾患と外傷(学校教育)	
9	膝関節外傷		9	疾患と外傷(水泳競技)	
10	膝関節障害		10	疾患と外傷(体操競技)	
11	スポーツ特有の膝関節疾患と外傷		11	疾患と外傷(格闘技)	
12	下腿外傷		12	疾患と外傷(船舶競技)	
13	アキレス腱疾患と外傷: //		13	疾患と外傷(乗馬競技)	
14	足関節外傷		14	疾患と外傷(弓道・アーチェリー競技)	
15	足関節障害		15	疾患と外傷(その他)	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	発達・加齢スポーツ医学特論		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	加齢に伴う神経・筋・循環器系の生理的変化について理解する。				
講義計画	発育期、老年期における神経・筋・循環器系の生理的変化について、基本的事項を解説する。				
達成目標	1. 発育期の身体運動と生理的変化、筋力・酸素運搬系能力について説明できる。 2. 加齢に伴う神経・筋・循環器系の生理的変化を説明できる。				
教科書・参考書	1. 健康・体力のための運動生理学(石河利寛著、杏林書院、2000) 2. The Encyclopaedia of Sports Medicine VI-The Child and Adolescent Athlete(Ed, Oded Bar-Or, Blackwell Science, 1996)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでもらうこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓢ)
1	筋肉の分類と骨格筋の構造		1	骨と運動	
2	筋収縮のメカニズム・エネルギー		2	寿命と運動	
3	筋収縮の4つの型		3	臥床、無重力・不使用による身体的変化	
4	負荷量と運動時間、筋力・筋持久力		4	年齢別体力、体力・運動負荷テスト	
5	神経系概説		5	トレーニング総論	
6	末梢神経系と運動		6	筋肉・呼吸循環機能のトレーニング	
7	中枢神経系と運動		7	運動と器官の働きの加齢に伴う変化	
8	呼吸と運動		8	加齢に伴う体力の変化	
9	循環と運動(1) - 心拍出量・心拍数		9	高齢者の運動	
10	循環と運動(2) - 血圧・最大酸素摂取量		10	肥満と運動	
11	エネルギー代謝と運動		11	高血圧と運動	
12	体温、熱産生、熱放散		12	冠動脈硬化性心疾患と運動	
13	運動時の体温調節		13	糖尿病と運動	
14	ホルモンと運動		14	健康・体力保持のための運動	
15	消化吸収と運動		15	性、年齢別エネルギー所要量	

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	発達・加齢スポーツ医学特論 実習		必修/選択	必修	
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551		
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	加齢に伴う神経・筋・循環器系の生理的変化について実習する。				
講義計画	発育期、老年期における神経・筋・循環器系の生理的変化について、基本的事項を理解し、基本的技術を習得する。				
達成目標	1. 加齢に伴う、筋力・酸素運搬系能力の変化について説明し、指導できる。 2. 加齢に伴う神経・筋・循環器系の生理的変化を説明し、指導できる。				
教科書・参考書	1. 健康・体力のための運動生理学(石河利寛著、杏林書院、2000) 2. The Encyclopaedia of Sports Medicine VI-The Child and Adolescent Athlete(Ed, Oded Bar-Or, Blackwell Science, 1996)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでもらうこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	発達・加齢スポーツ医学概論		1	成長と成熟:競技パフォーマンスへの関連	
2	発育期のスポーツ医学		2	幼児期の筋力の発達	
3	発育期スポーツ活動とトレーニングの問題点		3	運動による代謝的反応と心肺機能	
4	発育期の外傷と障害(1)-整形外科領域		4	幼児期の筋力・持久力トレーニング	
5	" (2)-小児科領域		5	児童生徒の筋力・持久力トレーニング	
6	" (3)-精神・心理学領域		6	成長期の骨量変化による身体活動役割	
7	老年期のスポーツ医学		7	小児科のスポーツ関連の外傷・障害疫学	
8	加齢に伴う変化とトレーニング効果		8	発育期スポーツ傷害の生体力学的問題	
9	老年期のスポーツ外傷と障害		9	発育期のオーバーユースによる疲労骨折	
10	老年期のスポーツ活動		10	発育期選手の栄養	
11	女性のスポーツ医学		11	発育期選手の貧血	
12	スポーツ活動と月経		12	発育期選手の摂食障害	
13	妊婦とスポーツ		13	喘息とスポーツ	
14	更年期障害とスポーツ		14	若年型糖尿病・若年性高血圧	
15	女性のスポーツ外傷と障害		15	まとめ	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	運動代謝内分泌学特論		必修/選択	必修	
担当教員	油井直子	担当教員連絡先	内線 4553		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	運動時のホルモン分泌、体液調節、糖・脂質代謝について理解する。				
講義計画	運動時のホルモン分泌、体液調節、糖代謝・脂質代謝について、基本的事項を解説する。				
達成目標	1. 運動時のホルモン分泌(下垂体・甲状腺・副腎皮質ホルモン等)について理解する。 2. 運動時の体液調節、糖代謝・脂質代謝について理解する。				
教科書・参考書	1. スポーツ医科学(中野昭一編、杏林書院、1999) 2. 運動生化学ハンドブック(Michael E. Houston 著、ナッパ、2004)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	アミノ酸、ペプチド、タンパク質		1	運動時の脂肪代謝	
2	酵素の概説		2	アミノ酸代謝の概説	
3	ヌクレオチド、DNA、RNA		3	尿素回路と運動時のアミノ酸代謝	
4	生体エネルギー論(1)		4	転写とその制御(1)	
5	生体エネルギー論(2)		5	転写とその制御(2)	
6	代謝の概要とミトコンドリア		6	たんぱく質の合成と分解(1)	
7	酸化的リン酸化の概要		7	たんぱく質の合成と分解(2)	
8	トリカルボン酸回路の役割と反応		8	運動時の体液調節	
9	電子伝達、共役したリン酸化とその制御		9	体液と水分補給	
10	糖質の概説		10	トレーニング・暑熱障害と体液	
11	グルコースの仕組みとリン酸化		11	加齢による体液への影響	
12	解糖分系、グリコーゲン代謝とその調節		12	運動時の主なホルモン分泌動態	
13	運動中の糖質代謝		13	運動時のホルモンの役割	
14	糖新生とその調節、ペントースリン酸経路		14	まとめ(1)	
15	脂質の種類、脂肪酸・ケトン体の酸化		15	まとめ(2)	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	運動代謝内分泌学特論 実習		必修/選択	必修
担当教員	油井直子	担当教員連絡先	内線 4553	
単位数	4 単位(前期 2・後期 2)	履修年次	2 年	
テーマと目的	運動時のホルモン分泌、体液調節、糖・脂質代謝の測定方法等を実習する。			
講義計画	運動におけるホルモン分泌、体液調節、糖・脂質代謝の代謝内分泌変化について、基本的事項を理解し、測定方法等を実際に行う。			
達成目標	1. 運動時のホルモン分泌の原理を理解し、基本的技術を習得する。 2. 運動時の体液調節、糖代謝・脂質代謝の原理を理解し、基本的技術を習得する。			
教科書・参考書	1. スポーツ医科学(中野昭一編、杏林書院、1999) 2. The American Journal of Sports Medicine (AAOS, 2007)			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)	
1	運動におけるホルモン分泌概論	1	肝臓の構造と働き	
2	運動における体液調節概論	2	中間代謝(糖・脂質・タンパク質代謝)	
3	運動における糖代謝変化概論	3	エネルギー代謝	
4	運動における脂質代謝変化概論	4	中間・エネルギー代謝と運動への影響	
5	内分泌器官とホルモン	5	運動強度・時間と腎臓	
6	下垂体ホルモンと運動	6	運動強度と血漿動態、水・電解質代謝	
7	甲状腺ホルモンと運動	7	環境変化と運動負荷時腎機能	
8	副腎髄質・副腎皮質ホルモンと運動	8	運動性タンパク尿、尿定性試験、尿沈渣	
9	膵ホルモン、その他のホルモン	9	免疫の種類と構成、液性免疫の変動	
10	運動時の糖代謝調節	10	細胞性免疫の変動	
11	運動時の脂肪代謝調節	11	トレーニングと疾病との関連	
12	運動時の循環調節	12	運動による脱水と熱中症	
13	運動時の体液調節	13	運動性貧血	
14	運動時のホルモン分泌制御機構	14	まとめ(1)	
15	運動の消化・吸収機能に及ぼす影響	15	まとめ(2)	

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	環境生理学		必修/選択	必修	
担当教員	油井直子	担当教員連絡先	内線 4553		
単位数	1 単位(前期)	履修年次	1 年		
テーマと目的	特殊環境下での運動時における環境生理学について学ぶ。				
講義計画	各条件下での運動時における神経筋制御、および暑熱、低酸素等環境の変動と運動との関係について概説する。				
達成目標	1. 特殊環境各条件下での運動時における神経筋制御について理解し、説明できる。 2. 暑熱、低酸素等環境変動と運動との関係について理解し、説明できる。				
教科書・参考書	1. スポーツ医科学(中野昭一編、杏林書院、1999) 2. 環境生理学【第2版】(黒島辰汎著、理工学社、1993)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	環境生理学概論		1		
2	自律神経系・内分泌系の機能		2		
3	体温調節の機能		3		
4	寒冷の生理学		4		
5	暑熱の生理学		5		
6	低酸素(低圧)の生理学		6		
7	高圧の生理学		7		
8	暑熱環境(1)－暑熱指標 WBGT、評価		8		
9	暑熱環境(2)－暑熱障害		9		
10	寒冷環境(1)－運動トレーニングと熱産生		10		
11	寒冷環境(2)－全身・局所耐寒性		11		
12	低酸素(低圧)環境－高山病		12		
13	高圧環境－減圧症、減圧障害		13		
14	時差症候群		14		
15	海外遠征とスポーツ医学		15		

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	運動呼吸器学		必修/選択	選択	
担当教員	井上健男・藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸機能と運動、疾病と運動について概略を理解する。				
講義計画	呼吸機能と運動、疾病と運動についての基本的事項を解説する。				
達成目標	1. ガス交換・酸素摂取・血液のガス運搬等と運動について理解し、概説できる。 2. 気管支喘息等の疾患と運動について理解し、概説できる。				
教科書・参考書	1. 最新スポーツ医学(黒田善雄ら編、文光堂、1990) 2. 健康・体力のための運動生理学(石河利寛著、杏林書院、2000)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	運動呼吸器学概論		1	EIA発生機序、影響因子(1)	
2	呼吸器の構造と機能(1)		2	EIA発生機序、影響因子(2)	
3	呼吸器の構造と機能(2)		3	気管支喘息(1)	
4	呼吸運動と肺容量(1)		4	気管支喘息(2)	
5	呼吸運動と肺容量(2)		5	慢性呼吸器疾患(1)	
6	呼吸運動の調節(1)		6	慢性呼吸器疾患(2)	
7	呼吸運動の調節(2)		7	最大酸素摂取量測定・評価	
8	運動時と呼吸数および換気量		8	運動負荷試験・評価	
9	運動時の呼吸機能変化		9	全身持久性を高める運動指導	
10	運動時の呼吸運動調節		10	歩行・走運動の運動特徴・運動指導	
11	運動と呼吸感覚		11	エルゴメーターの運動特徴・運動指導	
12	慢性肺疾患の換気反応、ガス交換		12	エネルギー消費量と代謝	
13	呼吸筋の疲労、肺疾患の運動制限(1)		13	肺機能検査	
14	呼吸筋の疲労、肺疾患の運動制限(2)		14	まとめ(1)	
15	運動誘発性喘息		15	まとめ(2)	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	スポーツ精神神経学		必修/選択	選択	
担当教員	古茶大樹・藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	精神疾患、ストレスと運動、オーバートレーニング症候群について理解する。				
講義計画	精神疾患と運動、ストレスと運動、オーバートレーニング症候群等についての基本的事項を解説する。				
達成目標	1. 精神疾患と運動について基本的事項を理解し、概説できる。 2. ストレスと運動について基本的事項を理解し、概説できる。				
教科書・参考書	1. スポーツ医学研修ハンドブック-応用科目-第二版(日本体育協会監修、文光堂) 2. スポーツのオーバートレーニング(Richard B. Kreiderら著、大修館書店、2001)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓟ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓟ)
1	スポーツ精神神経学概論(1)		1	長期のオーバートレーニングの限界	
2	スポーツ精神神経学概論(2)		2	オーバートレーニングに対する生理的反応	
3	精神疾患と運動		3	定期モニタリングと指標利用	
4	ストレスと運動		4	オーバートレーニングの指標基準	
5	持久系競技者における徴候、症状(1)		5	オーバートレーニングの指標干渉因子	
6	持久系競技者における徴候、症状(2)		6	筋力系競技者のオーバートレーニング(1)	
7	過負荷(1)-トレーニング反応		7	筋力系競技者のオーバートレーニング(2)	
8	過負荷(2)-パフォーマンス改善		8	レジスタンス運動のオーバートレーニング(1)	
9	過負荷(3)-適応不全		9	レジスタンス運動のオーバートレーニング(2)	
10	過負荷(4)-未改善パフォーマンス		10	オーバートレーニングの複合システムモデル	
11	持久系競技者のオーバートレーニング(1)		11	オーバートレーニングの予防と対処療法(1)	
12	持久系競技者のオーバートレーニング(2)		12	オーバートレーニングの予防と対処療法(2)	
13	トレーニング量の増加		13	スポーツ精神神経学に関する研究現状	
14	トレーニング強度の増加		14	まとめ(1)	
15	短期のオーバートレーニングの限界		15	まとめ(2)	

講義担当者承認

Ⓟ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	スポーツ栄養学		必修/選択	選択
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	スポーツ活動における栄養の役割について概略を理解する。			
講義計画	スポーツ栄養学の基本的事項を説明し、現状と問題点について解説する。			
達成目標	1. ダイエット・過食と運動、栄養摂取と吸収における運動の役割を理解し、説明できる。 2. スポーツ選手における栄養補給について理解し、説明できる。			
教科書・参考書	1. パフォーマンス向上のためのスポーツ栄養(Luke Bucci 著、保健同人社、1998) 2. スポーツと健康の栄養学【第2版】(下村吉治著、ナッパ、2006) 3. 運動生理学－エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス－(William D Mcardle 著、田口貞善監訳、杏林書院、1997)			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでもらうこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)
1	スポーツ栄養学概論		1	栄養素とその機能(4)－無機質
2	体づくりと栄養		2	栄養素とその機能(5)－ビタミン
3	スタミナと栄養(1)－スタミナと糖質		3	運動と糖代謝
4	スタミナと栄養(2)－スタミナと水分補給		4	運動と脂質代謝、タンパク質、アミノ酸代謝
5	スタミナと栄養(3)－ビタミン		5	活性酸素と運動
6	筋疲労と栄養		6	食物に含まれる抗酸化物質
7	中枢性疲労と栄養		7	非栄養学的な運動能力増強剤
8	ダイエットのための栄養と運動		8	栄養学的な運動能力増強剤
9	運動の効果		9	微量栄養素補給と運動能力増強(1)
10	スポーツのための栄養サプリメント		10	微量栄養素補給と運動能力増強(2)
11	女性のための運動と栄養		11	栄養素の特定の調合剤
12	トレーニング期と試合期の食事		12	ヒト代謝で必須とされていない食事成分
13	栄養素とその機能(1)－タンパク質・アミノ酸		13	まとめ(1)
14	栄養素とその機能(2)－糖質		14	まとめ(2)
15	栄養素とその機能(3)－脂質		15	まとめ(3)

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	スポーツ外傷・障害学		必修/選択	選択	
担当教員	仁木久照・藤谷博人		担当教員連絡先	内線 4551	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)		履修年次	1 年	
テーマと目的	身体の各部位におけるスポーツ外傷・障害の病態と治療について概略を理解する。				
講義計画	身体各部位におけるスポーツ外傷・障害の病態と治療について解説する。 外傷・障害予防についての現状と問題点についても学ぶ。				
達成目標	1. 身体各部位におけるスポーツ外傷・障害の病態、治療法について説明できる。 2. スポーツ外傷・障害の予防(発育期・高齢者等)について理解し、概説できる。				
教科書・参考書	1. スポーツ外傷学 I・II・IV(黒澤尚ら編、医歯薬出版株式会社、2000-2001) 2. スポーツ現場における救急・応急処置のポイント(臨床スポーツ医学、文光堂、1998)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1	分類と発生要因、診断と治療		1	// (6) - 胸部	
2	代表的なスポーツ動作		2	// (7) - 腹部	
3	外傷統計、判断と対処、診断と治療		3	// (8) - 腰椎	
4	競技レベルのスポーツ外傷		4	// (9) - 骨盤・股関節	
5	成長期・中高年期のスポーツ外傷		5	// (10) - 大腿	
6	スポーツの身体的効用とリハビリテーション		6	// (11) - 膝関節 (a)	
7	物理療法、運動療法と徒手療法		7	// (12) - // (b)	
8	スポーツ装具と足底板		8	// (13) - // (c)	
9	テーピング、ストレッチング		9	// (14) - // (d)	
10	筋力トレーニング、外傷予防の身体操作		10	// (15) - 下腿 (a)	
11	スポーツ外傷(1) - 頭部		11	// (16) - // (b)	
12	// (2) - 顔面		12	// (17) - 足関節・足部 (a)	
13	// (3) - 歯牙、耳鼻の外傷		13	// (18) - // (b)	
14	// (4) - 眼		14	// (19) - // (c)	
15	// (5) - 頸部		15	// (20) - // (d)	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	分子生物スポーツ医学		必修/選択 選択
担当教員	松井宏晃・藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	筋・関節等の再生・修復に対する増殖因子、阻害因子等の概略を理解する。		
講義計画	筋の再生・修復に対する増殖因子の役割、関節軟骨再生に対する阻害因子、疲労骨折の分子メカニズムについて解説する。		
達成目標	1. 筋・関節等の再生・修復に対する増殖因子、阻害因子等を理解し、説明できる。 2. 疲労骨折の分子メカニズムについて理解し、説明できる。		
教科書・参考書	1. 運動分子生物学(大日方昴監修、ナッパ、2000) 2. The American Journal of Sports Medicine (AAOS, 2007)		
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。1時間		
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	遺伝子の構造と働き	1	神経伝達物質作用、神経筋接合部形成
2	遺伝子発現	2	運動による細胞外マトリックス(1)
3	骨格筋内部構築(1)ー収縮タンパク質(1)	3	運動による細胞外マトリックス(2)
4	〃 (2)ー 〃 (2)	4	アセチルコリン受容体、アセチルコリンエステラーゼ
5	〃 (3)ー細胞骨格(1)	5	神経筋接合部の形態的变化と運動
6	〃 (4)ー細胞骨格(2)	6	細胞質における代謝調節
7	〃 (5)ー横行小管・筋小胞体	7	糖代謝調節の分子機構
8	持久トレーニング、微小重力による影響	8	ミトコンドリア
9	スプリント・筋力トレーニングによる影響	9	細胞質ー運動と酵素の遺伝子発現
10	アインフォームの分布が変化する要因	10	運動とミトコンドリア
11	運動と横行小管	11	骨格筋細胞膜、骨格筋の収縮過程
12	運動と筋小胞体	12	骨格筋発生過程の筋細胞膜ダイナミクス
13	細胞外マトリックス(1)	13	細胞骨格
14	細胞外マトリックス(2)	14	運動とシグナル伝達
15	神経・骨格筋細胞接合部の構造と伝達	15	まとめ

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	運動薬理学		必修/選択	選択	
担当教員	松本直樹・藤谷博人		担当教員連絡先	内線 4551	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)		履修年次	1 年	
テーマと目的	薬物療法と運動療法、ドーピングコントロールについて理解する。				
講義計画	薬物療法と運動療法の基本的事項を解説する。また、ドーピングコントロールの現状と問題点、および基本的事項を解説する。				
達成目標	1. 薬物療法と運動療法の基本的事項を理解し、指導できる程度に指導できる。 2. ドーピングコントロールについて基本的事項を理解し、臨床施行できるようになる。				
教科書・参考書	1. スポーツドクターに必要なドーピングの知識(臨床スポーツ医学、文光堂、1994) 2. スポーツと薬物(西勝英監訳、医薬ジャーナル社、1994) 3. ドーピング・コントロール規定集((財)日本体育協会、ホクエツ印刷、2005)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んてくること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1	ドーピングとその規制		1	マリファナ	
2	使用薬物分類、濫用薬物評価		2	麻薬	
3	薬物濫用背景因子(1)ー遺伝因子、他		3	βブロッカー、非ステロイド系抗炎症薬、他	
4	薬物濫用背景因子(2)ー精神衛生・ストレス		4	ビタミンとミネラル、アミノ酸とタンパク質	
5	スポーツ選手とドーピング		5	カルニチン、鎮痛薬注射、リン酸塩負荷、他	
6	パフォーマンスとストレス・身体因子、他		6	血液ドーピングとエリスロポエチン	
7	蛋白同化ステロイド		7	スポーツ選手での薬物濫用の発見	
8	成長ホルモン		8	薬物検査(臨床検査)と治療薬	
9	アンフェタミン		9	治療管理ー方針・方法、再発と回復	
10	コカイン		10	法律上の考察	
11	フェニルプロパノラミン、エフェドリンとその類似薬		11	競技団体別ドーピング対策	
12	β刺激薬		12	スポーツ選手の疾患別薬物処方(1)	
13	バルビツレートとベンゾジアゼピン		13	スポーツ選手の疾患別薬物処方(2)	
14	アルコール		14	国民体育大会ドーピング・コントロール規程	
15	タバコ		15	WADA アンチドーピング規程	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	女性スポーツ医学		必修/選択	選択	
担当教員	鈴木直・藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551		
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	若年女性、妊婦、中高年女性とスポーツとの関係について理解する。				
講義計画	若年女性とスポーツ、妊婦とスポーツ、中高年女性とスポーツについて基本的事項を解説する。また、それらに多い疾患、現状と問題点について概説する。				
達成目標	1. 若年女性、妊婦、中高年女性におけるスポーツとの関係性を理解し、説明できる。 2. 女性特有の疾患、現状と問題点について理解し、説明できる。				
教科書・参考書	1. アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学(宮永豊ら編、文光堂、1998) 2. 女性スポーツの医学(目崎登著、文光堂、1997)				
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。1時間				
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	女性スポーツ医学概論		1	妊婦とスポーツ(2)―安全管理、他	
2	スポーツと女性について		2	中高年女性とスポーツ(1)―健康上問題点	
3	身体的特性、骨格特性、身体組成		3	中高年女性とスポーツ(2)―運動の実際	
4	女性の体力と運動能力		4	メディカルチェック	
5	月経周期の調節機構、正常月経		5	健康管理の実際	
6	月経異常の種類		6	スポーツ外傷・障害(1)	
7	摂食障害と月経異常		7	スポーツ外傷・障害(2)	
8	新生児期～乳幼児、幼少期～思春期		8	女性証明検査―目的、実際、問題点	
9	成熟期～更年期～老年期		9	スポーツと薬物(1)	
10	若年女性(1)―運動性無月経		10	スポーツと薬物(2)	
11	若年女性(2)―月経異常		11	婦人科系疾患の治療薬	
12	月経周期とコンディション		12	ドーピング・コントロールの実際	
13	月経期間中のスポーツ活動		13	まとめ(1)	
14	月経周期調節の実際		14	まとめ(2)	
15	妊婦とスポーツ(1)―条件、効果、問題点		15	まとめ(3)	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	スポーツバイオメカニクス		必修/選択 選択
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	運動解析による外傷発生のメカニズムの解明、およびその予防について理解する。		
講義計画	膝関節を中心に、その靭帯損傷のメカニズムをスポーツバイオメカニクスの視点から解明し、予防および治療について解説する。		
達成目標	1. 運動解析による外傷発生機序と予防について理解し、説明できる。 2. スポーツ障害のメカニズムの解明し、予防・治療について理解し、説明できる。		
教科書・参考書	1. バイオメカニクスー身体運動の科学的基礎ー(金子公有ら編、杏林書院、2004) 2. スポーツバイオメカニクス(深代千之ら編、朝倉書店、2000)		
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。1時間		
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	スポーツバイオメカニクス概論	1	走動作の力学的エネルギー、効率
2	バイオメカニクスの定義と領域	2	跳動作(跳躍、走高跳、棒高跳)
3	運動体としての身体構造(1)ー部位名称	3	投動作(砲丸投、円盤投、槍投、野球)
4	〃 (2)ー筋・骨格系の構造と名称	4	打動作(バット、ラケット、クラブ)
5	〃 (3)ー関節の名称と可動性	5	蹴動作(サッカー、格闘技)
6	筋の構造と力発生のメカニズム	6	滑動作(スケート競技、スキー)
7	骨格筋の形状と力発揮特性	7	泳動作(水泳競技)
8	筋の収縮様式と筋力	8	漕動作(ボート・自転車)、その他
9	筋活動のためのエネルギー供給	9	スポーツ傷害とバイオメカニクス(1)ー腰部
10	身体運動の指令・調節神経機構	10	スポーツ傷害とバイオメカニクス(2)ー膝
11	身体運動の力学的基礎	11	スポーツ傷害とバイオメカニクス(2)ー下腿
12	歩動作(歩行、競歩、脊髄損傷者歩行)	12	スポーツ傷害とバイオメカニクス(2)ー肘・肩
13	走動作ー下肢関節トルク・関節トルクパワー	13	キネマティクスとキネティクス
14	慣性モーメントからみた走運動	14	筋電図・超音波法・MRI
15	スプリンターの走動作と筋活動	15	スポーツバイオメカニクスにおけるシミュレーション

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	障害者スポーツ医学		必修/選択	選択
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	肢体不自由の運動、視覚・聴覚障害者の運動、知的障害者の運動について学ぶ。			
講義計画	肢体不自由の運動、視覚・聴覚障害、知的障害等の運動について概説する。障害者スポーツについての基本的事項の解説と、現状と問題点について討論する。			
達成目標	1. 肢体不自由の運動について理解し、説明できる。 2. 視覚・聴覚障害、知的障害等の運動について理解し、説明できる。			
教科書・参考書	1. アダプティッド・スポーツの科学(矢部京之助ら編、市村出版、2004) 2. 最新スポーツ医学(黒田善雄ら編、文光堂、1990)			
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間			
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓜ)	
1	アダプティッド・スポーツとは何か	1	アダプティッド・スポーツの法的・行政的支援	
2	アダプティッド・スポーツ医学的支援	2	〃 における指導者システム	
3	競技スポーツとしてのアダプティッド・スポーツ	3	幼児期のアダプティッド・スポーツ	
4	学校体育としてのアダプティッド・スポーツ	4	学校における 〃	
5	アダプティッド・スポーツと障害・高齢者福祉	5	高齢者における 〃	
6	〃 が心身の健康に及ぼす効果	6	車椅子生活者と 〃	
7	〃 とスポーツ障害	7	脳性まひ者の 〃	
8	障害者の体力・運動能力	8	視覚障害者の 〃	
9	高齢者の体力・運動能力	9	聴覚障害者の 〃	
10	障害者のスポーツレーシング理論	10	知的障害者の 〃	
11	アダプティッド・スポーツとリハビリテーション	11	自閉症と 〃	
12	アダプティッド・スポーツとレクリエーション	12	重度重複障害者と 〃	
13	〃 と自己実現	13	精神障害者と 〃	
14	〃 とノーマライゼーション社会の実現	14	障害者と各種スポーツ・レクリエーション	
15	〃 と女性	15	パラリンピック・内外スポーツ大会	

講義担当者承認

Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(19)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	スポーツ心理学		必修/選択 選択
担当教員	藤谷博人	担当教員連絡先	内線 4551
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	2 年
テーマと目的	運動時に対する各年代の心理的变化、評価方法を学ぶ。		
講義計画	運動時における各年代の心理的变化、および評価法について概説する。スポーツにおける良い課題遂行のための心理面の関与について概説する。		
達成目標	1. 運動時に対する各年代の心理的变化について理解し、説明できる。 2. 幼児・児童に対して運動による心理的变化の役割について理解し、説明できる。		
教科書・参考書	1. 最新スポーツ心理学 (日本スポーツ心理学会編、大修館書店、2004) 2. スポーツ心理学の世界 (杉原隆ら編著、福村出版、2000)		
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書の関係科目頁を読んでくること。 1時間		
成績評価法	出席と講義内発表(8割)、受講態度(2割)による総合評価。		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席⑩)	後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	スポーツ心理学概論(1)	1	メンタルトレーニングの実践的研究
2	スポーツ心理学概論(2)	2	チームビルディングとソーシャル・サポート
3	スポーツへの動機づけ	3	スポーツカウンセリングー選手の心理的問題
4	スポーツにおける目標設定	4	全身協応運動の獲得・合理的な練習
5	スポーツと子どものストレス	5	試合場面でのパフォーマンス低下
6	スポーツとライフスキル	6	状況判断能力ーオープンスキル習得の原理
7	メンタルヘルスに果たす運動の役割	7	スポーツの楽しさ、内発的動機づけ
8	発達から見た運動と身体的健康	8	目標設定、参加・継続・離脱
9	身体活動・運動行動を規定する決定因	9	個性とスポーツ
10	身体活動・運動行動の採択・継続	10	スポーツと攻撃性
11	運動学習のパラドックスと学習者の意図	11	スポーツとジェンダー
12	身体情報の知覚と運動制御	12	スポーツと集団力学
13	視覚システムから見た熟練者のスキル	13	運動とこころの健康
14	ダイナミカルシステムアプローチ	14	スポーツ選手のバーンアウトー心理と対処法
15	メンタルトレーニングの生理心理的メカニズム	15	スポーツ傷害における心理サポート

講義担当者承認

⑩

【53-8】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>熊井俊夫</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>ヒトゲノム配列の解析が終了し、ポストゲノム時代となった。約30億ある人の遺伝暗号も個人間で多くの部位で異なっており、この遺伝暗号の違いを遺伝子多型と呼んでいる。遺伝子多型の理解は病態や薬効の個人差を考慮したオーダーメイド医療の基礎となる。遺伝子多型・機能解析学はこれら遺伝子多型と病態や薬効との関連を解明し、オーダーメイド医療を医療実践の現場に応用していく分野である。本分野では遺伝子、遺伝子多型の病態や薬効における役割と意義について細胞から人個体にいたるまでの研究を行い、オーダーメイド医療の基盤となる研究を通じて学位取得にたる学識と実践を身につけ、遺伝子多型に関する医学研究と各臨床科における応用ができるようにする。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肝臓手術後患者の薬物治療における遺伝子多型の影響</li> <li>2. 日本人の小腸における薬物吸収過程における遺伝的背景</li> <li>3. 現行薬物の新規薬物代謝酵素、トランスポーター活性評価法の確立</li> <li>4. 癌再発の機序に関するゲノミクスとプロテオーム解析</li> <li>5. ワーファリン治療患者における遺伝子多型の影響</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>教科書、参考書で遺伝子の基本知識を予め身につけておく。 講義後、講義内容を振り返り疾患と遺伝子の関係について知識を深めておく。</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)-1

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	遺伝子多型機能解析学特論(Ⅰ)		必修/選択 必修		
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042		
単位数	3単位(前期1.5、後期1.5)	履修年次	1年		
テーマと目的	遺伝子多型を理解し、疾患の解析と治療に応用する。				
講義計画	個人間の遺伝子の違い、疾患と治療におけるオーダーメイド医療を解説する。				
達成目標	疾患と治療におけるオーダーメイド医療を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)				
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間				
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	前期(回)	内 容	(出席⑩)
1	遺伝子研究の歴史(1)		16	遺伝子異常(2)	
2	遺伝子研究の歴史(2)		17	遺伝子異常(3)	
3	遺伝子研究の歴史(3)		18	遺伝子異常(4)	
4	遺伝子研究の歴史(4)		19	前期総合討論と発表	
5	遺伝子概論(1)		20	前期総合討論と発表	
6	遺伝子概論(2)		21	前期総合討論と発表	
7	遺伝子概論(3)				
8	遺伝子概論(4)				
9	遺伝子概論(5)				
10	遺伝子概論(6)				
11	遺伝子変異概論(1)				
12	遺伝子変異概論(2)				
13	遺伝子変異概論(3)				
14	遺伝子変異概論(4)				
15	遺伝子異常(1)				

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)-2

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	遺伝子多型機能解析学特論(Ⅰ)		必修/選択 必修		
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042		
単位数	3単位(前期1.5、後期1.5)	履修年次	1年		
テーマと目的	遺伝子多型を理解し、疾患の解析と治療に応用する。				
講義計画	個人間の遺伝子の違い、疾患と治療におけるオーダーメイド医療を解説する。				
達成目標	疾患と治療におけるオーダーメイド医療を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)				
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間				
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価				
講義内容					
後期(回)	内 容	(出席ⓐ)	後期(回)	内 容	(出席ⓐ)
1	遺伝子多型(1)		16	日常診療における遺伝子多型(1)	
2	遺伝子多型(2)		17	日常診療における遺伝子多型(2)	
3	遺伝子多型(3)		18	日常診療における遺伝子多型(3)	
4	遺伝子多型(4)		19	日常診療における遺伝子多型(4)	
5	遺伝子多型(5)		20	日常診療における遺伝子多型(5)	
6	遺伝子多型と医療(1)		21	日常診療における遺伝子多型(6)	
7	遺伝子多型と医療(2)		22	日常診療における遺伝子多型(7)	
8	遺伝子多型と医療(3)		23	後期総合討論と発表	
9	遺伝子多型と医療(4)		24	後期総合討論と発表	
10	遺伝子多型と医療(5)				
11	遺伝子多型と医療(6)				
12	遺伝子多型と医療(7)				
13	遺伝子多型と医療(8)				
14	遺伝子多型と医療(9)				
15	遺伝子多型と医療(10)				

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)-1

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	遺伝子多型機能解析学特論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042
単位数	3単位(前期1.5、後期1.5)	履修年次	1年
テーマと目的	遺伝子多型を理解し、疾患の解析と治療に応用する。		
講義計画	個人間の遺伝子の違い、疾患と治療におけるオーダーメイド医療を解説する。		
達成目標	疾患と治療におけるオーダーメイド医療を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間		
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席⑩)	前期(回)	内容 (出席⑩)
1	遺伝子多型と生理機能(1)	16	遺伝子多型と診断(5)
2	遺伝子多型と生理機能(2)	17	遺伝子多型と診断(6)
3	遺伝子多型と生理機能(3)	18	前期総合討論と発表
4	遺伝子多型と生理機能(4)	19	前期総合討論と発表
5	遺伝子多型と生理機能(5)	20	前期総合討論と発表
6	遺伝子多型と疾患(1)	21	前期総合討論と発表
7	遺伝子多型と疾患(2)		
8	遺伝子多型と疾患(3)		
9	遺伝子多型と疾患(4)		
10	遺伝子多型と疾患(5)		
11	遺伝子多型と疾患(6)		
12	遺伝子多型と診断(1)		
13	遺伝子多型と診断(2)		
14	遺伝子多型と診断(3)		
15	遺伝子多型と診断(4)		

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)-2

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	遺伝子多型機能解析学特論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042
単位数	3単位(前期1.5、後期1.5)	履修年次	1年
テーマと目的	遺伝子多型を理解し、疾患の解析と治療に応用する。		
講義計画	個人間の遺伝子の違い、疾患と治療におけるオーダーメイド医療を解説する。		
達成目標	疾患と治療におけるオーダーメイド医療を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間		
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価		
講義内容			
後期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	遺伝子多型と薬物治療(1)	16	遺伝子とインフォームドコンセント(1)
2	遺伝子多型と薬物治療(2)	17	遺伝子とインフォームドコンセント(2)
3	遺伝子多型と薬物治療(3)	18	遺伝子とインフォームドコンセント(3)
4	遺伝子多型と薬物治療(4)	19	後期総合討論と発表
5	遺伝子多型と薬物治療(5)	20	後期総合討論と発表
6	遺伝子多型と薬物治療(6)	21	後期総合討論と発表
7	遺伝子異常と遺伝子治療(1)	22	後期総合討論と発表
8	遺伝子異常と遺伝子治療(2)	23	後期総合討論と発表
9	遺伝子異常と遺伝子治療(3)	24	後期総合討論と発表
10	遺伝子異常と遺伝子治療(4)		
11	遺伝子異常と遺伝子治療(5)		
12	遺伝子異常と遺伝子治療(6)		
13	遺伝子と倫理(1)		
14	遺伝子と倫理(2)		
15	遺伝子と倫理(3)		

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)-1

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	遺伝子多型機能解析学特論実習		必修/選択 必修
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042
単位数	4単位(前期3, 後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	遺伝子多型を理解し、疾患の解析と治療に応用、実践する。		
講義計画	個人間の遺伝子の違い、疾患と治療におけるオーダーメイド医療を実践する。		
達成目標	疾患と治療におけるオーダーメイド医療を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	Molecular Cloning(Sambrook & Russel, 3 <sup>rd</sup> ed, V1, 2, 3, CSHL Press, 2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間		
成績評価法	出席と実習での態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	前期(回)	内 容 (出席◎)
1	核酸の取り扱いの基本(1)	16	電気泳動法(1)
2	核酸の取り扱いの基本(2)	17	電気泳動法(2)
3	核酸の取り扱いの基本(3)	18	電気泳動法(3)
4	DNAの取り扱い(1)	19	電気泳動法(4)
5	DNAの取り扱い(2)	20	電気泳動法(5)
6	DNA抽出法(1)	21	DNA可視化法(1)
7	DNA抽出法(2)	22	DNA可視化法(2)
8	DNA抽出法(3)	23	DNA可視化法(3)
9	DNA精製法(1)	24	DNA可視化法(4)
10	DNA精製法(2)	25	総合討論と発表(1)
11	DNA定量法(1)	26	総合討論と発表(2)
12	DNA定量法(2)	27	総合討論と発表(3)
13	DNA保存法(1)	28	総合討論と発表(4)
14	DNA保存法(2)	29	総合討論と発表(5)
15	DNA保存法(3)	30	総合討論と発表(6)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)-2

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	遺伝子多型機能解析学特論実習		必修/選択 必修
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042
単位数	4単位(前期3,後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	遺伝子多型を理解し、疾患の解析と治療に応用、実践する。		
講義計画	個人間の遺伝子の違いを理解し、疾患と治療におけるオーダーメイド医療を実践する。		
達成目標	疾患と治療におけるオーダーメイド医療を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	Molecular Cloning(Sambrook & Russel, 3 <sup>rd</sup> ed, V1, 2, 3, CSHL Press, 2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間		
成績評価法	出席と実習での態度による総合評価		

講義内容

前期(回)	内容 (出席⑩)	前期/後期(回)	内容 (出席⑩)
31	PCRの基本(1)	46	シーケンス(1)
32	PCRの基本(2)	47	シーケンス(2)
33	PCRの基本(3)	48	シーケンス(3)
34	リアルタイムPCR(1)	1	シーケンス(4)
35	リアルタイムPCR(2)	2	シーケンス(5)
36	リアルタイムPCR(3)	3	シーケンス(6)
37	リアルタイムPCR(4)	4	シーケンス(7)
38	RFLP(1)	5	シーケンス(8)
39	RFLP(2)	6	シーケンス(9)
40	RFLP(3)	7	総合討論と発表(1)
41	RFLP(4)	8	総合討論と発表(2)
42	インバーダーアッセイ(1)	9	総合討論と発表(3)
43	インバーダーアッセイ(2)	10	総合討論と発表(4)
44	インバーダーアッセイ(3)	11	総合討論と発表(5)
45	インバーダーアッセイ(4)	12	総合討論と発表(6)

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	遺伝薬理学		必修/選択 必修
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	遺伝的背景を念頭においた薬物治療を理解する。		
講義計画	薬物動態における遺伝的背景。 薬物治療の効果における遺伝的背景		
達成目標	遺伝的背景を考慮した薬物動態を予測できる。 遺伝的背景を考慮した薬物治療効果を予測できる。		
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ) 遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間		
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1	遺伝薬理学の歴史(1)		1 薬物反応の個人差(1)
2	遺伝薬理学の歴史(2)		2 薬物反応の個人差(2)
3	薬物代謝酵素の個人差(1)		3 薬物反応の人種差(1)
4	薬物代謝酵素の個人差(2)		4 薬物反応の人種差(2)
5	薬物代謝酵素の個人差(3)		5 テーラーメイド医療の基本(1)
6	薬物代謝酵素の人種差(1)		6 テーラーメイド医療の基本(2)
7	薬物代謝酵素の人種差(2)		7 テーラーメイド医療の基本(3)
8	薬物代謝酵素の人種差(3)		8 テーラーメイド医療の臨床応用(1)
9	トランスポーターの個人差(1)		9 テーラーメイド医療の臨床応用(2)
10	トランスポーターの個人差(2)		10 テーラーメイド医療の臨床応用(3)
11	トランスポーターの個人差(3)		11 テーラーメイド医療の臨床応用(4)
12	トランスポーターの人種差(1)		12 テーラーメイド医療の展開(1)
13	トランスポーターの人種差(2)		13 テーラーメイド医療の展開(2)
14	トランスポーターの人種差(3)		14 テーラーメイド医療の展開(3)
15	前期総合討論と発表		15 後期総合討論と発表

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	薬物治療学		必修/選択	必修
担当教員	飯利太朗	担当教員連絡先	内線 3531	
単位数	3 単位(前期 1.5 後期 1.5)	履修年次	2 年	
テーマと目的	薬物治療に必要な薬理学の基礎を学ぶ。			
講義計画	薬理学総論及び各疾患における代表的な薬物の作用機序を学ぶ			
達成目標	1.薬物の総論が説明できる。 2.中枢、末梢神経、循環器系、消化器系、抗炎症薬等について代表的薬物の作用機序を説明できる。			
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (第12版、広川書店)			
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。 1 時間			
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	前期(回)	内 容 (出席◎)
1-3	薬物の作用機序の基礎(1)		1-3	消化器系薬物の作用機序(1)
4-6	薬物の作用機序の基礎(2)		4-6	消化器系薬物の作用機序(2)
7-9	薬物の作用機序の基礎(3)		7-9	循環器系薬物の作用機序(1)
10-12	自律神経系薬物の作用機序(1)		10-12	循環器系薬物の作用機序(2)
13-15	自律神経系薬物の作用機序(2)		13-15	化学療法薬の作用機序
16-18	神経伝達物質受容体と薬物応用		16-18	免疫系薬物の作用機序
19-21	中枢神経系薬物の作用機序(1)		19-21	代謝系薬物の作用機序(1)
22-23	中枢神経系薬物の作用機序(2)		22-23	代謝系薬物の作用機序(2)
24	前期総合討論と発表		24	後期総合討論と発表

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	薬物治療学実習		必修/選択 必修
担当教員	武半優子	担当教員連絡先	内線 3531
単位数	4 単位(前期 3 後期 1)	履修年次	2 年
テーマと目的	薬物治療に必要な薬理学の基礎を学び、実践する。		
講義計画	薬理学総論及び各疾患における代表的な薬物の作用機序を学び、実践する。		
達成目標	1.薬物の総論を説明し、実践する。 2.中枢、末梢神経、循環器系、消化器系、抗炎症薬等について代表的薬物の作用機序を説明し、実践する。		
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (第12版、広川書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間		
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1-6	循環器系薬物実習の基本(1)	1-6	カフェインの臨床薬理
7-12	循環器系薬物実習の基本(2)	7-12	運動負荷による薬効評価
13-18	実験機器の操作	13-18	腎機能における薬効評価
19-24	実験試薬の調整	19-24	総合討論と発表
25-30	実験標本の作成		
31-36	心臓に対するアドレナリン作動薬		
37-42	心臓に対するアドレナリン遮断薬		
43-47	心臓に対するコリン作動薬		
48	総合討論と発表		

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	医療倫理学		必修/選択 必修
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線3531
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	医療倫理を身につける。		
講義計画	医療倫理の歴史 医療における倫理		
達成目標	臨床研究における倫理的配慮を理解する。 医療における倫理的配慮を理解する。		
教科書・参考書	臨床薬理学(日本臨床薬理学会編、第2版、医学書院 2003)		
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ) 遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間		
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1	倫理学基礎(1)		1 インフォームドコンセント(1)
2	倫理学基礎(2)		2 インフォームドコンセント(2)
3	生命・医療倫理学基礎(1)		3 インフォームドコンセント(3)
4	生命・医療倫理学基礎(2)		4 遺伝学・クローニングと倫理(1)
5	生命・医療倫理学基礎(3)		5 遺伝学・クローニングと倫理(2)
6	医療倫理の原則と重要概念(1)		6 生殖医療(1)
7	医療倫理の原則と重要概念(2)		7 生殖医療(2)
8	医療倫理の原則と重要概念(3)		8 医療資源の配分(1)
9	法の基礎(1)		9 医療資源の配分(2)
10	法の基礎(2)		10 医学研究と国民の負担(1)
11	守秘義務		11 終末期医療における倫理と法
12	守秘義務と個人情報保護		12 脳死と臓器移植
13	医療従事者・患者関係		13 臨床症例の倫理的検討法
14	ケアの倫理		14 リスクマネジメント
15	前期総合討論と発表		15 後期総合討論と発表

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	循環薬理学		必修/選択 選択
担当教員	松本直樹	担当教員連絡先	内線3531
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年
テーマと目的	循環器疾患とその治療における薬物治療学を身につける		
講義計画	循環器疾患の薬物治療の影響		
達成目標	循環器疾患の薬物治療を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	グッドマン・ギルマン薬理書 (第12版、広川書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間		
成績評価法	出席と講義内容での発表、レポートにより総合的に評価する		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	循環器疾患の基本(1)	1	
2	循環器疾患の基本(2)	2	
3	不整脈	3	
4	不整脈治療	4	
5	狭心症	5	
6	狭心症治療	6	
7	心不全	7	
8	心不全治療	8	
9	高血圧症	9	
10	高血圧症	10	
11	高血圧症治療	11	
12	高血圧症治療	12	
13	動脈硬化	13	
14	動脈硬化性疾患治療	14	
15	総合討論と発表	15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	生活習慣病遺伝学		必修/選択	選択	
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042		
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	生活習慣病とその治療における遺伝的背景の影響を身につける				
講義計画	生活習慣病における遺伝的背景の影響 生活習慣病の薬物治療における遺伝的背景の影響				
達成目標	生活習慣病における遺伝的背景の影響を理解し、説明できる。 生活習慣病の薬物治療における遺伝的背景の影響を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)				
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間				
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	生活習慣病遺伝学の基本(1)		1		
2	生活習慣病遺伝学の基本(2)		2		
3	脂質異常症の遺伝学(1)		3		
4	脂質異常症の遺伝学(2)		4		
5	脂質異常症治療の遺伝学(1)		5		
6	脂質異常症治療の遺伝学(2)		6		
7	糖尿病の遺伝学(1)		7		
8	糖尿病の遺伝学(2)		8		
9	糖尿病治療の遺伝学(1)		9		
10	糖尿病治療の遺伝学(2)		10		
11	メタボリックシンドロームの遺伝学(1)		11		
12	メタボリックシンドロームの遺伝学(2)		12		
13	メタボリックシンドローム治療遺伝学(1)		13		
14	メタボリックシンドローム治療遺伝学(2)		14		
15	総合討論と発表		15		

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	精神疾患遺伝学		必修/選択	選択	
担当教員	熊井俊夫	担当教員連絡先	内線4042		
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	精神疾患とその治療における遺伝的背景の影響を身につける				
講義計画	精神疾患における遺伝的背景の影響 精神疾患の薬物治療における遺伝的背景の影響				
達成目標	精神疾患における遺伝的背景の影響を理解し、説明できる。 精神疾患の薬物治療における遺伝的背景の影響を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)				
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ)遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間				
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	精神疾患遺伝学の基本(1)	
2			2	精神疾患遺伝学の基本(2)	
3			3	統合失調症の遺伝学(1)	
4			4	統合失調症の遺伝学(2)	
5			5	統合失調症治療の遺伝学(1)	
6			6	統合失調症治療の遺伝学(2)	
7			7	躁うつ病の遺伝学(1)	
8			8	躁うつ病の遺伝学(2)	
9			9	躁うつ病治療の遺伝学(1)	
10			10	躁うつ病治療の遺伝学(2)	
11			11	認知症の遺伝学(1)	
12			12	認知症の遺伝学(2)	
13			13	認知症治療の遺伝学(1)	
14			14	認知症治療の遺伝学(2)	
15			15	総合討論と発表	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	消化器疾患遺伝学		必修/選択 選択
担当教員	武半優子	担当教員連絡先	内線3531
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	消化器疾患とその治療における遺伝的背景の影響を身につける		
講義計画	消化器疾患における遺伝的背景の影響 消化器疾患の薬物治療における遺伝的背景の影響		
達成目標	消化器疾患における遺伝的背景の影響を理解し、説明できる。 消化器疾患の薬物治療における遺伝的背景の影響を理解し、説明できる。		
教科書・参考書	薬物動態・作用と遺伝子多型(澤田康文(著)、医薬ジャーナル社、2001) Pharmacogenomics (Edit by W.Kalow, UA.Meyer, RF Tyndale, Marcel Dekker, 2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ) 遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間		
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1			1 消化器疾患遺伝学の基本(1)
2			2 消化器疾患遺伝学の基本(2)
3			3 ベーチェット病の遺伝学(1)
4			4 ベーチェット病の遺伝学(2)
5			5 ベーチェット病治療の遺伝学(1)
6			6 ベーチェット病治療の遺伝学(2)
7			7 大腸がんの遺伝学(1)
8			8 大腸がんの遺伝学(2)
9			9 大腸がん治療の遺伝学(1)
10			10 大腸がん治療の遺伝学(2)
11			11 炎症性腸疾患の遺伝学(1)
12			12 炎症性腸疾患の遺伝学(2)
13			13 炎症性腸疾患治療の遺伝学(1)
14			14 炎症性腸疾患治療の遺伝学(2)
15			15 総合討論と発表

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	医学統計学		必修/選択	選択	
担当教員	上野隆彦	担当教員連絡先	内線3531		
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	医学研究の科学的統計評価法を身につける				
講義計画	医学研究統計学				
達成目標	基礎的研究で得られた結果を科学的に評価できる。 臨床的研究で得られた結果を科学的に評価できる。				
教科書・参考書	医学的研究のデザイン(木原雅子、木原正博(訳)、第2版、メディカルサイエンスインターナショナル、2004)				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。1時間				
成績評価法	出席と講義での発表およびレポートによる総合評価				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席⑩)	後期(回)	内 容	(出席⑩)
1			1	医学統計学の基本	
2			2	基本統計量	
3			3	正規母集団	
4			4	独立した2群の差の検定	
5			5	関連のある2群の差の検定	
6			6	独立した多群の差の検定	
7			7	2要因で分類される多群の差の検定(1)	
8			8	2要因で分類される多群の差の検定(2)	
9			9	多重比較	
10			10	相関関係	
11			11	回帰分析	
12			12	2X2分割表の検定	
13			13	mXn分割表の検定	
14			14	生存分析	
15			15	総合討論と発表	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	実験動物学		必修/選択	選択
担当教員	武半優子	担当教員連絡先	内線3531	
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	実験動物の研究利用の原理と応用を身につける。			
講義計画	実験動物学の原理 実験動物の研究応用			
達成目標	実験動物学の原理を理解する。 実験動物の研究応用を理解する。			
教科書・参考書	最新実験動物学(前島一淑、笠井憲雪編、朝倉書店、2005)			
準備学習(予習・復習・時間)	(15分ずつ) 遺伝子変異を予め学習し、講義後にオーダーメイド医療の知識を確認 1時間			
成績評価法	出席と講義での態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	実験動物学の基本(1)
2			2	実験動物学の基本(2)
3			3	トランスジェニックマウスの基礎(1)
4			4	トランスジェニックマウスの基礎(2)
5			5	トランスジェニックマウスの応用(1)
6			6	トランスジェニックマウスの応用(2)
7			7	ノックアウトマウスの基礎(1)
8			8	ノックアウトマウスの基礎(2)
9			9	ノックアウトマウスの応用(1)
10			10	ノックアウトマウスの応用(2)
11			11	キメラマウスの基礎(1)
12			12	キメラマウスの基礎(2)
13			13	キメラマウスの応用(1)
14			14	キメラマウスの応用(2)
15			15	総合討論と発表

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	バイオインフォマティクス学		必修/選択 選択
担当教員	上野隆彦	担当教員連絡先	内線 3531
単位数	1単位(後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	医学研究の立案、実施、結果の解析に必要な情報取得法を身につける。		
講義計画	各種データベースアクセス。 データベースを利用した研究結果の解析法		
達成目標	各種データベースアクセス法を理解する。 データベースを利用した研究結果の解析法を理解する		
教科書・参考書	ゲノム医科学と基礎からのバイオインフォマティクス (高木利久編、実験医学、増刊、2001)		
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考書の当該章を予習として概ね通読し、復習として精読する。 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表とレポートによる総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1			1 バイオインフォマティクス学の基本(1)
2			2 バイオインフォマティクス学の基本(2)
3			3 医学に役立つデータベース(1)
4			4 医学に役立つデータベース(2)
5			5 医学に役立つデータベース(3)
6			6 医学に役立つデータベース(4)
7			7 インフォマティクス技術とツール(1)
8			8 インフォマティクス技術とツール(2)
9			9 実験支援用インフォマティクス(1)
10			10 実験支援用インフォマティクス(2)
11			11 インフォマティクスによるゲノム医学(1)
12			12 インフォマティクスによるゲノム医学(2)
13			13 インフォマティクスと創薬(1)
14			14 インフォマティクスと創薬(2)
15			15 総合討論と発表

講義担当者承認 ◎

【53-9】平成29年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>最新医学研究コース (Advanced Medical Research)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>鈴木 真奈絵</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>疾患バイオマーカー・標的分子制御学では、現在臨床検査が確立されていない疾患において、ペプチドミクス等の手法により新規バイオマーカー候補を検出し、その有用性を検証して、バイオマーカーとして確立を試みる。また有用なバイオマーカーは病態と密接に関与している場合が多いため、バイオマーカーとして検出された分子を標的とした新規治療法の検討も行う。</p> <p>疾患バイオマーカーは 1) 診断、2) 疾患亜群判別、3) 活動性評価、4) 予後予測、5) 治療効果または副作用予測など、用途により数種類に分類される。いずれも侵襲性の低い手技により検体を採取し、簡便かつ低コストで測定することが望ましい。血液など体液中分子を疾患バイオマーカーとして確立することにより、当目的は達成される。さらに当該バイオマーカーの疾患における分子機構を解明することにより、未知の病因・病態を解明できる可能性がある。この分子機構中より治療標的分子を選別し、新規治療を確立することも可能である。特にリウマチ・膠原病を含む自己免疫疾患や、その他の関節関連疾患、免疫異常を来す疾患において、本研究法は病因・病態の解明と用途別臨床検査、および根治治療の確立を、総合的になし得るものである。大学院生には本研究法を通じて、研究の着想と構成、実験手技、結果の解釈と総括、発表法を学んでいただく。分子生物学、ペプチドミクス・プロテオミクス、関節関連および免疫異常を伴う疾患の分子機構等について広く知識を習得すると共に、現在の医学において解決されていない問題点については、自分で研究を計画し実施できる研究能力の取得を目標とする。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ペプチドミクスによる疾患バイオマーカーの探索</li> <li>2. ペプチドミクスによる治療標的分子の検出</li> <li>3. 自己免疫疾患における病態機序の解析</li> <li>4. 関節関連疾患における標的分子の制御</li> <li>5. ワクチン治療による感染防御機構の解析</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>講義前には、指定教科書や参考論文、インターネット等より、シラバスの内容を確認し予習すること。講義中は、聴講のみでなく、積極的に質問し意見を述べて、科学的なものの見方・考え方を身につけるよう努力すること。そのためには、講義前の準備で疑問点を整理しておくことが必要である。講義後は反復して復習し、疑問点が生じれば担当教員に質問するなどして、学習した内容を身につけること。また参考論文を読むことにより、学習した内容が実際の研究でどのように用いられているのか、応用して理解することが重要である。</p>

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	分子生物学総論 I		必修/選択	必修
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	バイオマーカー探索に必要な分子生物学の知識を習得する。			
講義計画	生命活動における蛋白質の機能、バイオマーカーとしての蛋白質を解説する。			
達成目標	分子生物学の概要を理解し、蛋白質の生成と断片化の過程を説明できる。			
教科書・参考書	細胞の分子生物学 第5版 (ニュートンプレス)			
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について、指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	原核生物と真核生物 1		1	小蛋白質 1
2	原核生物と真核生物 2		2	小蛋白質 2
3	セントラルドグマ 1		3	小蛋白質 3
4	セントラルドグマ 2		4	蛋白質断片化と酵素 1
5	染色体と遺伝子 1		5	蛋白質断片化と酵素 2
6	染色体と遺伝子 2		6	蛋白質断片化と酵素 3
7	転写 1		7	受容体とそのリガンド 1
8	転写 2		8	受容体とそのリガンド 2
9	転写 3		9	受容体とそのリガンド 3
10	翻訳 1		10	シグナル伝達 1
11	翻訳 2		11	シグナル伝達 2
12	翻訳 3		12	シグナル伝達 3
13	翻訳後修飾 1		13	総合討論と発表 1
14	翻訳後修飾 2		14	総合討論と発表 2
15	翻訳後修飾 3		15	総合討論と発表 3

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	分子生物学総論 II		必修/選択 必修
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	分子生物学の主な実験手法を理解する。		
講義計画	分子生物学の主要な実験手法および基礎的な実験手技を解説する。		
達成目標	分子生物学の基本的な実験手技を説明できる。		
教科書・参考書	新・ラボマニュアル遺伝子工学 (村松正實、丸善出版、2003)、 バイオ実験イラストレイテッド①～⑥ (秀潤社)		
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価。		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	臨床検体からの細胞調整 1	1	蛋白質抽出法
2	臨床検体からの細胞調整 2	2	SDS-PAGE
3	細胞培養法 1	3	ウェスタンブロット法
4	細胞培養法 2	4	フローサイトメトリー
5	DNA 抽出法	5	細胞・組織免疫染色
6	genomic PCR 法	6	共焦点レーザー顕微鏡
7	サザンブロット法	7	組換え体の作製 1
8	DNA シークエンス法	8	組換え体の作製 2
9	RNA 抽出法	9	蛋白質発現 1
10	cDNA 合成法	10	蛋白質発現 2
11	RT-PCR 法	11	蛋白質精製 1
12	real time PCR 法 1	12	蛋白質精製 2
13	real time PCR 法 2	13	総合討論と発表 1
14	ノーザンブロット法	14	総合討論と発表 2
15	siRNA 法	15	総合討論と発表 3

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	分子生物学概論 実習(I)		必修/選択	必修	
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866		
単位数	1 単位(前期・後期)	履修年次	1 年		
テーマと目的	分子生物学の基本的技術、遺伝子組換え技術を実習する。				
講義計画	核酸の定量、標識、抽出、cDNA 作製、遺伝子のスクリーニングとクローニング、遺伝子の増幅と塩基配列血清、蛋白質解析などを実際に行う。				
達成目標	1. DNA を取り扱う分子生物学的方法とその原理を理解し、説明できる。 2. 特定の遺伝子 (DNA) を抽出・増幅法とその原理を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	1. 細胞の分子生物学 (Bruce Alberts (著), 中村 桂子 (翻訳), 松原 謙一 (翻訳)、ニュートンプレス、第 4 版、2004) 2. バイオ実験イラストレイテッド〈1〉分子生物学実験の基礎 (細胞工学別冊 目で見る実験ノートシリーズ、中山 広樹 (著), 西方 敬人 (著)、秀潤社、1995)				
準備学習(予習・復習・時間)	DNA 解析を行った医学論文などを読み、不明な点を抽出しておくことが望ましい。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	DNA抽出の実際(1)		1	プライマーの設計の実際(1)	
2	DNA抽出の実際(2)		2	プライマーの設計の実際(2)	
3	RNA抽出の実際(1)		3	塩基配列決定の実際(1)	
4	RNA抽出の実際(2)		4	塩基配列決定の実際(2)	
5	DNAの定量法の実際(1)		5	ベクターの作成の実際(1)	
6	DNAの定量法の実際(2)		6	ベクターの作成の実際(2)	
7	RNAの定量法の実際(1)		7	ベクターの作成の実際(3)	
8	RNAの定量法の実際(2)		8	大腸菌による蛋白質産生の実際(1)	
9	cDNA の作成の実際(1)		9	大腸菌による蛋白質産生の実際(2)	
10	cDNA の作成の実際(2)		10	大腸菌による蛋白質産生の実際(3)	
11	cDNA の作成の実際(3)		11	無生物系蛋白質産生の実際(1)	
12	DNAプローブの作成法(1)		12	無生物系蛋白質産生の実際(2)	
13	DNAプローブの作成法(2)		13	総合討論と発表(1)	
14	PCRの実際(1)		14	総合討論と発表(2)	
15	PCRの実際(2)		15	総合討論と発表(3)	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース	
講義題目	プロテオミクス・ペプチドミクス総論 I		必修/選択	必修
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866	
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	バイオマーカー探索のための、網羅的蛋白質解析法を理解する。			
講義計画	プロテオミクス・ペプチドミクスを含むオミクス研究について解説する。			
達成目標	蛋白質の網羅的解析法について説明できる。			
教科書・参考書	プロテオミクス (メディカルサイエンスインターナショナル 2001)、Peptidomics (Methods Mol Biol 2010)、マスペクトロメリーってなあに(日本質量分析学会 2003)			
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1 時間			
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)
1	オミクスとは		1	2次元電気泳動 1
2	ゲノミクス 1		2	2次元電気泳動 2
3	ゲノミクス 2		3	2次元電気泳動 3
4	トランスクリプトミクス 1		4	ショットガン法 1
5	トランスクリプトミクス 2		5	ショットガン法 2
6	プロテオミクス 1		6	質量分析 MALDI-TOF/MS 1
7	プロテオミクス 2		7	質量分析 MALDI-TOF/MS 2
8	プロテオミクス 3		8	質量分析 MALDI-TOF/MS 3
9	プロテオミクス 4		9	質量分析 LC-MS 1
10	ペプチドミクス 1		10	質量分析 LC-MS 2
11	ペプチドミクス 2		11	質量分析 LC-MS 3
12	ペプチドミクス 3		12	ClinPro Tool 1
13	ペプチドミクス 4		13	ClinPro Tool 2
14	メタボロミクス 1		14	網羅的研究の統計解析 1
15	メタボロミクス 2		15	網羅的研究の統計解析 2

講義担当者承認

Ⓞ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	プロテオミクス・ペプチドミクス総論 II		必修/選択 必修
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	プロテオミクス・ペプチドミクスの臨床研究への応用を学ぶ。		
講義計画	プロテオミクス・ペプチドミクス法の実際について、検体の種類別に解説する。		
達成目標	各種検体を用いた蛋白質の網羅的研究を説明できる。		
教科書・参考書	プロテオミクス (メディカルサイエンスインターナショナル 2001)、Peptidomics (Methods Mol Biol 2010)、マスペクトロメリーってなあに(日本質量分析学会 2003)		
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	末梢血単核球のプロテオーム1	1	血清のペプチドミクス1
2	末梢血単核球のプロテオーム2	2	血清のペプチドミクス2
3	末梢血単核球のプロテオーム3	3	血清のペプチドミクス3
4	好中球のプロテオーム1	4	血清のペプチドミクス4
5	好中球のプロテオーム2	5	血清のペプチドミクス5
6	手術検体のプロテオーム1	6	血清のペプチドミクス6
7	手術検体のプロテオーム2	7	血清のペプチドミクス7
8	手術検体のプロテオーム3	8	血清のペプチドミクス8
9	生検検体のプロテオーム1	9	血清のペプチドミクス9
10	生検検体のプロテオーム2	10	その他の体液のペプチドミクス1
11	培養細胞のプロテオミクス1	11	その他の体液のペプチドミクス2
12	培養細胞のプロテオミクス2	12	その他の体液のペプチドミクス3
13	培養細胞のプロテオミクス3	13	総合討論と発表1
14	動物モデルのプロテオミクス1	14	総合討論と発表2
15	動物モデルのプロテオミクス2	15	総合討論と発表3

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	疾患バイオマーカー総論 I		必修/選択		
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866		
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	疾患バイオマーカーの選定と評価法を学ぶ。				
講義計画	バイオマーカー選定と評価法の過程を解説する。				
達成目標	疾患バイオマーカーの選定および評価方法を説明できる。				
教科書・参考書	Peptidomics (Methods Mol Biol 2010)				
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓢ)
1	疾患コホートの構成 1		1	バイオマーカー候補分子の選定 1	
2	疾患コホートの構成 2		2	バイオマーカー候補分子の選定 2	
3	疾患コホートの構成 3		3	バイオマーカー候補分子の選定 3	
4	症例の選択 1		4	テストセットにおける評価 1	
5	症例の選択 2		5	テストセットにおける評価 2	
6	症例の選択 3		6	テストセットにおける評価 3	
7	臨床データ選定 1		7	未知のコホートにおける評価 1	
8	臨床データ選定 2		8	未知のコホートにおける評価 2	
9	臨床データ選定 3		9	未知のコホートにおける評価 3	
10	トレーニングセットにおける統計解析 1		10	他疾患コホートにおける評価 1	
11	トレーニングセットにおける統計解析 2		11	他疾患コホートにおける評価 2	
12	トレーニングセットにおける統計解析 3		12	他疾患コホートにおける評価 3	
13	トレーニングセットにおけるモデル作製 1		13	総合討論と発表 1	
14	トレーニングセットにおけるモデル作製 2		14	総合討論と発表 2	
15	トレーニングセットにおけるモデル作製 3		15	総合討論と発表 3	

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	疾患バイオマーカー総論 II		必修/選択
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866
単位数	2 単位(前期 1、後期 1)	履修年次	
テーマと目的	バイオマーカー候補として選定された分子の機能解析と制御法を学ぶ。		
講義計画	バイオマーカー候補分子の機能解析と制御のための実験方法を解説する。		
達成目標	標的分子の疾患における機能解析と制御法を説明できる。		
教科書・参考書	別途指定		
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1 時間		
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	バイオマーカー候補分子の同定 1	1	ペプチダーゼの探索 1
2	バイオマーカー候補分子の同定 2	2	ペプチダーゼの探索 2
3	バイオマーカー候補分子の同定 3	3	ペプチダーゼの探索 3
4	断片化ペプチドの由来蛋白質の同定 1	4	標的遺伝子のトランスジェニックマウス 1
5	断片化ペプチドの由来蛋白質の同定 2	5	標的遺伝子のトランスジェニックマウス 2
6	断片化ペプチドの由来蛋白質の同定 3	6	標的遺伝子のトランスジェニックマウス 3
7	ペプチド・蛋白質存在下での細胞培養 1	7	標的遺伝子のノックアウトマウス 1
8	ペプチド・蛋白質存在下での細胞培養 2	8	標的遺伝子のノックアウトマウス 2
9	ペプチド・蛋白質存在下での細胞培養 3	9	標的遺伝子のノックアウトマウス 3
10	培養上清のサイトカインアレイ 1	10	動物モデルにおける標的分子制御 1
11	培養上清のサイトカインアレイ 2	11	動物モデルにおける標的分子制御 2
12	培養上清のサイトカインアレイ 3	12	動物モデルにおける標的分子制御 3
13	培養上清の ELISA 1	13	総合討論と発表 1
14	培養上清の ELISA 2	14	総合討論と発表 2
15	培養上清の ELISA 3	15	総合討論と発表 3

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	免疫異常と標的分子制御		必修/選択		
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	免疫異常を来す疾患と、標的分子によるその制御法について学ぶ。				
講義計画	免疫系の分子機構および自己免疫疾患の分子標的治療について解説する。				
達成目標	自己免疫疾患の分子機構と、分子標的治療について説明できる。				
教科書・参考書	免疫生物学 第7版 (南江堂)				
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	免疫機構の概要 1		1	臓器特異的自己免疫疾患 1	
2	免疫機構の概要 2		2	臓器特異的自己免疫疾患 2	
3	免疫機構の概要 3		3	臓器特異的自己免疫疾患 3	
4	自然免疫 1		4	全身性自己免疫疾患 1	
5	自然免疫 2		5	全身性自己免疫疾患 2	
6	自然免疫 3		6	全身性自己免疫疾患 3	
7	獲得免疫 1		7	免疫異常に関与する分子機構 1	
8	獲得免疫 2		8	免疫異常に関与する分子機構 2	
9	獲得免疫 3		9	免疫異常に関与する分子機構 3	
10	Th1 型免疫異常 1		10	標的分子の選択と制御 1	
11	Th1 型免疫異常 2		11	標的分子の選択と制御 2	
12	Th2 型免疫異常 1		12	標的分子の選択と制御 3	
13	Th2 型免疫異常 2		13	総合討論と発表 1	
14	Th17 型免疫異常 1		14	総合討論と発表 2	
15	Th17 型免疫異常 2		15	総合討論と発表 3	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	骨関節疾患の分子生物学 I		必修/選択 必修
担当教員	加藤 智啓	担当教員連絡先	内線 3866
単位数	2 単位 (前期 1、後期1)	履修年次	1 年
テーマと目的	関節リウマチ・変形性関節症など骨関節疾患の病因病態の分子生物学的理解。		
講義計画	1) 関節構成成分について、生化学的・分子生物学的・細胞生物学的特性を解説する。 2) 正常および病的状態における上記成分の変化についての知見を解説する。		
達成目標	関節リウマチ・変形性関節症などの骨関節疾患の関節病態について、分子生物学的な視点から理解し概説できる。		
教科書・参考書	Orthopaedic Basic Science, 2 <sup>nd</sup> ed. Edited by Buckwalter JA, Einhorn TA, Simon SR: AAOS, 2000.		
準備学習(予習・復習・時間)	上記疾患について少なくとも教科書レベルの知識は確認しておくこと。 1 時間		
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1	関節の構造		1 関節リウマチ(1)
2	骨(1)		2 関節リウマチ(2)
3	骨(2)		3 関節リウマチ(3)
4	軟骨(1)		4 変形性関節症(1)
5	軟骨(2)		5 変形性関節症(2)
6	滑膜(1)		6 変形性関節症(3)
7	滑膜(2)		7 骨粗鬆症(1)
8	関節液(1)		8 骨粗鬆症(2)
9	関節液(2)		9 骨粗鬆症(3)
10	腱と靭帯(1)		10 骨折と骨再生(1)
11	腱と靭帯(2)		11 骨折と骨再生(2)
12	骨格筋(1)		12 骨折と骨再生(3)
13	骨格筋(2)		13 遺伝性代謝疾患と骨異常(1)
14	脊椎		14 遺伝性代謝疾患と骨異常(2)
15	前期総合討論と発表		15 後期総合討論と発表

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	生化学的研究結果解釈学 I		必修/選択 必修
担当教員	加藤 智啓	担当教員連絡先	内線 3866
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	研究結果の合理的解釈を行ない、その要点を発表する。		
講義計画	各大学院生は順次、研究進捗や実験結果を提示し、それに対する自らの解釈とその根拠を発表する。また、他の大学院生の提示する実験結果やその解釈に対して、自らの意見とその根拠を述べる。		
達成目標	実験結果の合理的な解釈とその意義づけを自ら行うことができる。また、提示された実験結果に対し合理的な科学的批判を行うことができる。		
教科書・参考書	理科系のための英語プレゼンテーション技術(志村史夫、Japan Times)		
準備学習(予習・復習・時間)	自らの研究成果の発表素案を作成しておくこと。 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	生化学実験結果の提示(1)	1	同一「結果」の書き方
2	生化学実験結果の提示(2)	2	同一「考察」の書き方
3	生化学実験結果の提示(3)	3	同一「引用文献」の管理
4	生データと統計処理(1)	4	同一論文英語の要点(1)
5	生データと統計処理(2)	5	同一論文英語の要点(2)
6	生データと統計処理(3)	6	査読の要点
7	生データと統計処理(4)	7	査読-批判的に読む(1)
8	実験結果解釈発表と討論(1)	8	査読-批判的に読む(2)
9	実験結果解釈発表討論(2)	9	査読-批判的に読む(3)
10	実験結果解釈発表討論(3)	10	発表と質問(1)
11	生化学・分子生物学論文の書き方	11	発表と質問(2)
12	同一「目的」の書き方	12	発表と質問(3)
13	同一「緒言(introduction)」の書き方	13	後期総合討論と発表(1)
14	同一「材料と方法」の書き方	14	後期総合討論と発表(2)
15	前期総合討論と発表	15	今後の展望

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	生化学的研究結果解釈学 II		必修/選択 必修
担当教員	鈴木真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866
単位数	2 単位 (前期 1、後期1)	履修年次	2 年
テーマと目的	研究結果の合理的解釈を行ない、その要点を発表する。		
講義計画	各大学院生は順次、研究進捗や実験結果を提示し、それに対する自らの解釈とその根拠を発表する。また、他の大学院生の提示する実験結果やその解釈に対して、自らの意見とその根拠を述べる。		
達成目標	実験結果の合理的な解釈とその意義づけを自ら行うことができる。また、提示された実験結果に対し合理的な科学的批判を行うことができる。		
教科書・参考書	理科系のための英語プレゼンテーション技術(志村史夫、Japan Times)		
準備学習(予習・復習・時間)	自らの研究成果の発表素案を作成しておくこと。 1 時間		
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	自験例生化学実験結果の提示(1)	1	復習: 同一「結果」の書き方
2	自験例生化学実験結果の提示(2)	2	復習: 同一「考察」の書き方
3	自験例生化学実験結果の提示(3)	3	復習: 同一「引用文献」の管理
4	続・生データと統計処理(1)	4	復習: 同一論文英語の要点(1)
5	続・生データと統計処理(2)	5	復習: 同一論文英語の要点(2)
6	続・生データと統計処理(3)	6	続・査読の要点
7	続・生データと統計処理(4)	7	続・査読-批判的に読む(1)
8	実験結果解釈発表と討論(1)	8	続・査読-批判的に読む(2)
9	実験結果解釈発表討論(2)	9	続・査読-批判的に読む(3)
10	実験結果解釈発表討論(3)	10	発表と質問: 実践編(1)
11	復習: 生化学・分子生物学論文の書き方	11	発表と質問: 実践編(2)
12	復習: 同一「目的」の書き方	12	発表と質問: 実践編(3)
13	復習: 同一「緒言」の書き方	13	後期総合討論と発表(1)
14	復習: 同一「材料と方法」の書き方	14	後期総合討論と発表(2)
15	前期総合討論と発表	15	今後の展望

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース
講義題目	ワクチン治療と効果判定		必修/選択 選択
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	ワクチン治療における予防効果の詳細を学ぶ。		
講義計画	ワクチン治療の現状と、対象となる病原微生物の亜型に対する効果について解説する。		
達成目標	日本におけるワクチン治療と、対象病原微生物の亜型に対する効果を説明できる。		
教科書・参考書	別途指定		
準備学習(予習・復習・時間)	各講義内容について指定教科書およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1時間		
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容 (出席◎)
1	ワクチンの種類		1 標的分子としてのワクチン 1
2	弱毒生ワクチン		2 標的分子としてのワクチン 2
3	不活化ワクチン		3 標的分子としてのワクチン 3
4	ユニバーサルワクチン 1		4 ワクチネーションによる免疫改変 1
5	ユニバーサルワクチン 2		5 ワクチネーションによる免疫改変 2
6	ユニバーサルワクチン 3		6 ワクチネーションによる免疫改変 3
7	日本におけるワクチンの現状 1		7 各亜型へのワクチン効果-試験管内 1
8	日本におけるワクチンの現状 2		8 各亜型へのワクチン効果-試験管内 2
9	日本におけるワクチンの現状 3		9 各亜型へのワクチン効果-試験管内 3
10	日本におけるワクチンの問題点 1		10 各亜型へのワクチン効果判定-生体内 1
11	日本におけるワクチンの問題点 2		11 各亜型へのワクチン効果判定-生体内 2
12	日本におけるワクチンの問題点 3		12 各亜型へのワクチン効果判定-生体内 3
13	各種病原微生物の亜型 1		13 総合討論と発表
14	各種病原微生物の亜型 2		14 総合討論と発表
15	各種病原微生物の亜型 3		15 総合討論と発表

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	臨床材料における蛋白質研究法		必修/選択	選択	
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	プロテオミクス・ペプチドミクスを主とした蛋白質研究を理解する。				
講義計画	自らの専門分野の疾患を、蛋白質研究により解析する方法を考案させる。				
達成目標	蛋白質の網羅的検出方法としてプロテオミクス・ペプチドミクス、機能解析法として合成ペプチドを添加した細胞培養法・ELISA・ウェスタンブロッティング等を理解する。				
教科書・参考書	Current Protocols in Protein Science (Willy, USA)				
準備学習(予習・復習・時間)	臨床材料を用いた研究論文を数編読み、その特性を理解しておくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	研究背景の把握と問題点の考察 (1)		1	2次元ウェスタンブロッティング法 (1)	
2	研究背景の把握と問題点の考察 (2)		2	2次元ウェスタンブロッティング法 (2)	
3	研究目標および作業仮説の設定		3	蛋白質発現量の差異による解析 (1)	
4	研究の全体計画の設定		4	蛋白質発現量の差異による解析 (2)	
5	この1年の最終目標と研究計画の設定		5	翻訳後修飾の差異の検出 (1)	
6	材料の設定-臨床検体 (1)		6	翻訳後修飾の差異の検出 (2)	
7	材料の設定-臨床検体 (2)		7	多変量解析による検出法 (1)	
8	材料の設定-臨床検体 (3)		8	多変量解析による検出法 (2)	
9	プロテオミクス法 (1)		9	ペプチド量の差異による解析 (1)	
10	プロテオミクス法 (2)		10	ペプチド量の差異による解析 (2)	
11	プロテオミクス法 (3)		11	合成ペプチド添加細胞培養 (1)	
12	ペプチドミクス法 (1)		12	合成ペプチド添加細胞培養 (2)	
13	ペプチドミクス法 (2)		13	Sandwich ELISA による測定 (1)	
14	ペプチドミクス法 (3)		14	Sandwich ELISA による測定 (2)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	蛋白質と免疫		必修/選択	選択	
担当教員	加藤 智啓	担当教員連絡先	内線 3866		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	免疫反応における蛋白質の役割について理解する。				
講義計画	担当教員による講義および学生によるテキストや学術論文の輪読、発表を行う。				
達成目標	1.免疫疾患および免疫異常を伴う病態における蛋白質の役割を説明できる。 2.蛋白質の「抗原性」と、病因との関連について理解する。				
教科書・参考書	免疫学キーノート(シュプリンガー・フェアラー東京)				
準備学習(予習・復習・時間)	免疫学について大学教科書レベルの知識を確認しておくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席④)	後期(回)	内 容	(出席④)
1	免疫系概論(1)		1	自己免疫概論	
2	免疫系概論(2)		2	自己免疫疾患(1)	
3	自然免疫と獲得免疫		3	自己免疫疾患(2)	
4	補体系(1)		4	自己抗原と自己抗体(1)	
5	補体系(2)		5	自己抗原と自己抗体(2)	
6	急性期蛋白質		6	自己抗原と自己抗体(3)	
7	サイトカイン概論(1)		7	腫瘍免疫概論	
8	サイトカイン概論(2)		8	腫瘍抗原(1)	
9	インターフェロン(1)		9	腫瘍抗原(2)	
10	インターフェロン(2)		10	移植免疫概論	
11	ケモカイン(1)		11	移植抗原(1)	
12	ケモカイン(2)		12	移植抗原(2)	
13	成長因子(1)		13	自己免疫疾患最新の話(1)	
14	成長因子(2)		14	自己免疫疾患最新の話(2)	
15	前期総合討論と発表		15	後期総合討論と発表	

講義担当者承認

④

学籍番号	
氏名	

平成29年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	最新医学研究コース		
講義題目	分子生物学特論		必修/選択	選択	
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3866		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	分子生物学の専門的な知識および研究方法を学ぶ。				
講義計画	分子生物学および免疫学・再生医学等の専門的な知識と研究方法を解説する。				
達成目標	他分野の研究における専門的な知識・方法を理解し、説明できる。				
教科書・参考書	別途指定				
準備学習(予習・復習・時間)	指定教科書・参考論文およびインターネット等により事前に準備しておくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	遺伝子多型 1		1	細胞周期 1	
2	遺伝子多型 2		2	細胞周期 2	
3	遺伝子多型 3		3	細胞周期 3	
4	転写因子 1		4	癌遺伝子と癌抑制遺伝子 1	
5	転写因子 2		5	癌遺伝子と癌抑制遺伝子 2	
6	転写因子 3		6	癌遺伝子と癌抑制遺伝子 3	
7	自己抗体 1		7	ES細胞とiPS細胞 1	
8	自己抗体 2		8	ES細胞とiPS細胞 2	
9	自己抗体 3		9	ES細胞とiPS細胞 3	
10	プロテアソーム 1		10	細胞死 1	
11	プロテアソーム 2		11	細胞死 2	
12	プロテアソーム 3		12	細胞死 3	
13	前期総合討論と発表 1		13	後期総合討論と発表 1	
14	前期総合討論と発表 2		14	後期総合討論と発表 2	
15	前期総合討論と発表 3		15	後期総合討論と発表 3	

講義担当者承認

◎